

2004 年度 修 士 論 文

トリノ The Gate プロジェクトにみる都市再生戦略に関する研究
Study on Urban Regeneration Policies of The Gate Project in Turin

笹原 景子
Sasahara, Keiko

東京大学大学院新領域創成科学研究科
環境学専攻 社会文化環境コース

目次

第1章 序論	
1.1 研究の背景と目的	1
1.2 既往研究	2
1.3 研究の方法と論文の構成	3
1.4 日本における先進的まちづくり	5
1.5 EUにおける先進的なまちづくり - EUの都市政策とURBAN PILOT PROJECT (UPP)の概要 -	8
1.6 トリノにおけるUPP 「The Gateプロジェクト」の目的	10
第2章 トリノ市におけるUPP (The Gateプロジェクト)対象地の概要	12
2.1 トリノ市とUPP プロジェクト対象地ポルタ・パラッツォの概要	12
2.2 トリノの歴史的な中心市街地とポルタ・パラッツォ地区の歴史の変遷	18
2.3 The Gateプロジェクト介入以前におけるポルタ・パラッツォ地区の状況	32
2.4 The Gateプロジェクト対象区域の都市マスタープラン	37
第3章 The Gateプロジェクト実行のための組織	40
3.1 The Gateポルタ・パラッツォ計画委員会の設立と機能	40
3.2 市民参加ワークショップ「Fuori Oraio」	42
第4章 The Gateプロジェクトの具体的施策	58
4.1 地区内の経済発展を促進するための取組み	58
4.2 安全ネットワークをつくる取組み	72
4.3 サステイナブルな環境を目指した取組み	76
4.4 空間環境改良を目指した取組み	77
4.5 社会・文化的なつながりをつくる取組み	92
第5章 The Gateプロジェクトの定量的・定性的評価	97
5.1 定量的評価	97
5.2 定性的評価	97
5.3 分析	102
第6章 結	104
参考文献	

第1章 序論

1.1 研究の背景と目的

ひとが住みつづけられるまちとはどのようなものか。

経済活動が活発に行われており、利便性が高い都会的な要素だけでは、人は暮らしてつづけていけない。本来的には、都市の住民が人間的に生きられるまちのことを指すのではないだろうか。都市にひとが住みつづけ、人の生活が維持可能な都市社会を、宇沢¹は「社会的共通資本」としての都市とし、「各人が、その多様な夢と願望に相応しい職業につき、それぞれの私的、社会的貢献に相応しい所得を得て、幸福で、安定的な家庭を営み、安らかで、文化的水準の高い一生をおくることができるような社会」とであると定義している。それはまた、「すべての人々の人間的尊厳と魂の自立が守られ、市民の基本的権利が最大限に確保できるという、本来的な意味でのリベラリズムの理想が実現される社会」でもある。

この考えが実践されている都市に実際に身を置きたいと考え、1年間、イタリアに留学した。イタリアを選んだのは、都市としての歴史が長く、人間復興のルネッサンスの歴史に裏打ちされたリベラリズムが実践されている国であると考えたこと、また、経済的には日本人ほど豊かでもなく、経済の豊かさだけではない本当の豊かさがそこにはあるのではないかと考え、イタリア人的生き方の価値観を学びたいと思ったからである。

実際のイタリア・トリノでの生活は、食文化、音楽、芸術、都市景観などの社会的共通資本は手厚く保護され、お金があまりなくてもまちをぶらつくだけで都市生活を満喫できるものであった。しかし、同時に歴史的中心市街地における、社会問題を抱えた疲弊地区の問題が、緊急に解決しなければならない問題として横たわっているのが、歴史ある落ち着いたトリノのまちの中で、際立っている状況を目の当たりにした。

EU 諸国では 1970 年代からすでに重工業産業などの停滞が都市を衰退させ、失業者問題、外国人移民の社会的排除の問題、貧困問題などが顕在化しはじめていた。無論、トリノもその EU 諸国の 1 つであり、都市問題に対する政策の必要が高まっていた。トリノの歴史的疲弊地区ポルタ・パラッツォでは、近年 EU 支援による都市再生プロジェクトが推進され、地区の治安が改善されたという声が巷でささやかれている。どのようなプロジェクトの戦略により、都市の疲弊地区の問題が改善されたのか。

本研究では、多くのヨーロッパ諸都市が抱える歴史的都心の衰退という普遍的な問題に対し、UPP の補助を得て都市再生に取り組んだトリノを研究事例とし、都市再生の分析を行う。プロジェクト対象地の歴史的文脈と介入以前の状況を踏まえ、プロジェクトの施策とプロセスを分析することで、日本のまちづくりに対する示唆を得ることを目的とする。

¹ 宇沢弘文「経済学と人間の心」東洋経済社、2003

1.2 既往研究

EU都市パイロット事業に関連する主な研究としては次のようなものがある。岡部(2003)²は、EUの都市再生政策の変遷を論じる中で、スペインで実施されたUPPの事例を紹介している。また、福原(2004)³は、UPP事業枠組みを概説するとともに、ベルギーを事例に、事業内容と成果について具体的に論じている。

しかし、トリノの都市発展をテーマにした論文、また、UPPの事業事例を詳細に論じているものは不在である。

² 岡部明子「サステイナブルシティ」学芸出版社、2003

³ 福原由美「Urban Pilot Projectの事業枠組みとケーススタディ アントワープのBOMプロジェクトの場合」

1.3 研究の方法と論文の構成

ポルタ・パラッツォ地区で実行された The Gate プロジェクト介入地区を対象に、プロジェクト委員会が発行している文献調査、プロジェクト委員会へのヒアリング、介入地区の現地見学を行った。帰国後は、委員会局長 Iida Curti 女史へのメールでの質問を継続的に行った。

第1章 序論

- 1.1 研究の背景と目的
- 1.2 既往研究
- 1.3 研究の方法と論文の構成
- 1.4 日本における先進的まちづくり
- 1.5 EUにおける先進的なまちづくり
 - EUの都市政策と URBAN PILOT PROJECT (UPP) の概要 -
- 1.5 トリノにおける UPP 「The Gate プロジェクト」の目的

第1章では、研究の背景でのひとが住み続けられるまちとは何かという問いと定義から、日本のまちづくりの先進事例とおおまかなアプローチを記述する。そして、EU での人が住み続けられるまちを目指した政策である UPP と、それをういて EU 諸都市が抱えている歴史都心再生という普遍的な問題に取り組んできたイタリアのトリノ市を事例に、そのプロジェクトの目的をまとめる。

第2章 トリノ市における UPP (The Gate プロジェクト) 対象地の概要

- 2.1 トリノ市と UPP プロジェクト対象地ポルタ・パラッツォの概要
- 2.2 トリノの歴史的な中心市街地とポルタ・パラッツォ地区の歴史の変遷
- 2.3 The Gate プロジェクト介入以前におけるポルタ・パラッツォ地区の状況
- 2.4 The Gate プロジェクト対象地域の都市マスタープラン

第2章では、トリノ市におけるプロジェクト対象地の位置関係、都市の歴史の変遷、介入以前のプロジェクト対象地区の衰退状況、現在ポルタ・パラッツォ地区に指定されている都市マスタープランなどを明らかにする。

第3章 The Gate プロジェクト実行のための組織

- 3.1 The Gate ポルタ・パラッツォ計画委員会の設立と機能
- 3.2 市民参加ワークショップ「Fuori Oraio」

第3章では、The Gate プロジェクトを運営するポルタ・パラッツォ委員会の設立とその母体、

機能を把握し、具体的施策を行う前に、地区の抱えている問題と提案を話し合ったまちづくりワークショップのプロセスと市民の要望を明らかにする。

第4章 The Gate プロジェクトの具体的施策

- 4.1 地区内の経済発展を促進するための取組み
- 4.2 安全ネットワークをつくる取組み
- 4.3 サステイナブルな環境を目指した取組み
- 4.4 空間環境改良を目指した取組み
- 4.5 社会・文化的なつながりをつくる取組み

第4章では、The Gate プロジェクトの具体的施策を各5つのアプローチごとに整理し、パートナーシップの状況、それぞれの施策の具体的内容を見る。

第5章 The Gate プロジェクトの定量的・定性的評価

- 5.1 定量的評価
- 5.2 定性的評価
- 5.3 分析

第5章では、The Gate プロジェクトを定量的・定性的に評価する。定性的評価は地元新聞記事の検索と学者の発言によるものである。

以上の評価をもとに、The Gate プロジェクトのまちづくりにおいて優れている点を述べる。

第6章 結

以上の分析から、EUのまちづくりとの比較により、日本のまちづくりの問題や示唆を得る。

1.4 日本における先進的なまちづくり

EUにおける人が住みつづけられる先進的なまちづくり事例を調査する前に、この章では日本において先進的といわれているまちづくりを概観し、その特徴を把握する。

1.4.1 上尾市の取組み 共同建替事業でコミュニティ再生

埼玉県上尾市は東京から北へ40km、人口約22万人の都市である。まちづくりの対象となった仲町愛宕地区は、かつては中山道上尾宿として繁栄し、現在も上尾市の中心市街地の一部を成している。

この地区では、時代と共に大幅な人口減少を迎え、高齢化が進むと共に、高齢者単身居住世帯が増え、かつ、接道条件の不良な住宅に老朽化も伴って、生活の不安と不便が高まった。低水準で不安定な居住条件の世帯が集住し、近隣商店街の歯抜け現象を伴ってコミュニティの機能を低下させ、まちの活力が衰えていったことがまちづくりの発端だった。

仲町愛宕地区では、当初行政が掲げた中心市街地の活性化という目標と、これらを実践するための都市型住宅供給、そして住民が終いの住処として住みつづけられるまちを目指したとき、それらをいっぺんに解決に導く答えとして「共同建替え」によるまちづくりのという答えに達した。「住民の手でつくる安心して住み続けられる快適な災害に強いまち」をまちづくりのコンセプトとし、住宅の再建をまちづくりの第一目標とし、再建の困難な状況は住民の協働建替えによって解決することになった。

1.4.2 墨田区取組み 防災まちづくり

墨田区一寺言問地区は墨田区北部の墨田川沿いにあり、向島百花園をはじめ、墨田川七福神の社寺仏閣、料亭、旧跡が存在し、東京下町の観光名所でもある。

関東大震災や東京大空襲を乗り越えてはきたものの、道路は狭く、老朽木造住宅が密集し、地震災害の危険性が高い。近くには、広域避難場所として整備された防災の砦・白髭東団地があるが、地震が発生してもそこに逃げずにすむ市街地と防災コミュニティの形成を進めるため、1985年に防災まちづくりがスタートした。



図 1.1 一寺言問地区の防災まちづくり図（文献 3）

一寺言問のまちづくりは、東京都の防災生活圈モデル事業の対象に選ばれたことがきっかけであった。区の呼びかけに応じた住民有志「わいわい会」と地元住民の総意として街づくり計画をまとめ、区に提出した。それをふまえ、「一寺言問地区整備計画」が策定され、東京都防災生活圈モデル事業及び同促進事業の推進を図った。地元住民組織「一言会」のユニークな活動により、雨水使用の防災装置（路地尊）の整備、環境共生型の広場の整備、学校・公園等の周辺の道路整備などが実現された。最近では、地区内の空家などを利用したイベントなどを開催し、地区再生に一役かっている。

1.4.3 長浜市の取組み - 景観の修復による商業まちづくり

長浜市は滋賀県東北部、琵琶湖の北東部に位置し、かつて豊臣秀吉が築城した時代には、町衆が自治を総括し、城下町には楽市楽座が敷かれ繁栄した。江戸時代には北国街道の宿場町、生糸やちりめんの商業都市として発展を遂げ、明治期には鉄道の開設、国立銀行の誘致など、湖北の中核として栄えた。1975 年以降、地場産業が低迷し、中心商店街の衰退が始まり空店舗数が増加する。この衰退状況は、当時の中心商店街を歩く人が一時間あたり「ひと4人と犬1匹」であったことから読み取れる。

長浜のまちづくりのきっかけとなったのは、1980 年に市民の寄付により「長浜城」の再建が決定し、「出世まつり」と題したさまざまなイベントが行われた。この市民の盛り上がりを受け、元銀行の歴史的建造物であった「黒壁」を改修し、第3セクターのまちづくり会社として設立された(株)黒壁は、まちづくりの起点として多くの店舗や市民組織、コミュニティビジネスを生み出した。現在では年間約200万人の観光客が訪れている。



図 1.2 黒壁の観光マップ（資料 1）

(株)黒壁によって作成され、まちのプロモーション活動に寄与している

1.4.4 内子町の取組み - 歴史的町並み景観のまちづくり

内子町は、松山市の南西 30km に位置し、人口 1 万 2 千人の町である。その市街地は、かつては山地の農産物の集散地として、また、四国遍路の交通の要所として栄え、江戸末期から明治時代にかけては、和紙と木蠟の生産で繁栄した。

歴史的なまちまみの八日市・護国地区は、1976 年から地域づくりの一環として町並み保全に

取組んでいる。内子町の町並み保全活動は、1975年町職員のキーパーソン岡田さんと保存地区の住民が話し合いを重ね、信頼と理解を深めながら次第に住民との合意を得、1978年には町独自の「町並み保全のための助成制度」がつけられた。1980年には木蠟の豪商であった屋敷が保存地区の拠点として「木蠟資料館」に生まれ変わった。そして1982年には重要伝統的建造物群保存地区に、全国で18番目に指定された。

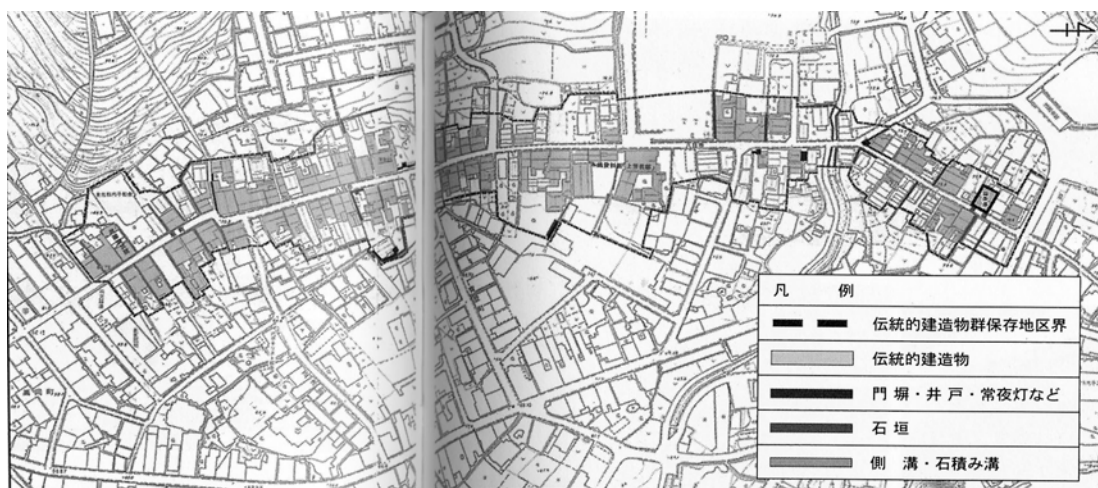


図 1.3 町並み保全計画図（文献 2）

1.4.5 考察

以上、日本の先進的なまちづくりの事例は、それぞれが特徴的なまちづくりのアプローチを持っていることがわかった。おおまかにそれらを類型してみると、下記ようになる。

上尾市の取組み - 共同建替事業による住環境整備型まちづくり

墨田区の取組み - 防災をテーマとした地区再生型まちづくり

長浜市の取組み - 商業活性化をねらいとした改善・修復型のまちづくり

内子町の取組み - 町並み環境保全型のまちづくり

もちろん、それぞれのアプローチは固定的な活動ではなく、他の活動に波及する可能性も持ち合わせているので、それぞれの取組みのタイプを単純に決めつけることはできない。しかし、それぞれのまちづくり活動が、軸となる1つのアプローチをもっていることが上記から分かる。例えば、長浜市の商業まちづくりは観光地として大変な成功を収めている一方、近年では地元商業の活性化を促すべく新たな活動がなされているように、各取組みにおいて、まちづくりに対する新たなアプローチが必要とされている。

以上、日本の先進的まちづくりにおける状況を鑑み、ヨーロッパではどのような先進的まちづくりが行われているのか次章から見ていく。

1.5 EUにおける先進的なまちづくり

- EUの都市政策とURBAN PILOT PROJECT の概要 -

EUの地域政策局では、1980年代後半まで農業政策や経済的後進地域の支援策を中心に行っており、都市部に対する政策はほとんど行っていなかった。しかし、EU総人口の約8割が都市部に居住していること、1970年代からすでに重工業産業など製造業の停滞が都市を衰退させ、失業者問題、社会的排除の問題、貧困問題などが顕在化しはじめたことから、都市問題に対する政策の必要が高まった。

このような社会状況から、EUの地域政策局では、1988年から構造基金の欧州地域開発基金（Europe Regionale Development Fund）を倍増し、都市政策に取り組んでいる。構造基金の先進的取組みに割り当てられる約1%の基金枠から、1989年にUrban Pilot Project（UPP）が立ち上げられ、都市政策を支援してきた。UPPは都市問題に照準を合わせた初のEUの補助事業である。これまでに、UPP（1989-1993）、UPP（1995-1999）、URBAN（1994-1999）が実施され、現在URBAN（2000-2006）が実施中である。（表1参照）

UPPは、公式的にプロジェクト化する前の1990年に、ロンドンとマルセイユへの実質的な支援を開始し、その後33の都市パイロット事業が推進され、約1億ECUが投入された。UPP

表1 地域政策局による都市再生支援事業

事業名	実施期間	基金枠	実施都市数	主な目的
UPP	1989-1993	構造基金 Innovative Measures (先進的取組み)	33都市	革新的都市再生手法の創出 幅広い都市問題の解決
UPP	1995-1999		26都市	革新的手法の都市発展事業の開発
URBAN	1994-1999	構造基金 Community Initiatives (共同体主導)	118都市	社会的・環境的・経済的社会的問題の解決
URBAN	2000-2006		70都市	中小都市の支援と都市再生事例の共有

では、「社会的・経済的衰退、不十分な土地利用計画、歴史地区の荒廃、研究調査と開発計画間の連携の不在、中小企業問題、工場跡地問題」など、幅広い都市問題の解決を目指した。

実験的に行われたUPPに手ごたえを得て、1995年からUPPが実施された。段階的に行われたUPPと異なり、UPPでは地域総局が直接都市に呼びかけて、革新的な手法の都市発展事業を募集した。UPPではあらかじめ国別の枠を設定せず、都市の規模を問わず、自治体のイニシアティブで応募できる方式をとった。UPPの主旨を発展させてサステナビリティの方向性を明確に提示し、「交通渋滞から老朽化した建造環境や経済不振まで幅広い都市問題に対して、ハード面のインフラ整備と環境・社会・経済支援を連携させた都市戦略を設定して、サステナブルな発展と市民生活の質の向上をもたらす」革新的な試みが求められた。

UPP 募集時にあって、以下の 10 のテーマが EU により提示された。

大都市および中都市の郊外で、前例のない手法を用いて都市計画的に都市の空間環境を改善する

文化的、歴史的な優先を見出し中都市を発展させる

歴史中心地区や衰退地区の再生。新規ビジネスを興す一方で、既存の生業（近隣商店や手工業などの中小事業者）を強化する。職業訓練、建物の修復、環境改善、治安の向上を同時に進める

既存の用途を失った市街地に対する取組み。新たな用途に転換し、現在求められている市民のための都市基盤を提供する。鉄道や駅舎周辺の疲弊地区の利便性を改善する

マイノリティに属す人々を社会的・経済的に取り込む。異なる主体間のパートナーシップを確立し、市民参加を促進して、誰もが同等に社会参加できる機会を与える

公共スペースや緑地を新規に整備し、環境を改善する。廃棄物処理やリサイクルなどに供する施設や、レクリエーション活動の場となる施設を提供する。クリーンなエネルギーを活用し、エネルギー消費を減らす

地理的に不利な地域で、建築的、社会的に価値のある建物の保存に取り組む

公共移動手段と駐車場をネットワークで運営する。経済的にハンディキャップを負った孤立したところが移築から労働市場へのアクセスを改善する開発戦略を包括的に行う

情報技術を駆使して都市機能を改善し、経済発展を促す

先進的な対策を実践するために組織を見直し、法的環境を整える

次章からは、多くのヨーロッパ諸都市が抱える歴史的都心の衰退という普遍的な問題に対し、UPP の補助を得て、都市再生に取り組んだイタリアのトリノを事例として取り上げ、その都市戦略を明らかにしていく。

1.6 トリノにおけるUPP 「The Gate プロジェクト」の目的

UPP の募集時に、EUから10のテーマが提示され、トリノでは、これらの項目の中から
メインテーマに

歴史中心地区や衰退地区の再生。新規ビジネスを興す一方で、既存の生業（近隣商店 や手工業などの中小事業者）を強化する。職業訓練、建物の修復、環境改善、治安の向上を同時に進める

マイノリティに属する人々を社会的・経済的に取り込む。異なる主体間のパートナーシップを確立し、市民参加を促進して、誰もが同等に社会参加できる機会を与える

サブテーマに

公共スペースや緑地を新規に整備し、環境を改善する。廃棄物処理やリサイクルなどに供する施設や、レクリエーション活動の場となる施設を提供する。クリーンなエネルギーを活用し、エネルギー消費を減らす

情報技術を駆使して都市機能を改善し、経済発展を促す

を設定している。トリノは、1996年に「The gate living not leaving（ポルタ・パラッツォ地区から離れないで住みつづけるために）」²と題し、ポルタ・パラッツォ地区の生活・労働条件の改善とマイノリティに属する人々を社会的・経済的に取組むことをメインテーマとし、欧州地域開発基金の都市パイロットプロジェクトに応募した。計503都市の応募の中、トリノはUPP対象26都市の1つとして選定され、欧州地域開発基金の先進的取組みのフレームワークから2,582,300ユーロ（約3億円）の補助金を受けている。ヨーロッパでの先進事例となる革新的なアプローチ・方法を利用して、公共と民間のさまざまな主体を巻き込み、地区への投資の自由な波及効果を生み出すことを目的としている。

なぜトリノでは「Living not leaving」という副題の都市再生が行われたのだろうか。その理由はプロジェクト対象地の歴史的文脈に隠されていると考えられる。地区の位置、特徴とともに歴史的変遷を第2章で、第3章ではThe Gate プロジェクトの実行のための組織、第4章ではThe Gate プロジェクトの具体的施策の内容について見ていく。

² 「ポルタ・パラッツォ:Porta Palazzo」のPortaは英語ではGateという意味である。ポルタ・パラッツォ市場及びその周辺地区に関する都市再生事業であるためThe Gateというプロジェクト名になった。ポルタ・パラッツォプロジェクトと呼ばれるときもあるが、本論ではThe Gateプロジェクトと統一する。

第1章参考文献

- 文献1 宇沢弘文「経済学と人間の心」東洋経済社、2003
- 文献2 (社)日本建築学会「まちづくり教科書第1巻 まちづくりの方法」丸善、2004
- 文献3 佐藤滋他「住み続けるための新まちづくり手法」鹿島出版社、1995
- 文献4 岡部明子「サステイナブルシティ」学芸出版社、2003
- 文献5 山谷明「防災まちづくり実践地区探訪 東京のインナーシティを歩く」『造景14』建築資料研究会、1998
- 文献6 山本修哉「向島の密集市街地とまちづくりの取り組み」『造景32』建築資料研究会、2001
- 文献7 福川裕一「ぼくたちのまちづくり 商店街を救え」岩波書店、1999
- 文献8 矢作弘「都市はよみがえるか 地域商業とまちづくり」岩波書店、1997
- 文献9 八甫谷邦明「まちのマネジメントの現場から 自己変革するまちづくり組織」学芸出版社、2003
- 文献10 西川芳明他「市民参加のまちづくり NPO・市民・自治体の取り組みから」創成社、2001
- 文献11 川村健一他「サステイナブルコミュニティ 持続可能な都市のあり方を求めて」学芸出版社、1995
- 文献12 (社)日本建築学会「まちづくり教科書第6巻 まちづくり学習」丸善、2004
- 文献13 宇沢弘文「社会的共通資本」岩波新書、2003
- 文献14 宇沢弘文「ゆたかな国をつくる 官僚専権を超えて」岩波書店、1999
- 文献15 Commissione Europa (2000) “Progetti pilota urbani Serie, 1997-1999”
- 資料1 第1回地域再創生「いいまちづくりフォーラム」 - 「(人とまちを繋ぐ)新しい価値観の創造へ」 - NPO地域再創生プログラム、2004年11月17日

2.1 トリノ市とプロジェクト対象地ポルタ・パラッツォの概要

2.1.1 トリノ市の概要¹

トリノはイタリア北西部、ピエモンテ州の州都である。ピエモンテ州はスイス、フランス国境に接しており、隣国に影響を受けながら独自の文化を築き上げてきた。広域圏人口は約130万人で、イタリア第4の大都市である。イタリアの豊かな穀倉地帯の源となっているポー川の西側に位置している。

そのルーツは古代ローマ時代以前に遡り、リグリア民族のタウリーニ人(Taurini)によって、ドーラ川とイタリア最大のポー川の合流する地点に建てられたのが起源である。古代ローマ植民地時代には、紀元前29年頃、アウグストゥス(Augusto)によって碁盤の目の都市が再建され、「ユリア・アウグスタ・タウリノルム(Julia Augusta Taurinorum)」と命名された。トリノの名は、この「タウリノルム」に由来している。

1536年から1562年までフランスに占領された後、17世紀のサヴォイア家に帰属した。その

安定した支配下で、都市整備と建築活動が進み、現在も街中に残るバロック様式の街並が造られ、バロック都市として繁栄を遂げた。以後、数々の都市計画が実行されるにあたり、トリノは直角に交差する網目のような通りに順応し、



図 2.1 トリノの位置(文献1から著者作成)



図 2.2 古代ローマ時代のトリノの俯瞰図(文献2)



写真 2.1 トリノの歴史的な中心市街地とポー川(文献2)

¹ 2.1 では主に、現場見学調査、市当局・ポルタ・パラッツォ計画委員会へのヒアリングを参考にまとめたものである。

2.1 トリノ市とプロジェクト対象地ポルタ・パラッツォの概要

ピエモンテのバロック精神に配慮しながら、公国、ついで王国となった地方国家の首都としての機能に適したまちづくりをすすめることとなる。

1720年、サヴォイア家はスペイン継承戦争でサルデーニャ島を手に入れ、サルデーニャ王国と名を変えた。リソルジメント(イタリア統一運動)は、トリノを活動の本拠地をし、1861年、サルデーニャ王国の主導の下、イタリア統一が実現した。リソルジメント後、トリノはイタリアの首都となったが、その寿命は3年と短く、すぐにフィレンツェに遷都された。

遷都により、行政機能を失ったトリノはしばらく停滞するが、アルプスの山を懐に抱き、豊富な水力資源によるエネルギーを活かし、18世紀末には、あたらな工業地帯としてよみがえり、現在に至っている。1890年代から電力を利用した機械、金属産業がさかんになり、同じ頃フィアット社が創業された。現在ではイタリアの自動車産業の中心となったフィアット(FIAT)社の工場がまちの南西に広がり、トリノはミラノに次ぐイタリア第2の工業都市である。

イタリアの自動車生産の90%を占める自動車産業以外にも、スローフードやチョコレートの発祥地として世界的に有名であり、最高級ワインであるバローロやバルバレスコなどで有名なワイン産業などの製菓産業などの中心地でもある。また、2006年の冬季オリンピックの開催地として選ばれている。

2.1.2 トリノ歴史的な中心市街地とThe Gate

プロジェクト対象地の位置関係

The Gate プロジェクト対象地区は、トリノの歴史的な中心市街地（centro storico）の北部に位置している。オープンマーケットが開かれている共和国広場（Piazza della Repubblica）は、ローマ時代に建設された城壁の門であったパラティーナ門（Porta Palatina）がほど近くに立地していることから、ポルタ・パラッツォ（Porta Palazzo）と呼ばれ、市民に親しまれている。この市場の規模は51.300 m²であり、ヨーロッパで最大規模の屋外市場である。

なお、プロジェクト対象地区はポルタ・パラッツォ地区とドーラ川流域に発展したボルゴ・ドーラ（Borgo Dora）地区からなる。



図 2.3 プロジェクト対象地区と歴史的な中心市街地の位置関係図（縮尺 1:10,100）
（文献 2 から著者作）

2.1.3 プロジェクト対象地ボルタ・パラッツォ地区の概要



図 2.4 プロジェクト対象地区と地区内にある各種主要施設の位置

- 共和国広場（ボルタ・パラッツォ市場）
- 旧兵器工場（ex-Arsenale）
- サン・ピエトロ旧墓地（San Pietro in Vincoli）
- コットレンゴ慈善施設（Cottolengo）
- トリノ・チェレス間旧駅舎（ex-stazione Torino-Ceres）
- サンタ・クローチェ教会街区（isolati Santa Croce）

2.1 トリノ市とプロジェクト対象地ポルタ・パラッツォの概要

ポルタ・パラッツォ市場の営業時間は、平日午前8時から午後2時まで、土曜日は午後6時まで（日曜日は12月を除き休業）で、土曜日は平均10万人もの買物客が足を運ぶ。市場には4つの天蓋付きの市場と多数の屋台・陳列台からなり、1,000人以上の行商人・商店が商業活動を行っている。取り扱っている品物は、食料品、衣料品、生活用品など多岐にわたる総合的なマーケットで、小売価格も非常に安く、今



写真 2.2 市場・食料品部門の様子（筆者撮影）

日に至るまで長らく市民の胃袋となってきた。営業終了時には、毎日約15トンの廃棄物が排出される。

一方、ポルタ・パラッツォ市場周辺地区は、約8千人が居住し、トリノにおいて外国人居住者が最も集中している地区である。さらに、国内・国外移民の移住、失業問題などが原因となり、犯罪率が高いという問題を抱えている。



写真 2.3 市場の陳列台の様子（筆者撮影）

2.1.4 オープンマーケットであるための空間管理の難しさ

天蓋のない屋外市場であるがゆえに、毎日営業時間後には、無数にあった屋台が全て撤去され、にぎわっていた広場は更地と変す。更地となった広場が使用されない時間が長く、昼間と夜間の利用に大幅な差があるために、夜間は人が全くいない。人がいたとしても、移民の若者グループが集会を開いていたりと物騒な雰囲気醸し出していることが多々ある。このように夜間の空間上の管理が難しいという特徴がある。



写真 2.4 毎日繰り広げられる屋台の解体作業風景（筆者撮影）

また市場の営業終了後は、毎日大量に排出される廃棄物（特に生ごみ）により、見た目も衛生上も汚く、市場のイメージを引き下げる原因となっている。



写真 2.5 大量のごみが散乱する屋台撤去後の広場の様子（筆者撮影）

2.2 トリノの歴史的中心市街地とポルタ・パラッツォ地区の歴史の変遷

ポルタ・パラッツォ、ボルゴ・ドーラ地区は、ポー川とドーラ川の流域に発展した集落であり、必然的にトリノの地理的位置に関して考慮に入れる必要がある。ポー川とドーラの川岸 (Dora Riparia) が合流するこの地点は、周囲の土地を含め、古代ローマの居住、また交通の要所としての発展を支えた重要な水源がある場所である。

古代都市はドーラ川と比較して位置的に低地であるため、地面より高く造られた河川の段丘に生じた。水車の生産活動と連携した水の急降下を最大限に利用して、中世から、水力によるエネルギーの生産が始まった。

このような粉躰き機の設置とその発展についての分析として、M. ボナルディは著書(文献1)の中で、「郊外の風景の水路とその機械」を見ることによってトリノの風景に起こった変化が効果的に理解できる、と述べている。

ドーラ川に関する設備の存在は、6世紀から始まっている。ドーラ川の水力発電は、川から直接には生じさせたものではなく、アクアリア (*aqualia*) と呼ばれる人工水路で水の流れをうまく制御していた。このような水路は都市の清掃の操作と城壁内の畑への灌漑を可能にするために中心街まで到達していた。



図 2.5 1823年頃のドーラ川 (文献4)

水力発電の装置 (発電装置と多数の水路を含める) が集中していた都市北部の自然起伏地に対応し、行政と製粉業者の建物が城壁の内部に位置付けられていた一方、14世紀半ばにはすでに城壁外に地域が存在していた。前述した形態論の動機のために、中世における他の中小都市のように萌芽期の産業拠点が変化を遂げる一方で、ポルタ・パラッツォ地区の粉躰き設備は郊外の拡張を牽引する要素にはならず、独立した生産の中心地としてとどまった。14世紀後半は人口と経済の再興を極めた。実



図 2.6 1706年当時のトリノ鳥瞰図 (文献5)

- 左上を流れるのがポー川、手前がドーラ川

際に、ポルタ・パラッツォ北部の田園地帯に、製紙産業のため水力設備の配置転換が初めてなされている。また 1500 年には、中心街に関わる全てのサービスが、ドーラ川の水車の最も重要な生産活動であった製粉業からの動力で成り立っていた。

16 世紀

フランス統治期（1536 年～1562 年）には、要塞の建築と後述の城壁外の村の破壊が都市を形作ることになった。Comili は「田舎と比べて、都市の生産活動の危機、居住の部地理的・機能的な分離プロセスは 16 世紀の典型である」（文献 3）と述べている。

次代のエマニュエーレ・フィリベルトの王権時代（1563～1580）は、トリノにおける政治の再構築、政治戦略、行政管理の 3 点を中心に据え、水車や水路からなるエネルギー生産地区はまちの北西地区に集中したままとどまった。また 1800 年末期まで、こうした生産設備の新設に関して立地を選択できる権利はトリノの経済に一定して残ることとなった。

17 世紀

1600 年代、カルロ・エマヌエーレ 1 世（1580～1630）の命により、丘陵と水路がある都市の北側の産業地域は除外して、古代ローマ時代の設計案に南側の地区に焦点を当てた都市の拡張が選択された。1618 年、サンフロント出身の建築家エルコール・ネグロが要塞内部、全橋梁、トリノの街、生産的地区、食料調達のために使われる全道路（つまりドーラ川に架かる橋と街の水車も）を含めた要塞拡大計画案の作成を委任された。（図 2.7）計画は街の南部地区でのみ実現され、ヴィットーリオ・アメデオ 1 世の統治期（1630～1637）に、カルロ・エマヌエーレ 2 世（1640/1675）に従事する技術者カルロ・モレッロの設計により、ポルタ・ヌォーバ要塞の角から突然要塞の方向を変えるため、またポー川から後退させるために要塞の変更が決定された。（図 2.8） 1673 年に使用開始された要塞

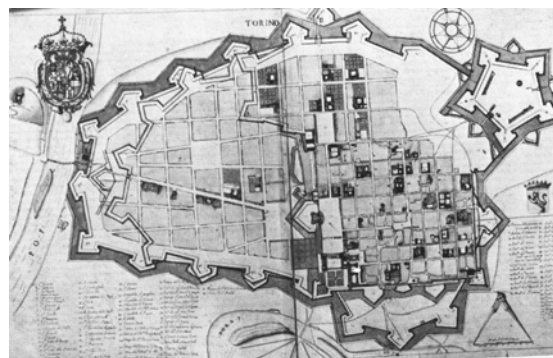


図 2.7 要塞拡大計画案（文献 4）

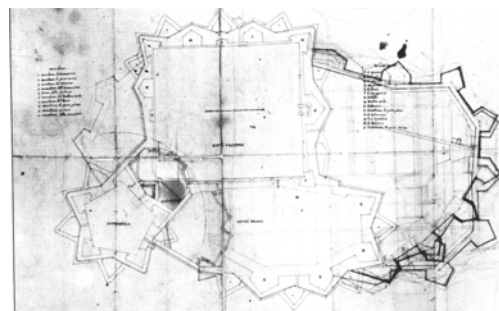


図 2.8 トリノ南部の要塞拡張計画図
（文献 4）

のシステムからポー川、ドーラ川ならびに都市外部の郊外地区（つまり、ドーラ川沿いの産業が発達した全地区）が除外された。地区北部に丘陵があることと産業地区での生産構造の強化は、実際には住居の新築に対する強い抵抗の要因として解釈された。代替可能なモデルとして、1673年の前出のサンフロントと同じく、カノニコ・ロゼッティによる要塞の内部と北西の産業地区、エネルギー生産と水の供給のための水路開設を組み入れて提案された。この計画の実現は確信的にトリノの地区南部の拡大に貢献していたと言える。

18世紀

18世紀初頭ヴィットーリオ・アメデオ2世の統治下において、都市の拡張は都市内水供給システムが産業の発展とともに重要性を増したため、都市西側地区の要塞正面を完成させる要求は新たな水路事業計画の必要性をもたらした。つまり、水路とアクセス道路に修正を加える必要があったのである。新しい要塞建設事業の水路への干渉により、水車は移動させられることとなった。1706年には、西部方向の防御のための要塞建築事業が完成した。

1700年代のトリノはバロック様式時代の典型である、都市要塞の拡張により拡大した規模の都市計画において、歴史的な中心市街地における物理的・機能的な修復事業が特徴である。フィリッポ・ユヴァーラの図は新たな都市の概念を領域内に位置付け、彼による計画は全てが構想されたタウンプランニングの役割を果たしている。（図2.9）

都市西側の入口の整備事業が終わり、碁盤の目の軍事都市が実現化した後、1729年にユヴァーラはポルタ・パラッツォ地区と街への北側のアクセス道路の改修を提案した。ユヴァーラは、曲がりくねった道路の設計図や、彼の計画に拘束力をもったサン・ドメニコ教会やサン・パオロ教会のような、先在する遺跡の動かしようのなさなど、クリアランスできない中世建築事業の困難性に向き合わねばならなかった。街の象徴としての市民の塔と市庁舎は、ユヴァーラが明示した北門の重要な2中心地、かつ、その当時の「中世の時代を表す存在 *dimessa connotazione medievale*」（文献3）であり、都市がポー

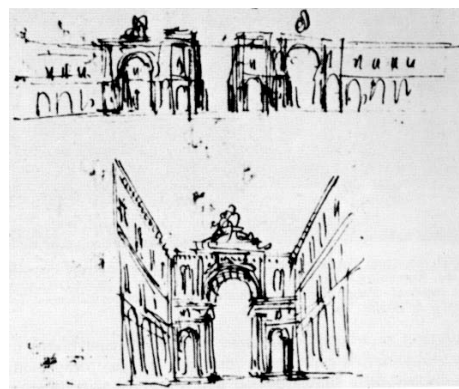


図2.9 フィリッポ・ユヴァーラによるポルタ・パラッツォの計画図案(文献4)

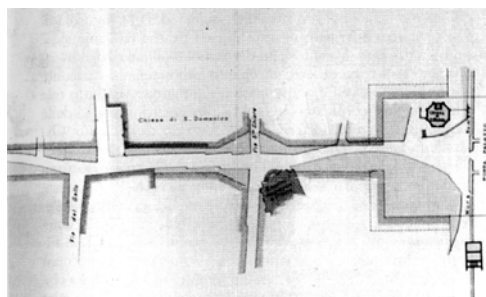


図2.10 ユヴァーラによるポルタ・パラッツォへの道路の直線化事業図(文献5)

川流域の新たな土地に対して表現しようとした新しい都市イメージにふさわしくなかったのである。(図2.10)

1・2世紀に渡りポルタ・パラッツォ地区において特に発展したのは、交易の場であるエルベ広場に近く、輸送・交易の商業通りとして特徴付けられた都市とその近郊、つまり現在のパラッツォ・ディ・チッタ広場とポルタ・ヴィットーリア、さらに城壁の外部にあったモラッシとボルゴ・ドーラの農業地区と産業地区である。ゆえにヴィットーリオ・アメデオ2世は、ポルタ・パラッツォの正面にアルミ広場を造り、より交通の流れをよくするための拡張計画を考案した。

ユヴァーラの広場における計画は2つのポルティコと街路に面した2つの街区のみが1734年に実現されるに至った。ユヴァーラのこの事業は一旦停止され、中断されることとなったが、この事業は産業地区において地代収入の上昇の起爆剤となり、建物の価値が上昇することとなった。

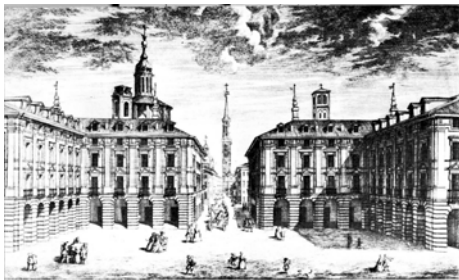


図2.11(上) 1749年ポルタ・パラッツォ広場から中心市街地を見る

図2.12(下) 現在、ポルタ・パラッツォ広場から中心市街地を見る

- 250年経った今も、ほとんど風景が変わっていない。(文献4)

18世紀後半のアーヘンによる統治(1748)は平和な時代の到来をもたらした。この時代のおかげで、1500年代につくられた城壁外の村々(特にボルゴ・ドーラ)は発展し、「都市と田園」というかつての二分法は影をひそめ、城壁外の集落は今や常設の居住地区と化した。もはや都市内の建築事業が未完成のまま城壁外への拡大することになったこの状況は、「建築事業が終了した *oeuvre architecturale achevée*」と記されている。(文献3)

1755年のカルロ・エマヌエーレ3世の統治下においては、ボルゴ・ドーラが明確に産業の面で特殊化することを認可して、有害または都市の威厳に相いれないとみなされる手工業活動が城壁外に移転する決定がなされた。同年、ドーラ・グロッサ地区の介入に対し1736年に公布された法令に基づいて、ポルタ・パラッツォ地区の長期建設に、地代上昇に関する建築の改修法が制定された。1700年代後半は、中世の典型的な小規模地主から、戦争や農業の危機的状況のため、建築物への投資によって新たな地代収入源を得ようとしていた宗教団体や大資本家などの大地主にとって替わられた。ポルタ・パラッツォ地区の改修事業を統制していた規律は、道路の改修と拡張に加えて、建築物のファサードの改修も規定していた。このような介入の可能性は投機的な状況の発端となった。この再整備事業では、背景を整備することだけでなく、主にウイングの合理化と道路に面した街区の正面全てを密着させ土地の集中的な使用が実現された。

1600年代末期にはボルゴ・ドーラの産業地区の形成過程においては、続く建築の堆積や変遷に結びついたボルゴ・ドーラの乱開発にもかかわらず(17世紀末期まで、工場などの「労働のための建築」は、まだその建物がもつ性質とそれに配慮した計画がなされていなかった)、水車の構造補強もユヴァーラによる簡素化の計画の影響を受けている。

19世紀初頭、ナポレオン支配時代

19世紀のフランスによる支配は、都市空間の概念に新たな生命を吹きこむこととなった。前のサヴォイア家の支配時代と比較して、よりヒエラルキーや障害が少なく、都市の概念を「拡張」に据えた。公益の概念のもとに、まさに土地計画に基礎を置き、ナポレオンは都市の拡張のため城壁の撤去、都市へ入り口である古い門の取り壊し、道路の拡張(周辺道路の通り抜けができること)を目指し、公共のプロムナード(*promenades publiques*)の実現と

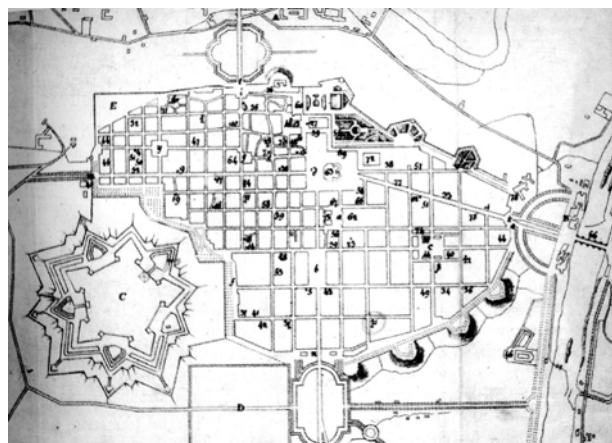


図2.13 1814年、城壁撤去後、都市美化計画後のトリノ(文献5)

街路樹の植樹を計画した。

1809 年に、古い門の撤去によって生まれた空間を結合し、4 つの大きな広場 (grandes place) をつくる事業とともに、都市美化計画 (Plan Général d'Embellissement) の概略が示された。またこの計画は都市の主要幹線道路に対応して、広場が都市への新たな入口となるよう決定されている。また、ポルタ・パラッツォに関しては、エクセドラ (回廊のある半円形の広場) が付いた 8 角形の植樹された大広場は、ユヴァーラの計画した地区とポルタ・パラッツォの広場の主軸に合わせて配置することが計画された。ナポレオン政府によってイタリア通り (Rue d'Italie、現在のジュリオ・チェザレ大通り) とイタリア広場 (Place d'Italie、現在の共和国広場) がそれぞれについて再び指名され、広く新しい並木道をつくるために、イタリア通りは延長される計画がなされた。この延長事業は、新しい橋が建設されたドーラ川を渡りきり、現在のレジ・ナ・マルゲリータ大通りに交差するまでの範囲が対象であった。

19 世紀中期における都市の復興

ナポレオン統治下に続くサヴォイア家の復興の時期において(1814/1821)、G.ロンバルディにより制定された 1817 年の都市基本計画 (図 2.14) は 1809 年の都市美化計画の方針を再確認し、ポルタ・パラッツォの北門にあわせ、エクセドラが付随していない 8 角形の植樹された大広場計画が再提案され、現在のレジ・ナ・マルゲリータ通りに至るまで、グリッド状の歴史的地区を拡張するとともに、かつての要塞を越えて都市の拡張が決定されることとなった。

ロンバルディの計画案は 1700 年代の建築物群の新建物への視覚的調和を図るために、ユヴァーラの設計による建物を考慮して、新建築物の高さを相対的に低く調和させた。

当時、1700 年代に造られた城壁外の都市北西部の新街区に (現在のボルゴ・ドーラ地区)、多数の宗教・社会福祉・サービスに関する建物が設置されている。

カルロ・フェリーチェ王の統治時代 (1821/1831)、建築家モスカ (Mosca) はドーラ川に新しい橋梁の建設を計画した。(図 2.15) この橋は、以前、ロンバルディがドーラ川から

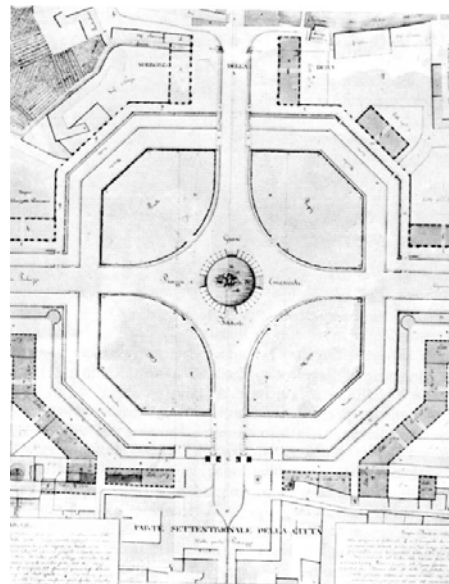


図 2.14 1819 年ロンバルディによるエマニュエレ・フィリベルト広場 (現在の共和国広場)(文献 4)

伸びる区間を一直線に改め、道路側の両側に10街区の建設を可能にするために、都市の外と橋との高低差を同じにする堤防建設の提案に基づいており、45メートルに及ぶ単体の石から成っている。また、この地区に対する民間投資の興味が欠如している点

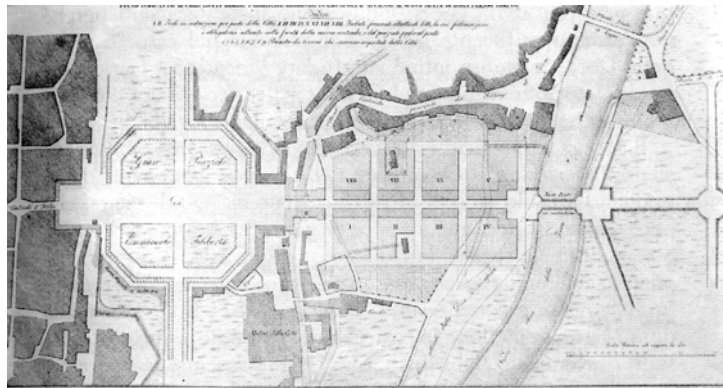


図 2.15 1825 年、モスカ (Carlo Mosca) の橋へのアクセス道路計画 (文献 5)

については、歴史的に産業的・職人的な地区であったためと言われている。投資の不足のため、10街区の提案のうち、建造費用が過剰に上昇していた現在の共和国広場に面する2街区のみが建造され、残りの8街区については実現に至らなかった。

1825年、建築家G. フォルメントはロンバルディの先の計画案とは異なり、1700年代のデザインに従って装飾された2つのパビリオンを実現し、ポルタ・パラッツォ広場の建物を新古典主義のデザインである八角形の新広場までまっすぐに延長する提案をした。このようなプロジェクトの仮説はその後改良され、1830年の初めに2つの民間建築業者(Aprile社とFrizzi社)の計画案により決着がついた。ただフォルメントによるウイング部分に2つのパビリオンを建設する案の代わりに、広場の南側にはユヴァーラが設計した建物が残されることになった。一方、フォルメントの考案による3つの開口部は9つ実現された(現在も存在している)。1826年、カルロ・フェリーチェ王の任務の下、フォルメントは冷蔵する氷を賄う流水の供給が可能な広場の南東部の街区に畜殺場を配置した。この計画のおかげで、散在した街中の肉屋はポルタ・パラッツォ地区に移転を余儀なくされた。

1830年代にはトリノの主要市場の移転を考慮して、広場の南側ウイングに低層の建築物が計画された。また1800年代半ばには、コットレンゴ大総合病院として設立されたマウリツィアーノ病院が拡張された。当時、ローマ時代における都市の北門の起源であったポルタ・パラティーナへの興味が再沸騰し、修復されるに至った。また、1900年初頭にはアルフレード・ダンドラーデ(Alfredo D. Andrade)のプロジェクトに従って、ポルタ・パラテ



図 2.16 1830年頃のポルタ・パラティーナ(文献 5) この周りの建物が壊された

イーナの門に付随していた建物の取り壊しをする修復作業がなされた。(図 2.16)

1800 年代に実現された住居は統一されたデザインに基づいて計画された。この統一されたデザインとは、中庭に面した近隣のバラバラなデザインの家屋を秩序立てるものである。その中庭型住居の内側には 1・2 階の低層建築の建築が可能であり、1 階は倉庫、ガレージ、馬小屋に供され、2 階は使用人の住居として使用されていた。

1873 年、ジュリオ・チェザレ大通りの貯氷庫が解体され、その代わりに新たな広場が造成された(現在のエマニュエレ・フィリベルト広場)。拡大中である歴史的中心地区と新広場へのアクセスをしやすくするためにサン・アゴスティーノ通り(via Sant Agostino)もあわせて造られた。

1880 年代にマウリツィアーノ病院が新たに移転する際に、マウリツィアーノ修道院は 1888 年に公共のガレリアを建設する目的をもった民間団体に対し、バジリカ通り(via della Basilica)の旧所在地を売り渡した(現在の Galleria Umberto I)。このガレリアは現在も商業活動の場であり、ポルタ・パラッツォ計画委員会の本拠地が置かれることとなる。ガレリアには、バジリカ通り、現在の共和国広場のポルティコ、共和国広場南側に面した 3 つの出入り口が計画された。

20 世紀

1920、30 年代において、建築密度の増加を目的として、この地区の多数の区画が改築され、本質的な再建がなされた。バジリカ通りとポルタ・パラティーナ通りは拡張され、古い門、テアトロ・ロマーノ、ドゥオーモの側には、歴史的な背景と照らし合わせると、対照的なインパクトのある合理的な建物が建設されている。

ポルタ・パラッツォ地区の歴史の変遷のまとめ

ポルタ・パラッツォという地区の名前は、ローマ都市アウグスタ・タウリノルム(Augusta Taurinorum)の城壁の名前に由来している。また、古代上院の宮殿に近かったため、都市内への入り口である左側の通用門はパラティーナ(Palatina)と呼ばれていた。この地区は都市の境界にあったため、発展を遂げるには 1700 年代まで待つことになる。1700 年初頭ヴィットーリオ・アメデオ 2 世(Vittorio Amedeo II)がこの区域を「コントラダ・ポルタ・パラッツォ(Contrada di Porta Palazzo: 中世都市の地区)」と命名し、都市に出入りする交易の場所としてこの地区に重きを置き、来訪者を歓迎するため門に広場を付ける地区の拡張設計をシチリア出身の建築家フィリッポ・ユヴァーラ(Filippo Juvarra)に委託した。このようにして共和国広場(piazza della Repubblica、当時はヴィットーリア広場 piazza Vittoria と呼ばれていた)が誕生する。その後、広場に建物が建てられると共に、都市と城壁外に発展したボルゴ・ドーラの関わりが始まることとなる。現在のバルーン(Balôn)地区は、その起源はローマ時代の農夫が住んでいた城壁外の郊外地にさかのぼる。中世初期には、ポルタ・パラッツォ地区は農場・水車・菜園を

抱える都市行政区域へと移り変わり、1500年頃には産業の中心地となった。

ドーラ川を支流とする水路は、小規模工場や粉挽きを稼動する貴重なエネルギー源となっていた。19世紀から20世紀初期にかけて、ボルゴ・ドーラ地区は都市において活発で繁栄している地区として発展することとなる。トリノの城壁の破壊を命令する1800年のナポレオンの統治下、(さらにピエモンテ州の他都市の城壁の破壊も行っている)ポルタ・パラッツォは、あらゆる点で、都市の一部に含まれることとなった。多様なデザインを施され、1837年に共和国広場は完成し、エマニュエレ・フィリベルト広場と名付けられた。その規模は51.300㎡で、トリノでは最大の広場である。また、ドーラ川を渡る橋、主要道路ジュリオ・チェザレ大通り(corso Giulio Cesare)を整備され、設計者エンジニアの名前からモスカ橋(ponte Mosca)と名付けられた。ナポレオン以来、これ以上の大規模な都市計画の変更は見られない。介入されたものとしては、民間の建築物への介入、ガレリア・ウンベルト1世(Galleria Umberto I)に場所をつくるためのマウリツィアーノ病院の移転、第2次世界大戦時の爆撃など、1946年に最終的に共和国広場と命名され、その名は今日までの地区の発展の道のりを示している。

この市場はヨーロッパにおいて最大のオープンマーケットへと変遷し、それに伴って電力工場を抱えた初期産業時代のリーダーシップを担ったボルゴ・ドーラ地区はその機能を失い、職人・骨董商業者の地区へと変遷してきた。古代ローマ時代の競技場の名前からバルーンと呼ばれ、毎週土曜日に開催される蚤の市は、地区を強く特徴づけている。19世紀におけるこの地区内の活発な商業活動と生活が影響し、トリノへ



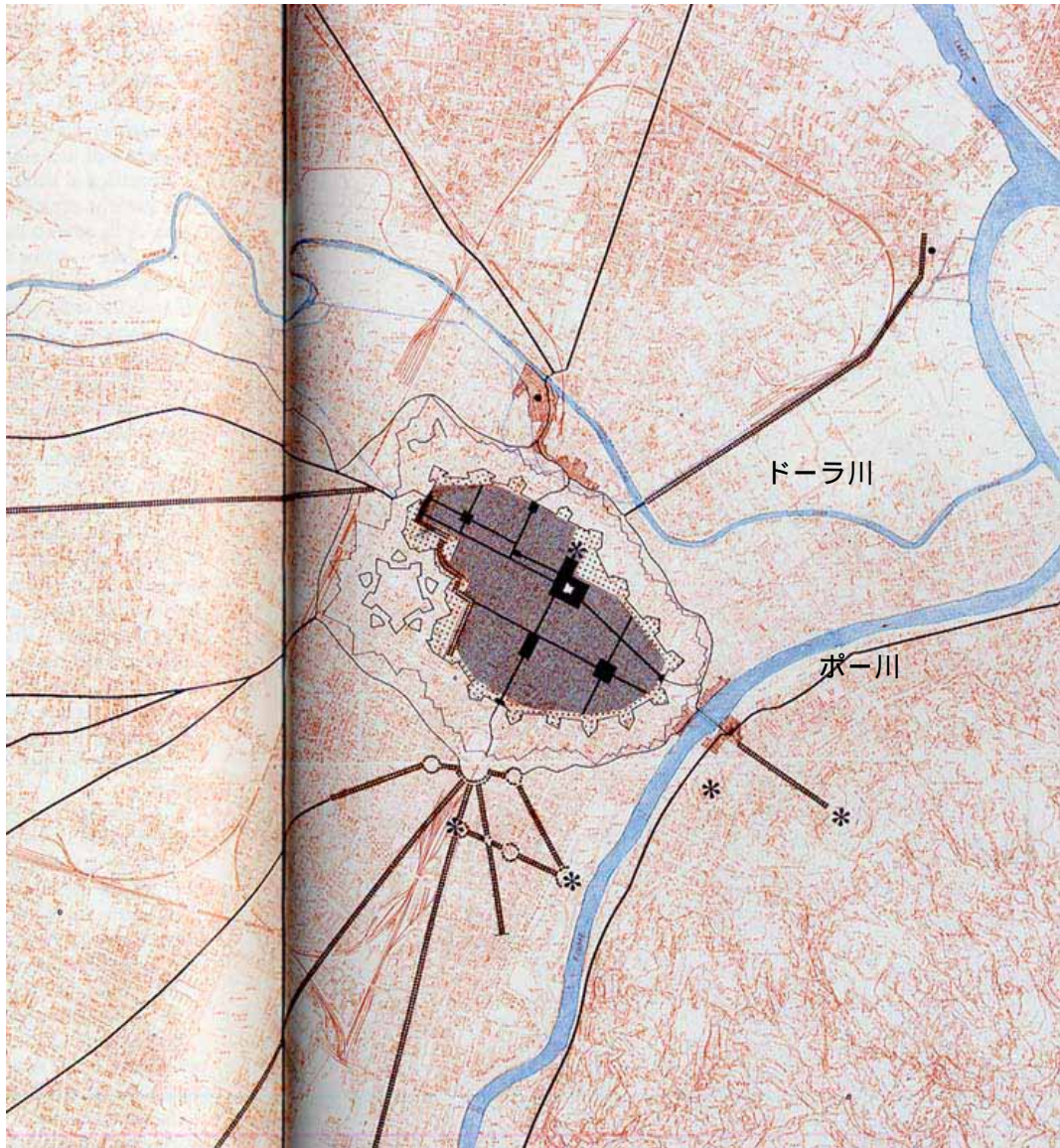
写真2.6 1950・60年代の南イタリアからの国内移民 (文献6)

の産業移民の波が押し寄せることになった。1960年代の南イタリアの国内移民が労働・生活の場所としてこの地区に押し寄せている。ここ十年間では、国外からの移民が約2000人押し寄せ、地区の外国人居住率は20%を越えている状況である。

この地区には歴史的に異なる時代の建築が共存しており、トリノにおける歴史的地区の特徴的な形成に貢献しているが、同時に、この地区を定義し分類するのは困難である。

「都市は複雑な現象であり、その結果とは拡張と時代の積み重ねの結果だけではなく、物理的・機能的な解体・再構築の結果でもある。」歴史の役割とは、都市の構成過程を研究し、明確にする目的で「糸とぶ厚い切れた布地、もしくは一見判読できない布地を再びつなく」ことである。建築の役割とはその「現況の中の形跡とその真価を計画的に解釈をする」ことにある。

図 2.17 1796 年王制支配下のトリノ都市全体図 (文献 7)



網枠で囲まれているところが都市城壁内。

都市内部の黒い部分が、当時すでに実現された広場。

考察：この時代は、都市は完全に城壁に囲まれている。



図2.18 1816年 ナポレオン支配時代のトリノ都市全体図 (文献7)

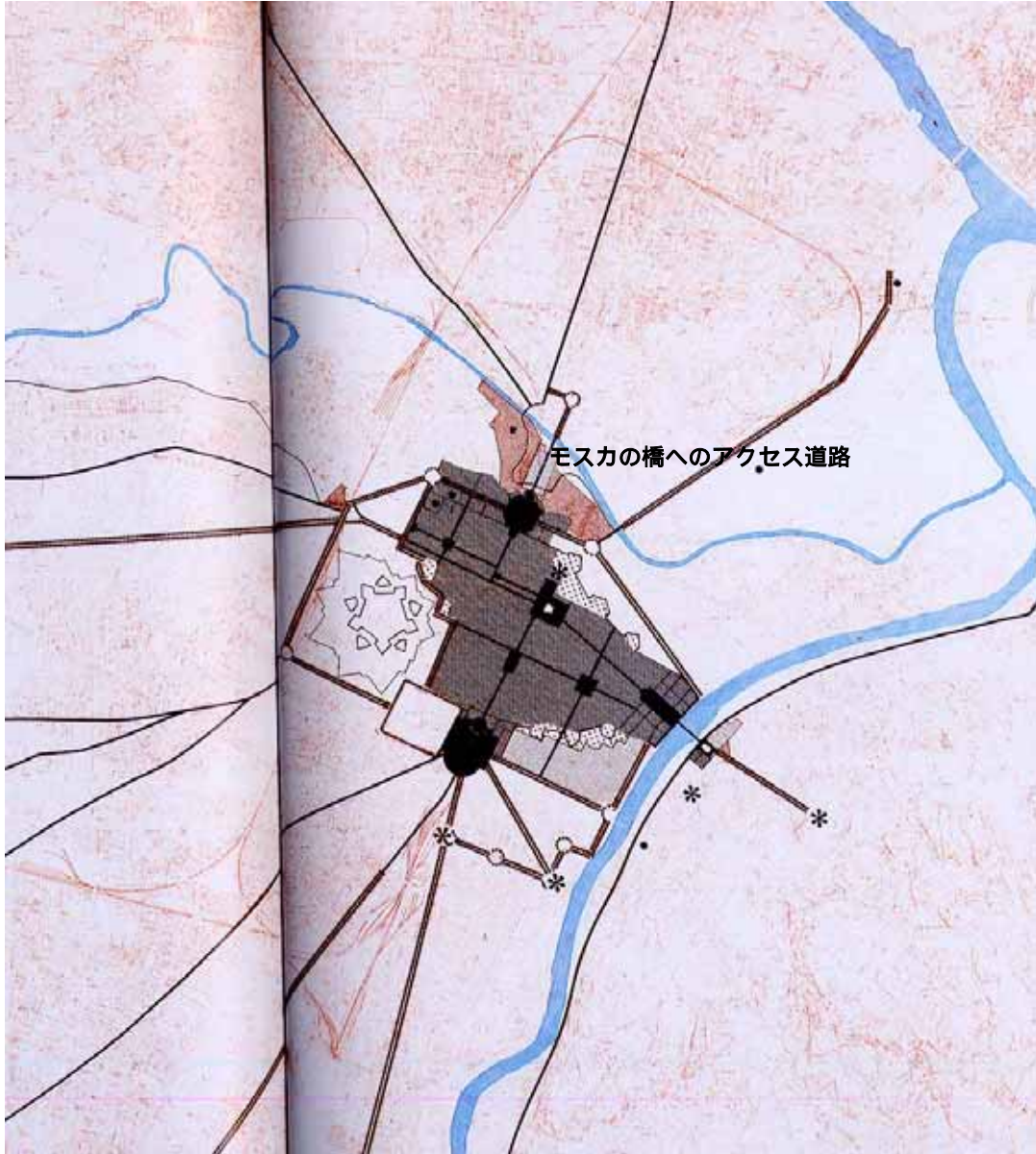
都市の四方を囲んでいる網枠が広場。

考察：城壁が壊され、都市の範囲が拡大している。

都市の城門があったところに、大広場が実現されているのが分かる。

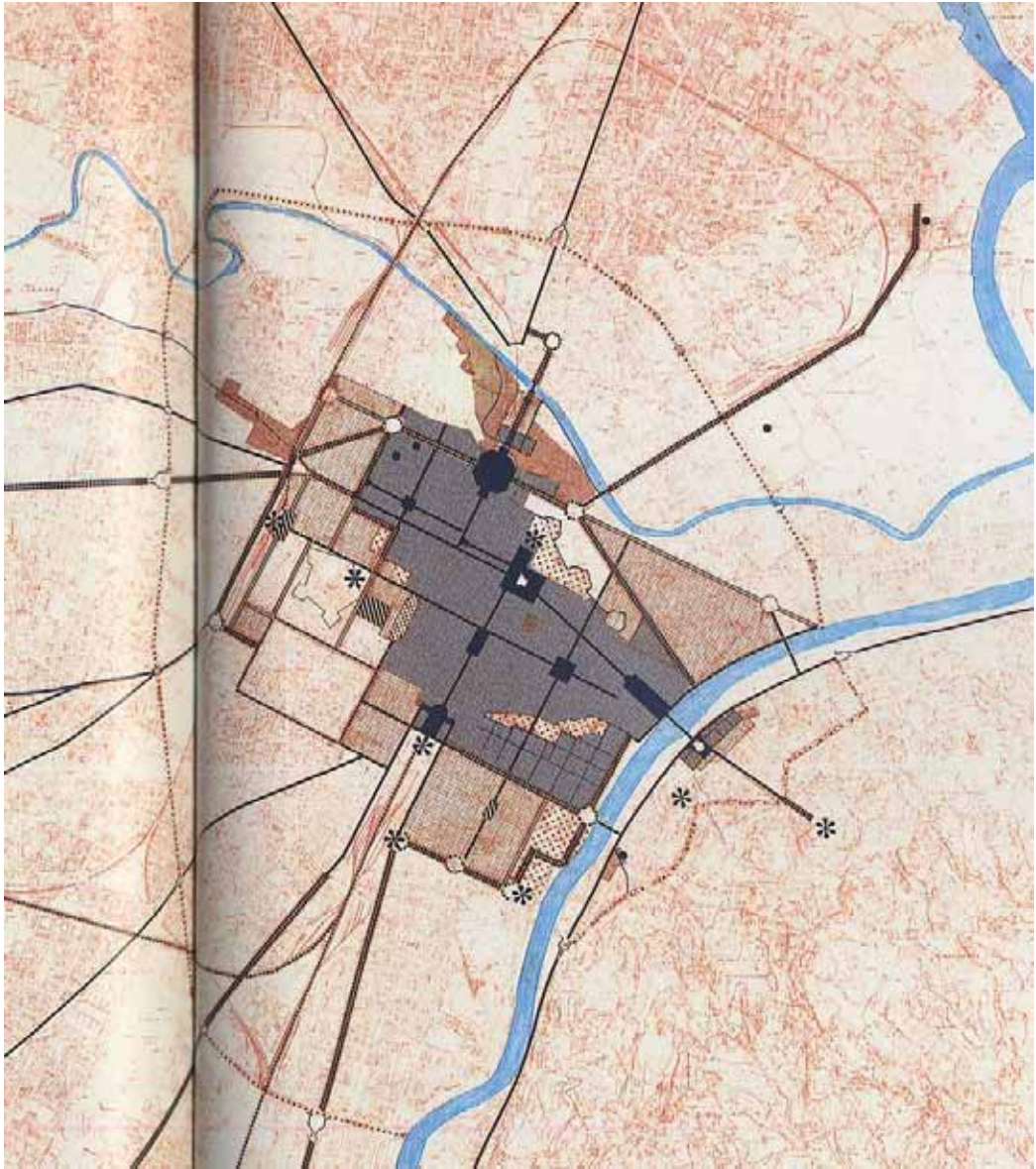
このときに現在の共和国広場が作られた。(北側の網枠の正方形)

図 2.19 1840 年 サヴォイア家再統治下における都市復興の時代のトリノ都市全体図
(文献 7)



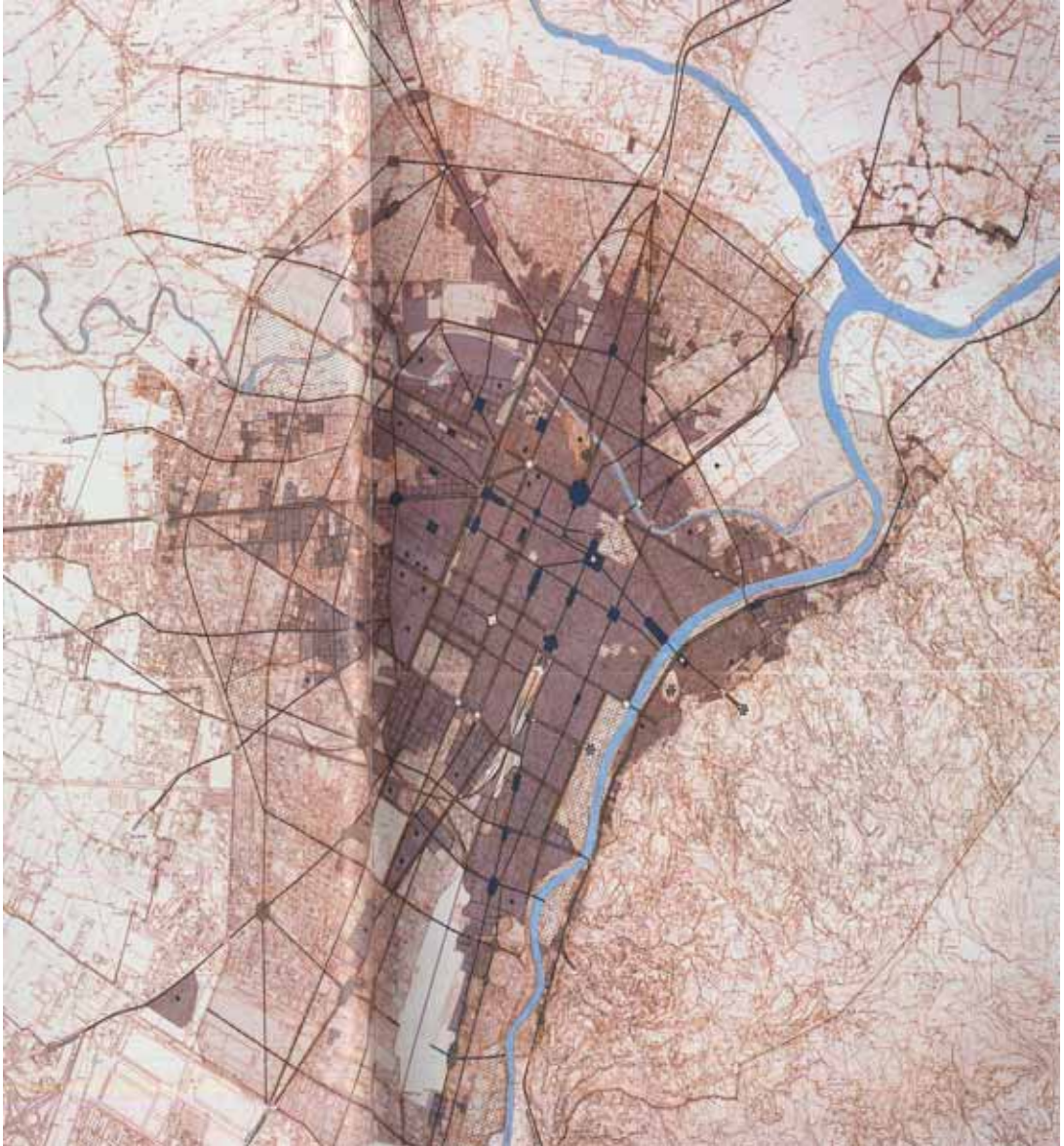
考察：1825年、モスカ（Carlo Mosca）の橋へのアクセス道路が実現されている。
共和国広場が現在の8角形を形成したのが見て取れる。

図 2.20 1860年 イタリア統一時代のトリノ都市全体図 (文献7)



考察：イタリア統一はトリノを拠点にして行われたため、イタリアで最も重要な都市として、宰相カブールによる「首都拡張計画(1851-1852)」が進められた。広場は現在の形に整備され、鉄道が敷かれ、首都としての機能が整備された。

図2.21 1920年 産業が発展した頃のトリノ (文献7)



考察：1906年から1908年の都市拡大計画と、産業の発展による人口の集中により、トリノ市が急拡大した時代である。環状道路の整備が行われている様子が見える。都市拡大計画は1913年からの1918年の都市丘陵計画と連携して行われている。

2.3 プロジェクト介入以前のポルタ・パラッツォ地区の衰退状況

以下は、The Gateプロジェクトの実施前にCICSENEによって行われた調査に依拠し、まとめたものである。¹⁰

2.3.1 ポルタ・パラッツォ地区内の人口

ポルタ・パラッツォ、ボルゴ・ドーラの人口は、この10年間に於いてトリノ市全体と似通った減少の仕方をしている。(ポルタ・パラッツォ地区 - 11.13%、トリノ市、- 11.91%)

1985年から1995年までのポルタ・パラッツォ地区の人口推移調査では、地区を5つの区域に分け、相対的な人口推移状況が分析された。(図2.1) 図2.1に見られるように、コットレンゴ周辺地域における居住人口が1985年から1991年にかけて51%減少しており、深刻な状況であることが露呈された。

この区域別の調査から、トリノ中心市街地とサン・ジョアキーノ周辺地区の人口変化の動向がよく似通っていることがわかる。一方、バルーン地区は1991年と1993年の2回にわたって人口増加を迎えているが、10年間で8.05%減少している。ピロッカ通り周辺地区の居住人口は1991年以外には毎年減少傾向にあり、10年間全体で7.83%ではあるものの、安定していると言える。

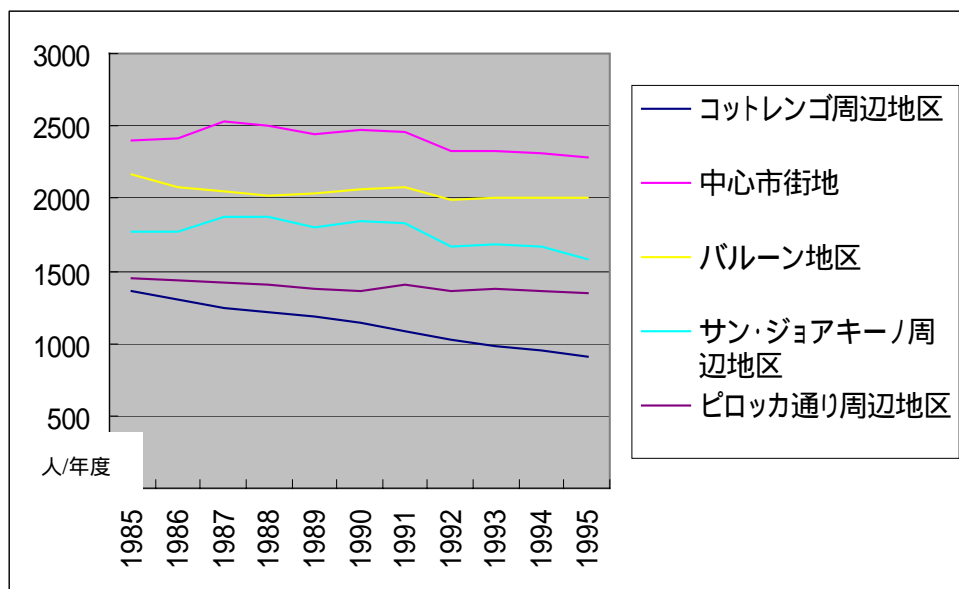


図2.1 1985年～1995年におけるポルタ・パラッツォ地区の5つの区域別人口推移
(トリノ市CEDの統計より著者作成)

¹⁰ Centro Italiano di Collaborazione per lo Sviluppo Edilizio delle Nazioni Emergenti (1997) Un Mercato e i suoi Rioni-Studio sull'area di Porta Palazzo-Torino, CICSENE

2.3 The Gate プロジェクト介入以前のポルタ・パラッツォ地区の衰退状況

また、図 2.1 は 1990 年から 1995 年にトリノ市の人口が減少している一方で、ポルタ・パラッツォ地区には人口が増加しているのが見て取れる。以下に特徴をまとめる。

表 2.1 ポルタ・パラッツォ、トリノ市の流入・流出口、出生率、人口の増減率（コットレンゴを除く）

(%)	ポルタ・パラッツォ地区				トリノ市			
	流入人口率	流出人口率	出生率	差引き	流入人口率	流出人口率	出生率	差引き
1990	12.78	9.93	10.84	-1.81	6.44	7.25	7.56	-2.66
1991	10.59	11.58	8.48	-2.44	6.71	7.66	7.56	-2.67
1992	10.84	10.85	9.26	-2.04	6.85	9.09	7.58	-2.67
1993	11.92	11.41	7.57	-1.08	7.65	8.37	7.44	-3.01
1994	11.05	10.54	9.23	0	7.13	8.03	7.14	-3.09
1995	12.35	11.25	9.7	-1.66	7.2	8.14	7.22	-3.35

- ・ ポルタ・パラッツォ地区の出生率は、1993 年に減少したのを除けば（1991 年の結果は戸籍の抹消によりデータが少なめに出た）、トリノ市民全体の出生率より常に 1～3% 高い。93 年以降、2 年間に於いて急激な伸びを示している。
- ・ ポルタ・パラッツォ地区内への人口流入・流出率ともにトリノ市をはるかに上まっており、どちらのデータも年間 10～12% を常時保っている。この地区は居住人口の入れ替わりが激しいという特徴が見られる。
- ・ トリノ市における相対的な移民動向はトリノ市内部における動向であることがわかる。

2.3.2 年齢・性別構成の特徴

女性

- ・ 高齢女性居住人口が非常に顕著である。
- ・ 中年女性人口（40～55歳）と若年女性人口（20～25歳）が少ない。

男性

- ・ 30歳から40歳までの男性人口がかなり多い。
- ・ 50歳から70歳までの男性人口は平均以下。

地区は全体的に高齢化しており、シングル層の存在、若い核家族の居住がこの地区において多くは見られない。ポルタ・パラッツォ計画委員会局長 Iida Curti 氏へのインタビューによると、子育てをするファミリー層がこの地区から離れる傾向にある。この状況から、子育てをする場所として市民に選ばれなくなっていることが推測できる。

高齢化率の国勢調査のセクションでは、老年層と若年層の差は、コットレンゴ、SerMig、コンソラータ教会など、宗教関係施設の存在に関係性が見られると分析されている。また居住用街区の中には移民の現象がほとんど見うけられない街区も存在することが明らかになっている。逆に、最近修復された歴史的な中心街などの人気のある街区は、住民は平均して若者が多い。

2.3.3 外国人居住率

図 2.2 はトリノ市全体と地区に居住している外国人数を表したものである。調査範囲にまたがっている 2 つの旧地区は外国人居住が最も高い地区だと言うことができる。

Reginato(1995)による研究においても、**ボルタ・パラッツォ、ボルゴ・ドーラ地区は、外国人居住率がそれぞれ 7.7%、7.2%と最も高いことが確認されている。彼らの大部分は EU 外の国籍を持った外国人で、その 95%が EU 外の外国人である。**

滞在許可証を持っていない不法滞在の外国人数を把握できないため、これらの数字は実際にどれほどの人がこの地域に生活し、移民として根を下ろしているのかは定かではない。居住の特徴と地区の都市の登録簿はやはり数百以上になりうる傾向があるため、外国人居住数の評価は特に難しい状況である。

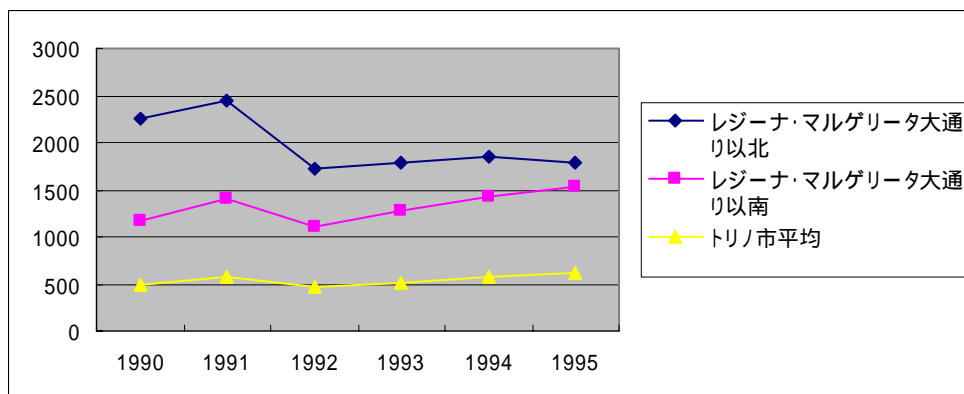


図 2.2 トリノ市平均とボルタ・パラッツォ地区内の外国人居住数

2.3.4 失業率

1991 年の国勢調査によると、調査対象地区における就業状況は二極化を見せていた。

- ・ 歴史的な中心街（レジ - ナ大通りの南側）は、労働力人口が市平均の 44.74%に対して 49.53%と高いにもかかわらず、**21.2%という深刻な失業率**が特徴である。
- ・ 一方、レジーナ・マルゲリータ大通り以北においては、失業率が 20.0%と平均を上回っているが、非労働力人口が 59.65%と高く、労働力人口は 40.35%と低い。
- ・ 高卒率が乏しい。高卒以上の学歴を持つ人口率はトリノ市平均を 5%下回る結果となっている。
- ・ 全く学歴を持たない人口が大半を占め、非識字率は市平均の約 4 倍にも及んでいた。また、学生がほとんど存在していない。

ボルタ・パラッツォ地区は、トリノの中心地域においては 1 番失業率が高い地区であり、住民の学歴の低さとの因果関係が見られる。

2.3.3 犯罪率

- ・ 1995 年の犯罪率は地区居住人口のうち 3.32%(市平均は 0.41%)と高い状況である。
- ・ 不法滞在、贓物罪、外国人グループ間の抗争がより問題とされている。
- ・ 麻薬密売、売春も問題になっている。

図 2.3 は犯罪の内訳を示したものである。密売がなされるゾーンと記されている地域は市役所のフリーダイヤルに通報や借家人による建物の酷使、キャンピングカーでの不定居住区域、グループが習慣的にけんかを引き起こす場所など、他の情報があったケースも含んだものである。

図 2.3 犯罪発生状況図



考察: 以上、プロジェクト介入以前の地区の衰退状況から、市場そのものより、市場の周辺地域の居住環境の悪化が問題になっていることが明らかになった。この状況に関して、The Gate プロジェクトがどのような組織で都市政策を展開していくのか、以下の第 3 章から見えていく。

2.4 The Gate プロジェクト対象区域の都市マスタープラン

ここでは、介入当時から現在にかけての The Gate プロジェクト対象区域の都市マスタープランがどのようなになっているのかを主に文献 7 を中心にまとめる。

2.4.1 イタリアにおける歴史的な中心市街地の保存に関する法律

イタリアの現行都市計画法は 1942 年に制定され、歴史的な中心市街地 (centro storico) に関しては、1967 年の都市計画法改正の際に、都市マスタープランである P.R.G. (Piano Regolatore Generale) の中で「歴史的な都心地区」の指定を行い、面的に保存する計画を立てる制度が確立した。この結果、歴史的な中心市街地の指定を各自治体が法的に行うようになり、歴史都心に指定された地区の建物の工事について、建築主を文化的側面と都市計画的側面から二重に指導することになり、厳重な規制が敷かれることになった。

自治体が策定できる法定計画は、P.R.G. と地区計画 (P.P. : Piano Particolare) が基本である。

2.4.2 トリノ市のゾーニング規制による歴史都心の整備方法

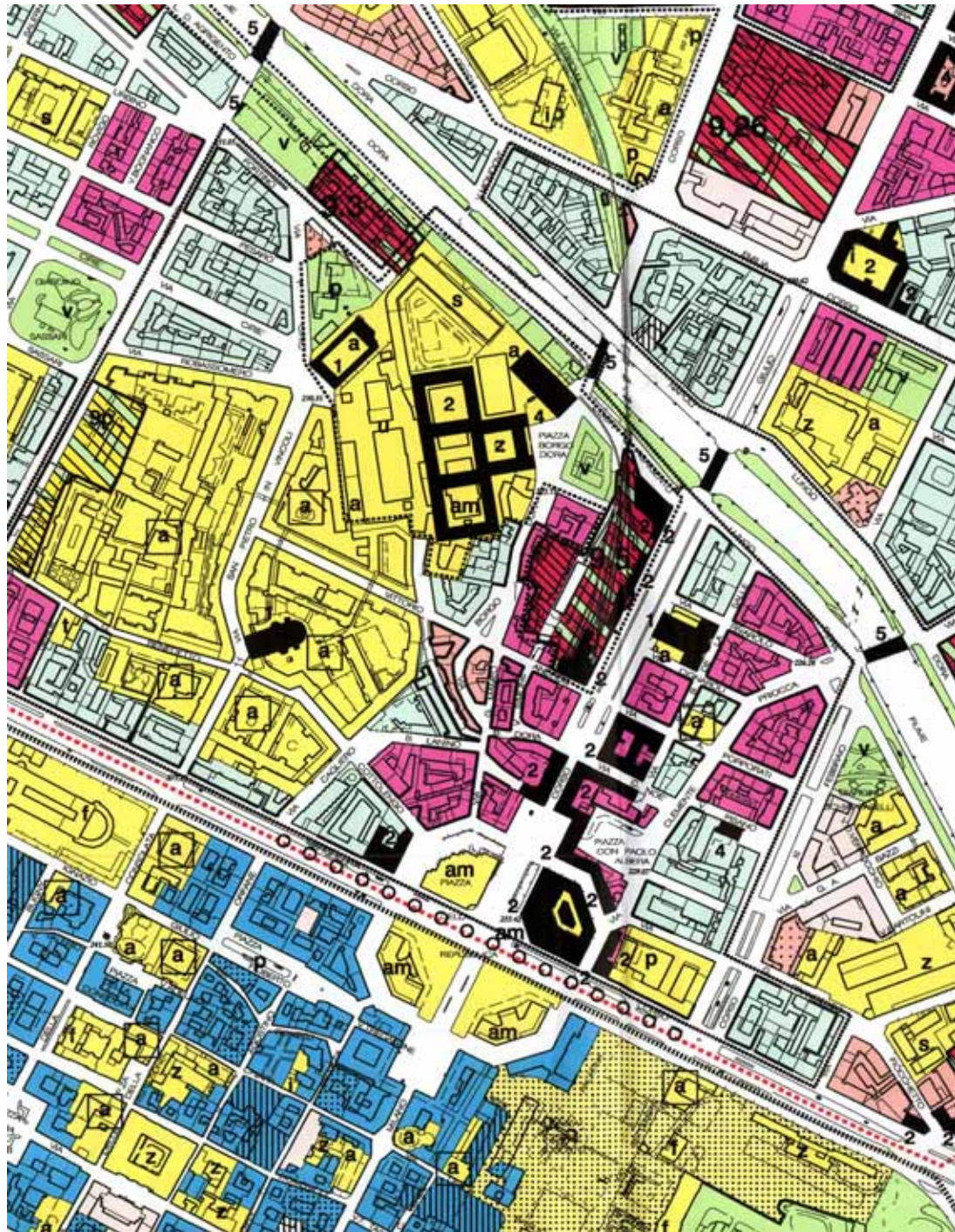
1995 年の都市マスタープランでは、まず都心地区に「歴史都心ゾーン」「歴史環境ゾーン」「都市改造ゾーン」「住居混在固定ゾーン」「既存建築物を含む民有緑地ゾーン」がかけられている。このゾーニング規制はトリノ市独自のものである。歴史的町並みは、歴史都心、歴史的環境、民有緑地の各ゾーンでの保存と、住居混在固定ゾーンの保全により保たれている。

また、各ゾーニング内を、さらに街区単位の「エリア」で分割し、建物用途や住居タイプを分けている。

図 2-4 によると、The Gate プロジェクト区域内は、歴史的環境ゾーンに指定されており、歴史都心ゾーン以外の歴史的建築物が多く存在している。

具体的には、旧兵器工場、サン・ピエトロ教会、SERMIG (青少年布教活動サービス)、コットレンゴ慈善施設などが、歴史都心ゾーン以外の歴史的建築物と指定されている。

また、トリノ - チェレス旧駅舎に関しては、都市改造ゾーンに指定されている。



凡例	
	歴史中心ゾーン
	歴史的環境ゾーン
	設備あり住居エリア
	保存すべき住居エリア
	歴史中心ゾーン以外の歴史的建造物
	公園エリア
	公共サービスエリア
	一般的都市用途ゾーン
	滞在エリア・業務エリア
	商業エリア

図 2-4 プロジェクト対象地区の都市マスタープラン
(文献 7 に著者加筆修正)

第2章参考文献

- 文献1 Città di Torino (1996) *Spazio Torino: Idee e Progetti per la Requalificazione Urbana*
- 文献2 M. Teresa Bonardi (1988) *Canali e Macchine Idrauliche nel Paesaggio Suburbano : Acque Ruote e Mulini a Torino*, Collana Blu
- 文献3 Vera Comoli Mandracci (1988) *La fortificazione del Duca e i mulini della Città : Acque, ruote e mulini a Torino*, Collana Blu
- 文献4 Vera Comoli Mandracci (1983) *Torino*, Roma-Bari, Laterza
- 文献5 Cesare Bianchi (1984) *Porta Palazzo e Il Balon storia e mito*, Il punto
- 文献6 Giuseppe Colli (2002) *Storia di Torino Dalle origini ai giorni nostri*, Il punto
- 文献7 Città di Torino Assessorato all urbanistica (1992) Piano Regolatore Generale di Torino, *Qualità e valori della struttura storica di Torino*, Città di Torino
- 文献8 a cura di Donato Severo (1996) *Filippo Juvarra*, Zanichelli
- 文献9 Società degli Ingegneri e degli Architetti in Torino (2000) *Ventisei Itinerari di Architettura a Torino*, SIAT
- 文献10 CICSENE; Centro Italiano di Collaborazione per lo Sviluppo Edilizio delle Nazioni Emergenti (1997) *Un Mercato e i suoi Rioni – Studio sull'area di Porta Palazzo- Torino*, CICSENE
- 文献11 伊藤滋他 (2004) 「欧米のまちづくり・都市計画制度 サステイナブルへの道」ぎょうせい
- 文献12 Turin (2003) Mondadori Electa
- 文献13 馬場康雄他 (1999) 「イタリアの経済」早稲田大学出版部
- 文献14 馬場康雄他 (1999) 「イタリアの社会」早稲田大学出版部

サン・パオロ銀行、CRT(Fondazione Cassa di Risparmio di Torino) 銀行 各1名

商業関係者組合コンフェセルチェンティ (Confesercenti) アスコム (Ascom) 各1名

農業共同組合コルディレッティ (Coldiretti) 1名

地元社会福祉非営利団体マウリツィアーノ修道院 (Ordine Mauriziano) - 1名

青少年育成サービス (Sermig) - 1名

コットレンゴ慈善施設 (Cottolengo) 1名



写真 3.3 (著者撮影)

委員会局長 Lida Curti 氏

これらのプロジェクトメンバーの中に、宗教・未利用施設の代表者の参加も見られるのが特徴的だと考えられる。委員会は、プロジェクトを正しく管理し、資本金の正しい使用を保証し、プロジェクトの成果を地元や国内・国際的なレベルに反映させていくという義務を負っている。また、メンバーはプロジェクトの管理委員会の代理も務める。地元のパートナーは地域コミュニティの代表であり、地域内のプロジェクトへの共同参加と地元の情報や知識の提供を保証している。プロジェクト委員会は局長、ディレクター、技術専門スタッフにより組織されており、各段階にあるプログラムやイニシアティブの技術的な実施を担当している。この構造の中には、社会的サポートや土地の相談を扱うユニットも備えている。委員会はプロジェクト対象内のガッレリア・ウンベルト1世に本部を構えている。(写真3.2参照)

ポルタ・パラッツォ計画委員会は、委員会局長と幹部、方法論構築部門・コミュニケーション部門、データ収集・調査部門の3つのプロジェクト部門から構成され、介入の実施のため必要な技術、プロジェクトのコミュニケーションと評価を行う。さらに、経済および社会的な見通しの分析を専門に扱う2つの部門も持っている。

2001年12月31日、「The gate living not leaving (離れないで住みつづけるために)」をテーマとしたThe Gateプロジェクトは、EUプロジェクトとして関連していた段階を終了した。最終的に、利用可能な資金の97%を使用し、合計18の介入が完了している。

2002年以降のポルタ・パラッツォ計画委員会の活動内容

2001年12月、ポルタ・パラッツォ計画委員会は公共管理のための入念な提案を導き出すコンセプトを練り上げるために、4か月の技術的延長を決定した。2002年6月、都市パイロットプロジェクトから地域開発会社への機能の変化についての提案がトリノ市長に提出され、地区内の最も複雑な介入プロジェクトの骨組内で使用される公共管理の装置として示されている。2002年6月からThe Gateプロジェクトは経済的、社会、文化、建築、持続可能性環境への介入と社会的随伴サービスと土地に関するコンサルタントなど、プロジェクトで得た経験を継続して活かすために、その形を行政の出先機関である地域発展機関に変え、業務に当たっている。

第3章 The Gate プロジェクト実行のための組織

3.1 については、ポルタ・パラッツォ計画委員会と欧州地域開発基金で発行している文献である「Final Report」と「Concorso Internazionale di Progettazione」の翻訳に、ポルタ・パラッツォ計画委員会へのインタビューを参考にまとめる。

3.1 ポルタ・パラッツォ計画委員会の設立と機能

1996年にトリノ市は「The gate living not leaving (ポルタ・パラッツォ地区から離れないで住みつづけるために)」をテーマに、欧州地域開発基金の都市パイロットプロジェクトに応募した。これはポルタ・パラッツォ地区の生活・労働条件の改善を目的としたプロジェクトである。上述したように(1.5参照)このプロジェクトのために、トリノ市は欧州地域開発基金の先進的取組みのフレームワークから2,582,300ユーロの補助金(約3億円)を受けている。また、同額がトリノ財源からプロジェクトに割振られており、さらに1,032,913ユーロ(約1.3億円)を公共事業省からの補助を得ている。

さらに、地元の企業であるCRT銀行、サン・パオロ銀行、トリノ商工会議所は雇用に関する特定のイニシアティブに258,288ユーロを出資している。

プロジェクト期間内(2000年10月に発生した洪水によって、当初3年だったプロジェクト期間が、欧州連合によって4年に延長された)に、19のイニシアティブは多様な介入へと進化していった。EUのプロジェクト6,197,482ユーロに加え、3年間の公共による総投資額は、合計51,646,000ユーロにのぼっている。

このような出資を受けて、1998年、トリノ市を母体とするNPO団体であるポルタ・パラッツォ計画委員会が設立された。この委員会は、まちづくりのプロモーターまたはローカルパートナーとして、公共と民間企業の両方による協働を促進する機関である。その主な役割は、ポルタ・パラッツォ地区再生プロジェクトであるThe Gateプロジェクトを経営し、実行することである。

ポルタ・パラッツォ計画委員会の代表は以下の14人のメンバーにより構成されている。

トリノ市 5名(うち3名は市の評議員、他2名は行政区長)

トリノ市商工会議所 1名



写真 3.1 ポルタ・パラッツォ計画委員会の正面玄関のロゴ(著者撮影)



写真 3.2 ガレリア・ウンベルト1世(著者撮影)この市場に面した中に、委員会のオフィスがある。

3.2 市民参加ワークショップ「Fuori Orario」

ここでは、主にポルタ・パラッツォ計画委員会が発行している文献「Fuori Orario」の翻訳に加え、ポルタ・パラッツォ計画委員会局長へのインタビューに依拠する。

3.2.1 Fuori Orario開催の背景と目的¹

40年前まで、ポルタ・パラッツォ地区はさまざまなリクリエーション活動がなされ、夕方や休日もトリノ市民を惹きつける場であった。しかし現在では、その過去の痕跡は何も残っておらず、地区の疲弊と公共空間のセキュリティ不足のために、にぎやかな市場の商業活動が終了した後は、この地区で快適な社会生活を営めなくなってしまった。

そこでThe Gateプロジェクトの立ち上がりにあたり、市場の営業時間後のポルタ・パラッツォ地区の居住環境改善に関して話し合う場として、市民参加まちづくりワークショップ「Community Planning Weekend FUORI ORARIO」が1999年6月12日から16日にかけて開催された。

この会の目的は、市民参加を通して、さまざまな立場の人と共に、地区の抱えている問題について話し合い、地区再生のアイデアを創出し、提案を行うことである。

開催期日は3日間で延べ169人の市民が参加し、都市再生の100のヒントから37の地区空間改良に関する提案をまとめている。

ワークショップの日程

6月12日（金）市民参加：テーマ別のグループディスカッション

（公共空間、環境、商業活動、文化余暇活動）

6月13日（土）運営チームによる絵おこし作業

6月14日（日）市民参加：地区別のグループディスカッション

6月15日（月）、6月16日（火）：運営チームがワークショップでの提案を分析

スケッチ、パースペクティブ、レイアウトなどを行い、3次元化

ワークショップの開催場所

プロジェクト対象地区内にあるSan Pietro in Vincoli 旧墓地

ワークショップに関する数

169人 - 市民参加数（2日間合計、金曜日71人、日曜日98人）

96人 男性（57%）、73人 - 女性（43%）

29人（17%）30歳以下、98人 - （58%）30歳から60歳まで、42人（25%）60歳以上

94人 - （55.6%）地区居住者（うち、10人は商業関係者）

19人 - （11.2%）プロジェクト関係者

56人 - （33.2%）地区外居住者

¹ Comitato Porta Palazzo (2001) Fuori Orario, Unione Europa FESR p.4-p.11 を要約した。

3.2.2 Fuori Orarioワークショップの手法²

このワークショップは鍵となるプロジェクト始動期にあり、高い透明性が必要とされる重要な段階に開催された。地元住民を巻き込んで、心理的に存在しているであろう障壁を乗り越え、現存する問題に明確な方向性を与え、解決策を見出すために、アクションプランニング手法に基づいて行われた。

主催側はワークショップ開催に先立って、前日の木曜日に集まり、日中にプロジェクトエリアについての問題を議論している。会議では、ワーキンググループは専門家の助けを得て、具体的問題についてリアに関する勉強と議論を行っている。夕方には開会式がとり行われた。

参加者はさまざまなワークショップ内を自由に行き来できるように工夫されている。

すべてのワークショップのテーマは以下のようになっている。

- ・ 地区の問題の背景
- ・ 地区の問題の特定 - 「何がうまくいっていないのか」「何がうまくいっているのか」
- ・ 何が地区住民にとって必要とされているかを特定
- ・ 可能な解決法の特定

ワークショップの流れは以下のようである。

1. 参加者は各々がポストイットにその視点と要求を記録
2. それらをもとにワークショップで議論
3. 提案を実現するための専門家によるセッションで続けて議論

² 同上、p.8-p.9 を翻訳後、まとめた。

3.2.3. テーマ別の話し合いの詳細³

公共空間に関する話し合い

参加者の特徴

参加者は主に、地区内の商業活動関係者と地区住民であった。
一般的な議論がなされなかったために、参加者同士により影響をもたらした。
商業関係者と住民が地区への強いアイデンティティをもっている。

何がうまくいっていないのか。

ネガティブ要素の特定化

- ・ **サービス業の不足**
地区内に全体的にサービス業が少なく、花屋、ブティック、ジェラート屋、レストランといったお店がない。バルーン地区の店は平日閉めっぱなしであり、営業させる必要がある。
- ・ **裏社会が支配する土地であること**
店が閉店し、麻薬密売・麻薬中毒者や売春が増加している
- ・ **ポルテ・パラティーネと荷車**
中心街で一番歴史がある地区では、ポルタ・パラッツォをもりあげるために営業を休止できない。
- ・ **SerMig (青少年育成サービス) が地区に開かれていない**
SerMig は自らを「幸せの島 (Isola felice)」と謳っているのに、地区に対する公開性に欠けている。
- ・ **無免許で商売を行う行商人の存在**
無免許の行商人は、正規の市場の規定どおり地代を払っている行商人と対立関係にあり、市場を汚している。地区住民はその対立関係の被害者である。
- ・ **トリノ - チェレス旧駅舎と旧兵器工場エリアが「都市の穴」のようである**
旧駅舎エリアは地下駐車場としての機能を持たせていないために、何の用途にも使われていず、空っぽである。旧兵器工場は 13 年前に提案・承認された商業用途に供されるべきだった。
- ・ **ドーラ川とモラッシ水路**
トリノ - チェレス間を繋ぐ鉄道橋をつくる
状態がひどく、何にも使われない薄板の障害物を撤去するべき。ドーラ川が洪水したら、当然持ちこたえられない。
旧モラッシ水路に歩行者道をつくる。
- ・ **騒音がひどい**

³ Comitato Porta Palazzo (2001) Fuori Orario, Unione Europa FESR p.33-p.68 を翻訳後、まとめた。

夜中も荷車の音や、パニーニを売り歩く行商人の声、犯罪者の声がうるさく、静かな環境に欠ける。

- ・ 無償の食糧の支給と注射器の支給
- ・ **公共照明の不足**
共和国広場周辺地域全体に公共照明が不足している。
- ・ **歩道と美しい舗装が不足している**
地区内の道路は穴だらけで、見た目にも汚い。
歩道に自動車が駐車されていて、商業活動に支障が出る。
- ・ **駐車場の不足**
- ・ **ファサードがあまりにも衰退している**
ファサードの色が落ち、お化け屋敷のような建物が存在している。
ファサードの塗り替えで、空間を明るく見せる必要がある。
- ・ **夜間営業の店がない。**

何が機能しているのか。

ポジティブ要素の特定化

- ・ 人
住民の抵抗精神が機能している。
- ・ **既存の美しい建物の有効利用**
美しい構造の建物が地区内に存在している。
- ・ **ボルゴ・ドーラ広場の美しい庭**
- ・ **外国人の受け入れ**
トリノの他の地域より多くの外国人を受け入れている。
- ・ **エマニュエレ・フィリベルト広場**
広場への物理的介入により、多くの問題を解決した成功例の存在。



写真 3.1 : 話し合いの様子 (ポルタ・パラッツォ計画委員会からの提供)

緑、公園、川岸など環境に関する話し合い

参加者の特徴

主要な参加者はこの地区の非居住者と事業関係者であり、うち大部分が引退して第二の人生を歩んでいる人達であった。

「何がうまくいっていないのか」

ネガティブ要素の特定

・ 緑地管理に関する一般人の意見（危険廃棄物）

公園は主に麻薬中毒者・密売人・ジプシーなどが集う場所になっている。危険廃棄物（使用済み注射器）が落ちていることから、この地域を管理できない状況にしているが、AMIATに清掃してもらう要求は低木や背丈の高い雑草にさえぎられ、受け入れられず、介入はことごとく阻止された。最も状況が悪い地区は、ドーラ川岸と SerMig 前の小公園。

・ 廃棄物収集に関する技術部門の統制の乱れ(介入の遅延と他法人との責任のなすりつけあい “scaricabarile”)

市の環境課は、緑地管理の実行機関であるが、実際にはさまざまな地区の配置転換が管理・サポートの問題を作り出している。市の環境課と AMIAT（清掃会社）の間には競争の問題という難しい関係が存在しているので、廃棄物収集において、責任の擦り付け合いという古典的な現象が生じている。

・ 警備指導者の不在（地区の警察官もしくは公安補助部門）

地区の警察官を組織の権限による継続的なパトロールが必要である。地区を警備する警察官を配置し、25 年前に生じていた緑地の警備責任を再び与えるか、警備体制を任せるに値する公安補助部門を新設することが急がれる。

・ 市民側の「公共の場」使用責任の不在（公共企業体の全体的委任と衰退）

公共の場である緑地をまもるという市民の責任感のなさ、つまり「誰にも所属しない」という意識があるのが問題である。このような態度がこの地域の問題に対して無関心にさせるか市が早急に介入すべき破壊的行為を容認させている。

市民の共同の権利は緑地を再生し保全するためには重要な要素である。

・ 緑地の管理を市民参加で行うことを困難にさせている複雑な規定や制限の存在

具体的行動が実現しにくいにもかかわらず、制限的な規定に対応しながらの市民グループによる緑地の提案。

・ 緑地分布の低さ（建築物密度の高さ）

緑被率が特定された。

・ 上位決定された地区利用決定を修正しようとする市民活動の欠如(都市基本計画などにおいて)

・ 承認された法人とプロジェクトとの相互作用が困難であること(地区を実際に変えることに対する遅れ、困難)

官僚主義的に長引いて、スムーズに機能できなくなることに注意が必要である。

「何がうまくいっているのか」 肯定的要素の特定

- ・ Sermig 前の小公園が閉鎖されていた状態から回復した緑地の監視を地元団体 Sermig と協働して行っている
- ・ 主に居住者によって利用されうるサン・ピエトロ旧墓地の存在
- ・ ドーラ川岸の再生プロジェクト（歩行者道・自転車専用道を享受できている）
- ・ 中心街や他の地域、川沿い、市民公園などに接続される自転車道整備プロジェクト
- ・ 緑地の少ないトリノの中心街からのアクセスの容易さ

経済商業活動に関する話し合い

参加者

参加者が他のテーマのグループより少ない状況であった。主に、商業関係者の出席が見られた。

何がうまくいっていないのか。

ネガティブ要素の特定化

- ・ **市場終了後は無の空間になる**
市場が終了してしまうと地区全体が空っぽになる。午後にも市場の時間を延長するアイデアが必要とされている。
- ・ **人を惹きつける空間の不在**
この地区は映画館などの夜間に人が集まれる場所が全くない。この地区は中心街にも程近く、魅力的な場としてのポテンシャルを持っているので、もし何か人を惹きつけ、気晴らしになるものがポルタ・パラッツォにあれば、夜も人が往来する地区になるであろう。しかし実際には、夜は地区全体に人の姿は見かけられず、暗く、クラブなどもなく、犯罪が多発している状況である。夜には営業しているパールすら存在しない。
- ・ **建築物のバリア化**
自転車専用道は高い評価を受けているが、もし実現できない場合には、少なくとも妨げになっている建築を取り除くことが全ての人が快適に歩け、自転車がこげるようにするために、重要であるだろう。
- ・ **駐車場の不足**
地区全体に駐車場が不足しており、駐車された車両がじゃまをして、実際に通行ができない時がある。

何がうまくいっているのか。

ポジティブ要素の特定化

- ・ **人**
朝の時間帯は、節約のために市場に買物に訪れる年金受給者が多い。
- ・ **慈善事業活動（コットレンゴ、SerMig など）**
ボランティア活動をしたい人への機会の提供。

文化、スポーツ、余暇活動に関する話し合い

参加者

この話し合いには、参加者が最も多く、朝のワークショップには常に一定の参加者が見られ、節度あるローテーションが保たれていた。激論にならないように注意が払われ、活発だが節度ある話し合いが進行した。コミュニティのアイデンティティと地区に根付いているものへの異議は、麻薬密売やコットレンゴ、SerMig(青少年布教サービス)のような地区生活を営む上で重要な団体への参加が見られないことに関しても活発に議論が交わされた。

何がうまくいっていないのか。

ネガティブ要素の特定化

- ・ 好ましい空間・場の欠如
現存する好ましい空間を作り出しうるポテンシャルは構築されておらず、軽視されている。
- ・ サン・ジョアキーノ教会が活用されていない。
- ・ 夜9時以降、道に人が出歩いていない。
昼夜間、午後以降にはっきりとした差異がある。午後の時間に出歩いている人がいるとしても、地元コミュニティのために何か貢献することをするわけでもない。
- ・ バルーン裏社会の歴史があること。
1958年に麻薬ブローカー集団「lo smilzo」(狭小通路からの出入りしていた)が存在し、その理由からこの地区にわざわざ選んで住む人がいた。
- ・ 以前は夜にも人は出歩いていた。
- ・ 文化・スポーツ・娯楽などの人をひきつける施設がない。
- ・ 移民と関わる文化的なツールがないこと。
- ・ 方向性を見失うこと
異色性は取り組むのに最も難しい問題である。
- ・ 外国人の人口密度が非常に高い。(市の人口の6分の1が居住している)
- ・ 人へのサービスがない。
- ・ 商業的な魅力がない。
- ・ 緑がなく、適切なモビリティがない。
- ・ 日曜の違法マーケットが荒廃している。
- ・ 人が住んで働く地域としてもはや選択肢に入っていない。
- ・ 地盤沈下する要因が簡単に作り出されてしまう。
- ・ 人のつながりを確固たるものにする素質が地区に備わっていない。現在効力があるのは「避難所」としての役割である。
- ・ 人的資産が文化的に有効に利用されていない。(近年の歴史)
- ・ コットレンゴ・SerMigに地区住民が関わりをもっていない。

- ・ クラブ・バールがない。
- ・ スポーツ施設がない。
- ・ 以前存在した、地区内を快適につなぐアクセス道路がない。
- ・ 映画館がない。
- ・ 河川が利用されていない。

何がうまくいっているのか。

ポジティブ要素の特定化

- ・ 住民の人種差別意識が薄い。
- ・ 通り、橋、小広場など、もともとは美しい場所である。
- ・ 住民はよその場所で生活したいと思えない。この地区に特別な愛情を持っている。
- ・ 商業関係者の中には、地区への特別な愛情のために、頑固な気質を持っている人がいる。
- ・ ポルタ・パラッツォ自体に歴史がある。
- ・ サン・ジョアキーノ教会は単に伝統ある教区教会としてだけではなく、地区のネットワーク機能を果たしている。
- ・ 簡単に統合できるので、地区を再生できる可能性が大いにある。
- ・ 毎週土曜日のバルーン市にやってくる若者の客層。
- ・ 芸術と職人組織「Ponte Mosca」の存在。
- ・ ポルテ・パラティーネ組織の存在。
- ・ 多機能性に富むサッティ社（バス会社）がある地域である。
- ・ エマニュエレ・フィルベルト広場とサン・アゴスティーノで以前になされた再生が成功している。
- ・ おいしいレストランと多国籍な店舗が多い。
- ・ （少ないとはいえども）プールがあり、総合スポーツ施設がチェッキ通り（Via Checchi）にある。
- ・ 図書館がある。
- ・ グラン・バルーン市の存在。
- ・ ドーラ川の存在。

3.2.4 区別の問題の特定と提案

A 地区

地域の位置と住民が指摘する地区の問題

立地は、レジーナ・マルゲリータ大通りをまたいでいる下の図の範囲である。この地区では、レジーナ・マルゲリータ大通り南北で、歴史的に都市の内と外で、まったく違った発展をしてきたため、それぞれ特徴も異なっている。

レジーナ・マルゲリータ大通り南側においては、トリノの歴史的地域であり、リノベーションされた建物が多く存在する。しかし、それらの建物は建築的かつ社会構造的な観点からも、貧民層は介入されないままの衰退した建物に取り残されている一方、リノベーションされて新しく甦った建物には中産階級が住んでいるという「豹柄」という問題を抱えている。

この地区北側にはサン・ピエトロ旧墓地が位置し、ポルタ・パラッツォ市場西側から旧墓地の間を繋いでいる。しかし、旧墓地周辺のセキュリティが乏しいために、麻薬中毒者がたむろする場になっていることが、住民との話し合いの中で指摘されている。また、公共照明がないことが、たむろの要因になっていることも指摘されており、実際夜にはその道には人通りがほとんどない。

また、住民との話し合いの中で、歴史的建築物があるサン・ピエトロ旧墓地が有効利用されていないという指摘が成されている。

以上の問題の指摘から、この地区においては、

サン・ピエトロ旧墓地周辺のライトアップによる地区内の治安の向上。

歩行者道路のネットワーク化

利用されていない建築物の有効活用

が地区に必要とされていると読み取れる。



図 3.1 地区 A の範囲

A地区の計画の提案⁴

1. ドーラ川右岸と橋の再整備
2. 歩行者専用道路としての旧モラッシ水路の開通
3. フォルティーノ通り地区の再活性化。居住、リクリエーション利用。
4. サン・ピエトロ通りからチクロ通りを緑地化、地下駐車場の建設。
5. サン・ピエトロ旧墓地に面した地区の再整備。泉、花壇を付す。
6. サン・ピエトロ旧墓地からアンドレス通りにかけての再整備。広い歩道の実現とコットレンゴ修道院のファサードの再整備。または、兵器工場内の中庭の活用とこの2道路の譲渡。
7. 領事館（Consolati）の立地を活かして移民の経済活動を促進しながら、レジーナ・マルゲリータ大通り北部（共和国広場とチーニャ通りの間）の再整備を行う。
8. 楽しく、文化的な利用を可能にするためにエマニュエレ・フィリベルト広場の再整備。
9. ガレリア・ウンベルト1世の再活性化をイベント、展覧会、コンサートなど夜間の活動で促進する。
10. パラティーナ門周辺地区にある子供・高齢者のための社会福祉活動空間の修復。また、ポテック口庭の修復。
11. コットレンゴ地区のモビリティ、地区内の連結、歩行者専用道路網を促進するため、アクセスしやすい歩道網を整備する。
12. ドゥオーモ地区の主要巡礼地区内に「宗教の歴史コース」を整備する。

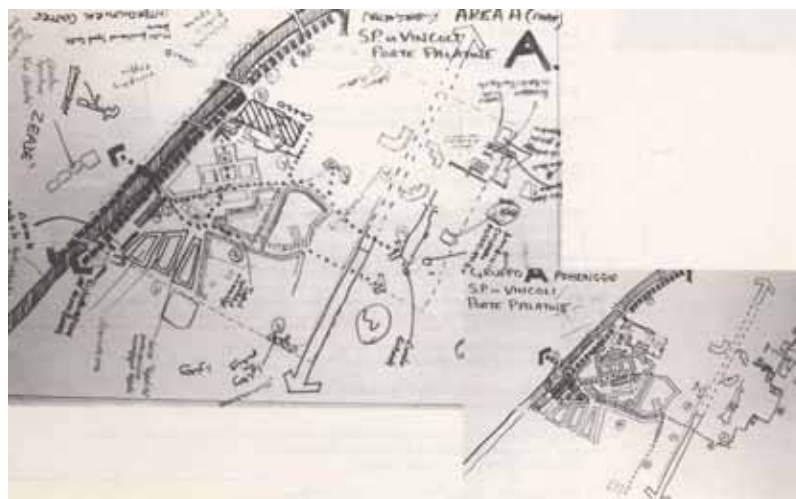


図 3.2 地区 A の話し合い過程を示す図面

⁴ Comitato Porta Palazzo (2001) Fuori Orario, Unione Europa FESR p.15-p.17 を翻訳

B 地区

地域の位置と住民が指摘する地区の問題

バルーン地区を構成している通りでは、疲弊した居住環境と経済的な貧困、社会的問題が問題の特徴となっている。労働者階級が住む隣には、この地区の再生を願う地区内の商店経営者、アパートを購入し修復した人々などの中産階級が存在している。

バルーンは現存する緑地で子供が遊ぶことができない、また余暇を過ごせない、疲弊した工場住宅地区として認識されている。

特定の地域では麻薬密売人かつ麻薬中毒者の常習場所であるため、危険な立ち入り禁止地区とみなされていることが指摘された。

ゆえに、危険もしくは歩行に適さないルートを強調して、歩行者の安全を保証することが重要である。ボルゴ・ドーラ通り、マメリ通りの再整備により、よりよい近隣の中心地を作り出すことができよう。

Sermig 青少年布教サービスとコットレンゴ修道院地域では、地区の歴史においてよく認知されているが、実際的に地区の住民に開かれておらず、日常生活上ほとんど接点がないことが住民から指摘されている。

旧モラッシ運河の公共空間としての開通や緑のアクセシビリティネットワークのような、ある浸透性をもった地区再生を行うことが不可欠だという話し合いがなされている。



図 3.3 B 地区の範囲

以上の住民による地区の問題の指摘から、

旧兵器工場の修復

旧モラッシ運河を歩行者専用道路に開通し、ポルタ・パラッツォ市場からのバルーン地区、

旧兵器工場を繋ぐアクセスを確保

が最も必要とされていることが読み取れる。

B地区計画の提案⁵

- 1 . サン・ピエトロ旧墓地に駐車場と児童公園を整備する。
- 2 . 現在の倉庫（補給基地）とサン・ピエトロ旧墓地の後ろに位置する大広場の小工場群に渡って、散歩道を作り出しながら、プリンチペッサ・クロティルデ橋に歩行者専用道路を整備する。
- 3 . ドーラ川沿岸を緑道とともに整備する。
- 4 . バルーン北側のアクセスにいたるファサードの再植樹化。
- 5 . SERMIG-旧兵器工場施設の総合プロジェクト。ボルゴ・ドーラ広場からのアクセスと歩行者専用道路である旧モラッシ水路にかけての修復。
- 6 . サン・ピエトロ旧墓地とアンドレイス通りを再連結し、旧モラッシ水路を歩行者専用化する。
- 7 . ボルゴ・ドーラ広場と荒廃した地区にストリートベンチを設置する。
- 8 . 共和国広場市場内の近郊農家が販売するゾーンに開かれる毎週日曜のイベントをコットレンゴ通りに移動し開催する。
- 9 . 共和国広場の歩行者専用化と植樹、プロジェクトの要素としての水の利用を促進。

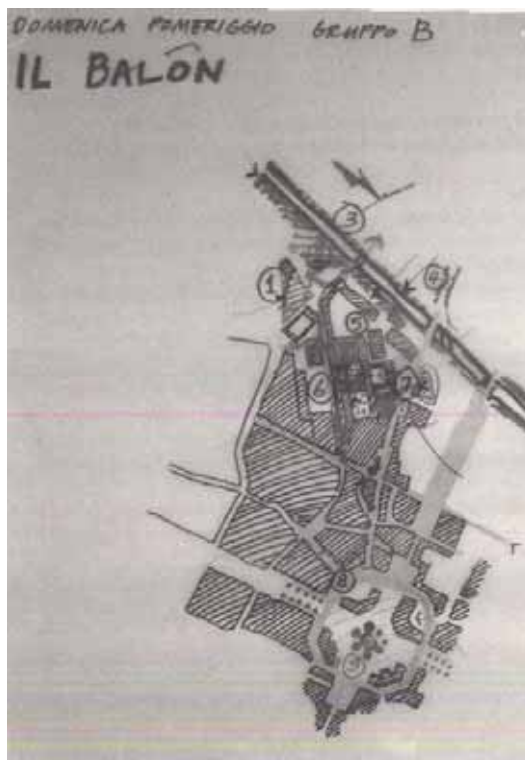


図 3.4 地区 B の話し合い過程を示す図面

⁵ 同上、p.20-p.2 を翻訳した。

C地区

地域の位置と住民が指摘する地区の問題

C地区は、ジュリオ・チェザレ大通りとトリノ - チェレス駅、サン・ジョアキーノ教会を軸とした地区であり、社会的観点から明確な特徴が浮き彫りになる特性をもっている。

サン・ジョアキーノ地区は、地区全体と比較して、貧困層が多く居住している地区である。住民のわずかなパーセントしか市場関連の仕事に携わっておらず、失業者が多い。

トリノ - チェレス間の終着駅であった旧ポンテ・モスカ駅 (Ponte Mosca) は、都市マスタープランにおいて、都市整備区域としてこの地域の再整備の核と位置付けられている。

市民からの要望は、旧駅舎の有効利用に焦点が当てられているのが特徴的である。



図 3.5 C地区の範囲

C地区計画の提案⁶

1. 駅地域全体に多機能性を持たせる再生を行う。
2. ボルゴ・ドーラにおける公衆電話の設置し、新たなリンクをつくる場所を確保すると同時に、現存する建築物の50%を再生する。
3. アンドレイス通り、ジュリオ・チェザレ通り角地の屋根を修復し、主に夜のバル・クラブとして使用する。
4. ドーラ川に面したアーケード空間の再整備し、職人・芸術工房として使用する。
5. コルソ・チェザレ大通りから「新広場」までの古いアクセス階段道を修復する。
6. 旧駅エリアの再生のために、集合住宅内のバルのいくつかをセンターとして使用する。
7. 川岸を屋台または音楽などのリクリエーション活動により、コントロール不能な空間の創生を阻止し、機能を取り戻す。
8. チェッキ通り（緑道）まで鉄道の橋梁を歩行者専用道路として使用し、緑があるエリアを広げる。
9. ボルゴ・ドーラ広場と旧モラッシ水路を歩行者道でつなぎ、旧兵器工場へのアクセス道路にする。馬小屋に使用されていた建物に行政7区の事務所を移転する。
10. 荒廃地において社会的利用を行う。
11. テラスを利用してパン屋の前に楽しめる場所をつくる。旧駅舎内にオープンされるボルゴ・ドーラ通りからスポーツ施設への道を利用する。
12. ドン・アルベラ広場に庭園と噴水、地下駐車場を整備する。
13. プリオッカ通りに植樹する。
14. 警察の詰所に利用できるようにジュリオ・チェザレ通り6番地の建物を修復する。
15. バルーン地区入口部分からの見通しをよくする。



図 3.6 地区 C の話し合い過程を示す図面

⁶ 同上、p.25-p.27 を翻訳。

3.2.5 考察

市民参加による 37 の提案は、要請の多い順から以下の 5 つの軸に分けられる。

1. 公共空間の改良に関する提案
2. 歴史的建築物の有効利用に関する提案
3. 社会・文化活動に関する提案
4. 地区商業活動に関する提案
5. 緑・環境整備に関する提案

ポルタ・パラッツォ地区内では、例えば、地区を総合的にライトアップすることで治安を維持などの、公共空間を改善すれば解決に繋がる社会的な問題が多かったことが特徴である。

また、地区内に未利用歴史的建築物を、地区の資産だと認める声が多く、歴史的建築物の有効利用が急がれた。

市民参加プロセスにおいて工夫が見られる点は、

- ・ まず、テーマ別の話し合いを設けて、地区内での問題を特定し、参加者全員で問題を認識した後で、地区別の話し合いで具体的に提案をまとめていったこと。
- ・ 中日を設けて、一旦専門家に議論をフィードバックし、次の話し合いに使用するマテリアルをつくる時間の余裕を与えることで、以降のワークショップの進行をしやすいようにしていること。
- ・ 参加者は自由に話し合いのグループ内を行き来できること。
- ・ ポスト・イット貼り付け方式で、参加者が意見を出しやすくしていること。

が挙げられる。

ワークショップ開催に当たり、開催後に何が残るのが肝要なところだが、このまちづくりワークショップでは、市民と専門家の熟慮の上、提案が生まれており、これらの 37 の提案は、地区の抱える問題を解決すべく、The Gate プロジェクトを実行していく上でのベースとなっている。この意味で、The Gate プロジェクトにおけるコミュニティ・プランニング活動は、都市における生活と余暇の質を改善する実行案を表現し、ワークショップで出された提案やヒントの価値を判断する行政側と計画委員会を協働させる方法として有効であったと評価できる。

第4章 The Gate プロジェクトの具体的施策

前章でみた市民参加による議論によりまとめられた提案は、地区の経済発展、社会文化活動、建築物・市場・公共空間への物理的介入のイニシアティブなどが入り組んだ複雑な介入プログラムに発展している。これらの委員会主導による19のイニシアティブは以下の5つの活動方針に沿うものである。

The Gateプロジェクト委員会が主導した19のプロジェクトに対しては赤の枠、The Gateが部分的に介入に関わったか、もしくは全く関わっていないものには緑の枠に分ける。

4.1.1. Piazza Affari-地区内の経済発展を促進するための取組み

「I Frutti della Qualità」 - 生産管理制度と廃棄物のコンポスト化の導入¹

活動内容

この活動は共和国広場の市場に流通する農産物の品質の向上を意図している。このテーマは以下の2つの技術的ツールで達成される。

- ・市場内の商品販売のために尊重されるべき条件を指定する新しい規則を制定。
- ・第三者が市場エリアの清掃・メンテナンス・生産者への情報サポートなどの管理を委託。上記の規則にしたがって市場のプロモーション活動と合理的な陳列台の組み立てが行えるようにする。

生ごみのコンポスト化は、市場のエリアと生産の場両方で、商業販売活動に関連して排出される廃棄物の最少化を意図したものである。コンポスト化は、共和国広場全体の市場の管理活動と清掃業者 AMIAT に実行される清掃活動の両方で実行されている。

活動データ詳細

- ・ 2001年3月22日トリノ市によって共和国広場の農業生産者のための規則が承認。
- ・ 市場の生産管理制度は現在実行されており、管理証明は2001年7月までに完了。区域の管理は生産者組合へ2001年10月に委託され、2002年6月まで持続する
- ・ その期日内の集計結果を基にして、トリノ市は市場エリアに財政投資をさらに行うかを決定する。

費用：384,402ユーロ（うち200,194ユーロが市場の管理に使用）

プロモーター：トリノ県生産者連合、トリノ市商業課、Softech都市コンサルタント
ポルタ・パラッツォ計画委員会方法論ユニット

¹ Comitato Porta Palazzo (2001) Final Report, Unione Europa FESR p.10-p.12, トリノ市ホームページを参考に翻訳、まとめた。

修復職人養成学校の創設と芸術・工芸技術の保護活動²

活動内容



写真 4-1
修復の様子

修復職人養成学校は1994年3月に、ピエモンテ州芸術修復協会(PAAR)と青少年布教サービス(SERMIG)の合意により創設された。旧兵器工場の大部分を修復し、用途を「平和のアーセナル」に変えることに寄与している。

学校側は、職人によるワークショップによって現在に引き継がれるべき伝統的な知識や技術を伝達することが急務であることを理解している人材を探してきた。特に、活気のある個人店経営者などは、ワークショップの環境と雰囲気をつくる空間・照明・設備を熟知しており、商売の仕方など実用的な知識を学生に教えることができ、教師としてふさわしい。この学校は、単に修復のコースを開いているということだけではなくて、本当の

修復職人のための学校として、芸術という適切に保護しなければ消えていくであろう文化遺産を守る一方、若者に対する新しい雇用を生み出すという2倍の目的をもっているのである。

芸術と工芸技術の保護活動

この The Gate プロジェクトの活動には修復職人養成学校が協働している。活動の目的は、修復職人養成学校のために実験室を設けることであった。初めは店舗を賃貸し、材料を買うための好ましい条件を提供し、修復職人養成学校このタイプの実験室の引き継ぎを維持していくことが目的であったが、博覧会などの国内・国際的なレベルの活動を開催することが知名度をあげるにはより有効であると考えられるようになり、活動は中止することとなった。実際における活動の目的は、アンティーク市場や修復された工芸品を量的にも質的にも改善させ、修復職人への雇用の機会を増大させ、芸術・工芸技術を若い世代に伝え、国際的なレベルに公表することである。

活動のプロモーターとしての修復職人養成学校は、ショーウィンドーを通じた活動を通して、The Gate プロジェクトと地区な内部や国内・国外レベルを繋ぐ役割を果たした。

活動データ詳細

レッスンは週に5日開かれており、期末試験がある。コース終了証明書はピエモンテ州から学生に渡される。

² 同上、p.13-p.14、修復職人養成学校のホームページ
<http://www.scuolartigianirestauratori.org/>を参照・翻訳した。

「Quando l'economico è Sociale」 - 就職支援オフィス「アポイエ」の開設³

活動内容

いかにして「アポイエApoliè」が生まれたか？

1998年、非EU国籍市民の雇用を促進するため、技術者養成訓練コースが創設された。コース開設中、参加者の中には外国人の人材を育て雇用市場のニーズに成長の即座に答えられる組織を形作りたいという意見をうけて、1999年に、議会はThe Gateプロジェクト活動内で、就職支援オフィスの開設が承認された。

アポイエとは何か？

2000年5月に設立されたアポイエは、就職斡旋・起業の手伝いを業務内容としている。アポイエの語源は、国を持たない市民とコートジボアールの伝統的な舞踊ポリエ (polié) からきている。

このオフィスは、多くの外国人がイタリアの雇用市場やメカニズムを知らないことが原因で、なかなか定職を探せないと状況を軽減することに努めている。



写真 4-2 アポイエオフィスの外観（筆者撮影）

雇用の登録段階

まずは就職したい外国人に対するコンサルティングを行い、シートに必要事項を記入、求職者情報を登録する。コンサルティングを通して、求職者の隠れた能力や特技を見つけ出し、かつ非現実的な職業への抱負を除くようにしている。また新聞、特別出版物、マルチメディアの広告からの求人情報も収集・提供している。

これら就職斡旋活動は、中国人、ルーマニア人、モロッコ人などの文化的な斡旋人の協力によって遂行されている。また、この機関が設立されて約1年間、注意深いニーズ分析のおかげで、企業には厳選された人材を提供し、求職者には個別の雇用コンサルタントを行っている。さらにアポイエは、雇用のための積極的な訓練を行っている職業訓練団体とも協働している。

活動のデータ詳細

期日：2000年5月にアポイエオフィスが開設

費用：55,020ユーロ（オフィス立ち上げのため、2001年1月まで）
84,898ユーロ（2001年12月まで）

パートナーシップ：地方雇用管理課、トリノ議会外国人課、地方雇用センター、
人材派遣・職業斡旋会社4社、職業斡旋代理店ASCUM

サービスの利用状況：登録総数180人（2000年11月30日）

³ Comitato Porta Palazzo (2001) Final Report, Unione Europa FESR p.15-p.18を要約した。

「Balon al Centro」 - バルーン蚤の市の活性化⁴

活動内容

The Gate プロジェクトによってポルタ・パラッツォ地区になされてきた多くの介入や活動の中で、この活動は最も必要とされ、かつ、込み入った問題であった。この活動は、地区経済を活気づけ、地区発展のための提案や率先的な活動である「商業活動プロジェクト (Piazza Affari)」の中に位置付けられている。活動の目的は、商業資源がたくさんある地区であると同時に、困難な問題を抱えているボルゴ・ドーラ地区が対象である。実際、ボルゴ・ドーラ地区は産業革命初期の都市の歴史において、繁栄の時期を謳歌した。ドーラ川の水は、水力として工場の機械を動かす原始のエネルギー源であり、兵器工場で作武器を作り出すエネルギー源であった。このような工業的な営みの周りであったボルゴ・ドーラ地区の生活は、大きな商業活動の場と化していった。ボルゴ・ドーラ地区は常にバルーンという蚤の市(古くからぼろきれ市場とも呼ばれている)が開かれているが、古物ばかりではなくアンティーク市として価値のある市場であり、一般にはバーゲンのように安く何でも手に入る市場でもある。この蚤の市は今日まで、まちの他のところや公式な市場では手に入らないものを探す人々を惹きつけてきた。続く歴史的段階にトリノに押し寄せてきた様々な移民の波は、元のコミュニティを再建し、生き抜く保証



写真 4-3 :バルーン蚤の市の様子 1(著者撮影)

をこの地区と蚤の市の中に見出すことになる。

これらは全てバルーンの蚤の市のための二つのアイデンティティを生み出すことになった。つまり、蚤の市はトリノの典型的な市民が散策するために楽しい賑わいであり、混雑した活力の場所である。しかし、その地区に住んでいる人々にとっては、蚤の市とは治安が悪く、疲弊し衰退した地区のイメージそのままであった。

The Gate プロジェクトによって実行された市民参加プログラムに基づいて、1998年5月14日、ボルゴ・ドーラ地区内にあるモンセット・レクリエーションクラブで、ワークショップが行われた。ワークショップには、地域コミュニティ全ての指導者40人が参加し、蚤の市の再生のためにさまざまな立場からの見方や経験を話し合いながら貢献できるアイデアや率先的な活動を議



写真 4-4 :バルーン蚤の市の様子 2(著者撮影)

⁴ Comitato Porta Palazzo (2001) Balon al Centro, Unione Europa FESR, Comitato Porta Palazzo (2001) Final Report, Unione Europa FESR p.19-p.25 を参考にまとめた。

論した。この会合によって作成されたバルーン再生のプロジェクトのシナリオは以下の通りである。

- A. 組織化と規則の制定
- B. 地区の安全性の向上
- C. 地区イメージアップ活動

これらのカテゴリーそれぞれが連続的な活動である。それらのいくつかは事業が着手され成功しているもの、まだ起動段階であるもの、起動されないままであるものがある。

4.1. 組織化と規則の制定⁵

活動内容

規則の介入の可能性を特定は、バルーン地区の商業活動の参考となり、バルーン・イン・チェントロの活動の目的ともなる。同時に、現行の規則の適用と改善、また、税率、課税控除によって、バルーン地区の商業活動を質的に刺激し、促進する可能性をもっている。これらの成果を得るために、6活動が以下のように特定された。

1. バルーン地区再生のオフィス

プロジェクトの修復活動を引き受ける貿易業者側に広い傾向があることが注目されている。オフィスの開設は、建物修復分野において、バルーン地区の商業関係者と財政機関とのアクセスを持続的に促進する情報及び調整ポイントとして利用される。

この付随的サポートは社会組織 Ascot に委託されている。Ascot は、有能な機関への融資の適用と、必要とされるすべての技術管理の書類蓄積をサポートしている。オフィスはガラリア・ウンベルト 内の The Gate プロジェクト本部に設けられた。

2. バルーン地区の商業的価値に対するコンソーシアム

バルーン地区の再生と商業の成長に関するすべての活動を管理するために、商業関係者の共同体を立ち上げる実現可能性を検討するスタディーを準備するために、1998年に Ascot 商業共同組合が委任された。スタディーの結果から、借款団の提案は現状では幾分早期のようである。なお、近年、独特な商業環境であるボルゴ・ドーラ、バルーン地区への帰属意識を感じる商業関係者の団結精神を生み出すための試みがなされてきた。多数のバルーン地区再生の可能性は様々な実行中の公共投資によって提供される。固定的な商業取引関係を行っている業者、Ascot 商業共同組合、不定期に商業活動を行う業者に関して、付随的な仕事は(株)Metodi に委託された巧績の融資をよくし、この地区再生を鼓舞することを可能にした商業関係者間の継続的な成長調整をもたらした。

3. 自然発生的な商業中心 (NCC Centro Commerciale Naturale)

バルーン地区は自然発生的な商業の中心地であるということが、近隣の cottengo、ボルゴ・ドーラ通りで認識される条件がある。この認識が中心地区の商業活性化のために組織に加入している商業関係者や職人に、連続的な商業の機会を提供することになるのである。特に、バルーンが自然発生的な商業中心である状況を支えている商業協同組合の商業関係者や職人に、提供された規定と経済チャンスを得やすくするものである。

商業組合の結成以来、商業区域への連帯感の創生に間接的に貢献する一連の介入を促進するよう決定し、地区内の新しい商業活動の起業に関する付随サービスを行っている。

⁵ Comitato Porta Palazzo (2001) Balon al Centro, Unione Europa FESR p.7-p.15 を翻訳、要約した。

4. 公有地(COSAP)の賃貸料の引き下げ

公共空間の再生や修復作業を直接促すために、COSAPは事業の価値が議会で定められ、公共利益を追求する意図をもつ事業の場合は、賃料を引き下げることができる。前述の基準により、議会の承認に基づいて、事業主体の地区内への介入が行える。

前述の可能性は2つの機会においてつくられた。The Gateプロジェクトの介入対象地域の場合、2001年12月末に終了予定の建物修復と管理を行う建築ゾーンに該当する住居に対しては、COSAPからの賃貸料の免除が受けられる。この免除制度は2002年末まで延期された。

洪水の被害により、サヴォイア・クロティルデ橋(Clotilde di Savoia)が崩壊したところによる損害に対し、2001年4月にトリノ市議会は該当する区域に店を構えている商業活動を活性化するために、公有地にある建物の賃料とを50%引き下げをする決定をした。適用期間は2000年10月15日から橋の復元の日付までである。従ってマウリツィアーノ修道院所有のサンタ・クローチェ街区の機能修復と保存のための作業現場の開設、衣服品部門市場の解体と建て直しのための作業現場の開設、レジーナ・マルゲリータ通り地下車道の建物の事業により、トリノ市は事業対象地区に該当する業者や職人の活動に関して、COSAPの適用を認めた。この規定は、バルーン地区も含んでおり、店舗外での商業活動や屋台のような移動性のある商業活動のため50%の賃料の引き下げを行った。このCOSAPによる規定は2000年末まで適応された。

5. バルーン市場の営業時間の変更

1998年に開かれたワークショップで、バルーン市場の営業時間の変更が提案された。実際、市民をひきつける魅力的な市場ではあるが、一方で業者が市場が開かれている広場から引き上げた後、不法取引の場と化すために、土曜の夕方は来客が少ないという問題を抱えている。木曜の午後に市場を開き、土曜日の営業時間の変更をするという提案はよい解決に結びつくこと期待される。バルーン地区商業者組合によって、ジラドーラ(Giradora)と呼ばれる実験的なイベントが試みられている。トリノ市は、1999年9月、バルーン地区が公共に貢献し、地域商業の再生の主題になってきたことがThe Gateプロジェクトの文書から立証されていることから、バルーン地区商業者組合の提案を承認するに至った。

6. マーケットエリアのレイアウト

市場エリアの建築物の介入は、道路の再舗装から屋台や商品陳列台のシステム化などの提案まで多岐にわたっている。公共空間再生に関する介入に関しては、旧モラッシ水路の歩行者空間化事業が2001年3月に開始されている。この事業から除かれていたアンドレイス通りの水路が存在した部分に関して、後に舗装化が進められ、この通りが中心街と旧兵器工場をつなぐ接点になることが意図されている。

The Gateプロジェクトは、移民間の対立問題の解決、歴史的建築物の介入に関する問題、情報提供、就任式のプロデュースなど行政と市民の仲介役という立場から付随的な仕事を実行してい

る。

- ・旧モラッシ水路の歩行者道化
- ・旧モラッシ水路歩行者道路に縁側空間を創出
- ・ボルゴ・ドーラの旧兵器工場マッリオ広場の修復事業
- ・ボルゴ・ドーラ通りとボルゴ・ドーラ広場の再舗装事業

4.2 ボルゴ・ドーラ地区における公的商業活動免許の免除⁶

活動内容

2000年9月、トリノ市はボルゴ・ドーラ地区において飲食業許可を免除する新たなエリアを作った。このエリアは商業的な疲弊地区と重なっている。トリノ市はバルーン地区の商業活性化のための活動の事実を認め、公共事業を含めて、新しい店舗を開店することを決定した。2001年1月29日、対象地域をバルーン地区周辺からポルタ・パラッツォ地区へ広げた。これにより、飲食店が増加をねらいとしている。新しい免許は以下のように細分されている。

類型 A (レストラン): 20 店舗

類型 B (バー): 20 店舗

類型 D (アルコールを扱わない飲食業): 6 店舗

活動データ詳細

期日: 2000年9月13日: 地区内に初の飲食業を開業。

2001年1月29日: 新店舗を出店。

パートナーシップ: トリノ市経済発展課商業部門
ポルタ・パラッツォ計画委員会
Ascot によるコンサルタント

⁶ ポルタ・パラッツォ計画委員会局長Iida Curti氏へのインタビューによる。

4.3 地区の安全性の向上⁷

活動内容

この活動の目的は、バルーン地区のイメージを改善し、地区を異文化・異人種が存在し、異文化体験ができる場所であるとポジティブに捉え、より他地域に開かれたものにするることである。しかし実際は、この地区イメージは危険で疲弊した状態にあることから、芳しくないのが現状である。バルーン地区を再生するために、The Gate プロジェクトは、店舗外の空間の価値を上げる地区内の商業ビジネスへの一連の投資を促進してきた。

- 今までに7つの商業活動が融資された。融資された活動はボルゴ・ドーラ通り、マメリ通り、アンドレイス通りの区域である。
- ファサード、看板、窓、照明、屋根など建物の外的要素の修復
- 介入費用：150億リラ。うち、The Gate プロジェクトからは45%融資
- 1999年の終わりから現在まで介入が実行されている

4.4 バルーン地区のイメージアップ活動⁸

活動内容

バルーン地区を対象とした地区のイメージアップのためのプロモーション活動が行われた。活動期間中、バルーン地区はエンターテイメントやレジャー機能を取り戻し、コンサート、芸術、教育イベントなど文化活動の開催と同じく、飲食業を始めたいと思っている人々の興味をひきつけ、地区のイメージアップに貢献した。

- 映像によるイメージアップ
- ロミオとジュリエット舞台の上映
- ベイビーバルーン
- 大道芸人 GIRADORA フェスティバル

⁷ Comitato Porta Palazzo (2001) Balon al Centro, Unione Europa FESR p.33-p.36 を要約した。

⁸ Comitato Porta Palazzo (2001) Balon al Centro, Unione Europa FESR p.16-p.32 を要約した。

4.5 映像によるイメージアップ⁹

活動内容

この活動は、若いアーティストによってサン・ピエトロ旧墓地内の50の映像をつくるものである。アーティストはその所属を問わず参加でき、若いアーティストによる選ばれたおもしろい映像を大型スクリーンに上映する。アーティストの中には世界的な知名度がある人材の参加も見られた。このイベントは若手芸術家協会とThe Gateプロジェクトにより推進され、4日間連続でダンス、詩、舞台、音楽なども楽しめるイベントとなった。

活動データ詳細

期間：1999年9月20日（月）から23日（木）

場所：サン・ピエトロ旧墓地

イベント開催費用：75,000,000 リラ。一部 The Gate プロジェクトの出資

パートナーシップ：若手芸術家協会（Associazione ArteGiovane）

The Gate プロジェクト

⁹ Comitato Porta Palazzo (2001) Balon al Centro, Unione Europa FESR p.19-p.32 を要約した。

4.6 ロミオとジュリエット舞台の上映¹⁰

活動内容



写真 4-5 : 劇上演中の様子



この活動は地区内の環境やコミュニティに関連した社会的な文脈で構成された演劇活動である。4ヶ月間、演劇関係者と多国籍の若者が小学校に集まって活動を行った。彼らの活動は、多民族コミュニティが存在するポルタ・パラツ

ツォの中心部の学校で行われ、芸術活動と社会的な意義の両方の面から、トリノ市全体に大きなインパクトをもたらすイベントをおこなった。

ポルタ・パラツォの振動する中心地は多様な文化・民族が入り混じっている市場である。また、このイベントにより、それぞれの文化が自身を認識する文化交流地点となった。

500人の観客収容可能な大アリーナでは、13人のプロの俳優と多国籍の40人の若者が6日間にわたってシェイクスピア演劇を演じ、イタリア人とEU以外の外国人が協働し演劇を作り、その演劇を見るためにイタリア人以外に外国人も集まってくるという意味で、トリノでは初の試みであり、メディアや市民の両方から注目を浴びた。

このプロジェクトは2000年2月から活動開始され、以下の3つのレベルに発展した。

学校を活用し、演劇の準備

ロミオとジュリエットを演目として、専門家の指導の下、若者が脚本を書き、週一度フリーペーパーに掲載された。

ポルタ・パラツォ地区での演劇ワークショップ

10の演劇ワークショップが開催され、11歳から14歳までの250人の若者が参加している。ワークショップはプロの俳優や演劇の専門家によって指導され、ナレーションの仕方や演じ方の違いの文化交流を通して、ワークショップの主題を発展させた。

演劇イベントの開催

実際の演劇上映するにあたる準備には、俳優、若者、演劇関係者（監督、照明、音楽、背景など）が参加してイベントをつくりあげている。参加した俳優と若者の

¹⁰ Comitato Porta Palazzo (2001) Balon al Centro, Unione Europa FESR p.32 を要約した。

国籍は、ブルキナ・ファソ、コートジボアール、エジプト、ケニア、モロッコ、セネガル、アルバニア、ロシア、ブラジル、フィリピン、ペルーである。1ヶ月間の総合監督、劇団と技術チームの指導の下、練習と舞台装置の準備がすすめられ、リハーサルが重ねられた。

活動のデータ詳細

期間：2000年6月17日から22日まで

開催場所：ALBE STEINER 小学校の中庭

市民の参加：約4000人

プロモーター：トリノ市議会、ピエモンテ州、CRT銀行、「テアトロ・アンジェロ」
舞台スタッフ（演出家、照明など技術スタッフ）11人、トリノ市劇場、The Gate
プロジェクト計画委員会

4.7 大道芸人GIRADORAフェスティバル¹¹

活動内容

活動の目的は、7月から9月にかけて週末の夕方において、バルーン市場の営業時間を延長し、大道芸により道に一種の劇場をつくることで、普段衰退している地区に活力を取り戻すことにある。広場や混雑している道を開催の地として選ぶのではなく、バルーン地区内に仮設舞台が建てられ、開催された。また、サン・ピエトロ旧墓地地区を、夏季のみ利用・開催した。

活動のデータ詳細

期間：1999年9月

パートナーシップ：バルーン商業者組合、トリノ市

¹¹ Comitato Porta Palazzo (2001) Balon al Centro, Unione Europa FESR p.16-p.32 を要約した。

外国人への職業訓練コース VIA dalla Strada ¹²

活動内容

The Gate プロジェクトのビジネスインキュベーターに関連して、若い非 EU 市民を対象に、エネルギー関係もしくは土木建設業の職業訓練コースが創設された。このコースはトリノ市エネルギー公社とパリーニ (Parini) 生涯教育地域センターの支援を受けている。この教育活動の主な目的は、資源の省エネルギー分野のような、めざましく発展している専門分野を認知する機会を提供することである。提案の重要性と成功は技術的なノウハウの伝達や教える側の技術にだけによるのではなく、それ以上にコミュニケーションの過程で使用される教授法とそれがグループの内でもう効果ができるかということに左右される。職業訓練に参加した若者達は、他の参加者と教師陣に得られたノウハウをさらに高め、伝達することを期待されている。



写真 4-6 職業訓練が終了して、市場の清掃業に携わる外国人移民(著者撮影)

マルチメディアコミュニケーションの専門家の助けにより、生徒の目、感情、要求、提案を通して、この活動に興味をもった全ての企業や部門などにこの活動の経験を詳述する CD-ROM を作成することも可能である。

生徒達は彼らの勉強に続いて CD-ROM やビデオフィルム、写真、テキスト等の作成にかかわった。このマルチメディア活動は、このプロジェクトの成功のための基本である積極的な活動への参加を動機づけるものになった。

活動の成果: 9月に作成された CD ROM はプロジェクト事務局で入手できる。

活動データ詳細

職業訓練コース修了書の授与: 2001年7月2日月曜日トリノ市役所でとり行われたトリノ市エネルギー会社: 職業訓練プロジェクトの実施にあたって、過去の実績に基づいて、最も適切な職業訓練を追求している会社とトレーナーを選定。職業訓練プロジェクトは、科学技術的なプログラムをコースに含んでいる。

総額 11,640 ユーロ - 22,538,183 リラ

パリーニ生涯教育地域センター

出資総額: 2,582 ユーロ - 4,999,449 リラ

パートナーシップ: トリノ市エネルギー会社

(職業訓練プロジェクト、実習コースなどを行っている)

¹² Comitato Porta Palazzo (2001) Final Report, Unione Europa FESR p.26-p.27 を要約した。

バリーニ生涯教育地域センター
(各種教室、文化活動、グループ訓練・グループ社会活動のプロモーター)

4.2 安全ネットワークをつくる取組み

Oltre la strada - 売春にかかわる女性へのコンサルタントケア活動¹

活動内容

この活動は、トリノ市売春婦の人権を考える委員会の協働により、売春を行っている人々とコンタクトを確立し、維持する目的で始められた。特に、売春を行っている大多数が移民であるため、彼女らとのコンタクトが重要であると考えられた。

- 売春を行う場所および市民との関係の質に関して、態度の変化のための第一次条件を作成するワークプログラムを、この売春に関わる女性達（以下、本活動の「ターゲット」と表記する）とともに定義。
- 健康・病気の予防に関して、売春活動に属する労働水準と居住水準を改善する。
- 強制・搾取の労働条件に置かれている女性に対して、それからの脱出を促す。

活動の段階は次のとおりである。

1. 地元の会合

トリノ県の承認を受けて、プレーシャ通り 10 番地において、トリノ市売春婦の人権を考える委員会によって会合が取り決められた。

2. マッピングと観察

売春婦の人権を考える委員会は活動の責任を負う組織として、トリノ市外国人課と協働の下、以下のような活動を展開した。ターゲットの特性（国籍、母国語、年齢、実質または推定される搾取の状態など）をマッピングを行った結果、プロジェクトの区域には多数の売春婦が存在していることが明らかになった。

ターゲットを指導する方向性、もしくは売春婦の仕事をサポートに生かすことのできる、サービスネットワークと市・県レベルでの活動をマッピングする。

- 時間帯を越えて観察をおこなう。直接集まった情報とこの区域の社会的指導者の協力によって、ターゲットと顧客、また一般市民との労働条件や関係を改善する。まず彼女らへの最初のアプローチとそれに続く支援活動を実行するために、The Gate プロジェクト区域にある大きな外国人コミュニティに属する文化的な仲介人の選択する。

売春婦の人権のための委員会が担当する活動は次のとおりである：

1. 活動の場となるオフィスや活動対象地区において、人材育成をおこなう。

¹ Comitato Porta Palazzo (2001) Final Report, Unione Europa FESR p.30-p.32 を要約。

2. プレーシャ通りの建物内で、ターゲットに対するホスピタリティと社会文化的なレクリエーション活動を行う。

ターゲットに関連するデータは、この活動サービスをおこなっている間に入ってくることが多い。彼女らの需要にサービスの供給をよりよく適応させるために、継続的なサービスがもたらされている。

活動データ詳細

期間：プロジェクトは1998年5月に開始し、2001年2月末仲介役の活動は終了。

出資額：95,750ユーロ

(49%欧州連合：47,688ユーロ、24.5%トリノ市：16,240ユーロ、25.5%売春婦の人権を考える委員会：16,790ユーロ)

プロモーター：The Gateプロジェクト

売春婦の人権を考える委員会

トリノ市外国人課

TAMPEP (ヨーロッパの多国籍移住売春婦AIDS・STDの防止委員会)

Una Scuola al Purlare - 生涯学習センターの設立²

活動内容

この活動は、既にポルタ・パラッツォ、ボルゴ・ドーラ地区の若者のための会合場所であるサン・ジョアキーノ礼拝堂を修復し、地区の青少年がユース・コミュニティのための安定的な活動地点になるべく、学習の場、余暇のためのセンターにすることを目的としている。このセンターの職員は、ボランティア、コミュニティ活動に携わる人材、兵役の代わりにボランティア活動をする人材、また時に、教師により構成されている。センターの活動は、平日午後は小・中・高等学校に対し開かれており、土曜日の午前は小学生のみに開かれている。

年齢別に3つグループに分けられる約40人の子供達は、属している学校の先生から承認を受け、特別教育プログラムに参加している。この活動を円滑に進めるには、ユースセンターの運営者と生徒の家族が真剣に向き合って協力することが重要とされている。

センターに通う子供達は、学校、家族、クラスメート、地元の教育組織からセンターに通うように言われたか、または自身の自由意志で通ってきているかのどちらかである。

1998年の夏休み期間には小中学生の子供を対象とした学習活動は6週間に渡って行われ(6・7月の平日月曜日から金曜日の、8時30分から17時まで)、加えてアニメーションと食事のサービスも提供された。

同年10月には、低い教育標準にある未成年者約50人を対象とした活動が行われた。さらに娯楽やスポーツ、アニメの上映など活動も始められた。礼拝堂内の部屋の一部は母と子が穏やかに遊ぶことができる6歳以下の子供部屋や大人のためのビリヤード部屋、音楽室やアニメ部屋などの用途に適切のようにリフォームされ、使用されている。

活動データ詳細

期間：1999年6月から12月にかけて実行。

出資額：59,068ユーロ；The Gateプロジェクトからの出資は71.8%に当たる

プロモーター：The Gate プロジェクト

サン・ジョアキーノ教会

² Comitato Porta Palazzo (2001) Final Report, Unione Europa FESR p.34-p.35 を要約。

EXTRA INFORMA - 外国人への情報の提供活動³

活動内容

この活動は、情報を提供し、さらに活気づけるための活動である。この活動は、地区内に住む若い外国人を対象に、彼らの生活により一般市民が近づきやすいように、The Gate プロジェクトと地区内の外国人のかけ橋となって、人材の育成や文化、スポーツや娯楽などについて共に考え、人が集まり活力を生み出せる形態を作ることを目的としている。活動は、ヴァルドッコ協同組合の協働によって、さまざまな活動が以下のように繰り広げられた。

- 外国人作家への興味を促進するために、地区内の図書館に多言語の新聞や雑誌を置く。
- アルバニア人コミュニティのサッカーチームをつくる。
- 外国人のためのイタリア料理コースの開催、パリーニ学校と共同し、外国人のためのイタリア語コースの開設。
- 毎週日曜の午後に、地区内の施設を利用して、外国人同士が互いに知り合いになる機会をつくる。
- ワールドミュージックワークショップの開催
- ヴァルドッコ協同組合青少年センターでの仮設劇場の開催
- プロジェクトの共同作用を開発するアポイエ職業支援センターへの支援活動
- トリノ議会の青年文学所と共同して、若い作家のための文学コンペの宣伝・促進。



写真 4-7 コミュニティ別
対抗サッカーの成績表
(著者撮影)

この活動から 2 つの利点に繋がるポテンシャルが明らかになった。1 つは、地区内で集合に提供できるストックや空間の発見をすることが出来たこと、また地区がポルタ・パラッツォ市場のまわりで自発的な集合が行われていることである。

介入データ詳細

期間：2000 年 3 月から 11 月

総出資額：33,130 ユーロ（80% The Gate プロジェクト，20% ヴァルドッコ協同組合）

パートナーシップ：ポルタ・パラッツォ計画委員会

Valdocco Animation Cooperative

³ Comitato Porta Palazzo (2001) Final Report, Unione Europa FESR p.38-p.39 を要約。

4.3 サステイナブルな環境を目指した取組み¹

ENERGIA DI QUARITERIE - 地区のエネルギー循環

Da Rifiuto a Risorsa 市場の廃棄物のリサイクルシステムの構築

Verde in Scatola 市場の生ごみのコンポスト化

介入内容

に関しては、居住に関する問題は、相当数のパイロットイニシアティブによって挑まれている。コンドミニアムなどに対し、34 のエネルギー節約事業が実施。地区内環境改善の介入は公共建築物の再整備（現代化）と民間の住居再整備のための居住者へのインセンティブも含まれている。平均 7,552 ユーロの節約になった。独立した住居に対する 9 つのエネルギー節約事業に関しては、平均 736 ユーロの節約になったそのイニシアティブとは、エネルギーの節約のための専用のプログラムがなされているリサイクル可能な廃棄物を収集することである。 の活動に関しては、ポルタ・パラッツォの市場から出る生ごみは、食料産業に関わる作業員に送られるコンポストに生まれ変わるよう収集され、リサイクル活動に貢献している。

活動データ詳細

環境保護、AMIAT清掃会社、トリノ市商業課、ポルタ・パラッツォ市場代表者、ピエモンテ州農業協同組合、トリノエネルギー会社

の活動において、外国人移民に対し、市場内の廃棄物の収集、分別、清掃作業の職業を創成

¹ Comitato Porta Palazzo (2001) Final Report, Unione Europa FESR p.41-p.49 を要約。

4.4 空間環境改良を目指した取組み

1. 一般の建築への介入事業¹

ファサードの修復事業

活動内容

The Gate プロジェクトは、ポルタ・パラッツォとボルゴ・ドーラ地区に存在する建物のすべてのファサードを修復するため、ファサードを公募することを発表した。歴史的建築物へのイニシアティブを高め、地区住民にファサードの修復の機会を提供することは、この修復事業により、よりプロジェクトの進行具合が視覚化される。予算はより傷みの激しいファサードに焦点を当て、技術の専門家で構成される委員会によって評価された多数の介入を実現させた。

選ばれたプロジェクトは、2億を超過しない介入に対し、費用の50%の約1億が出資された。

活動データ詳細

2001年4月6日：公告

2001年5月4日～14日：出資申し込み期間

2001年5月31日：2001年12月31日まで有効な公式リストの発行

当初は74のファサードへの出資申し込みがあった。ケースごとの吟味の後に、61のファサードについて実施されることになり、うち24についてはThe Gateプロジェクトからの出資を得ている。

全体費用見積額：3364128ユーロ

うち、877.977ユーロがポルタ・パラッツォ委員会の出資。

2001年11月13日、トリノ市は見積額2.525.714ユーロに基づいて、

残り37のファサードへの出資について、1.136.200ユーロの出資を審議している。

パートナーシップ：トリノ市都市イメージ部門



写真 4.8：修復されたファサードの例（著者撮影）

¹ Comitato Porta Palazzo (2001) Final Report, Unione Europa FESR p.52-p.75 を要約。

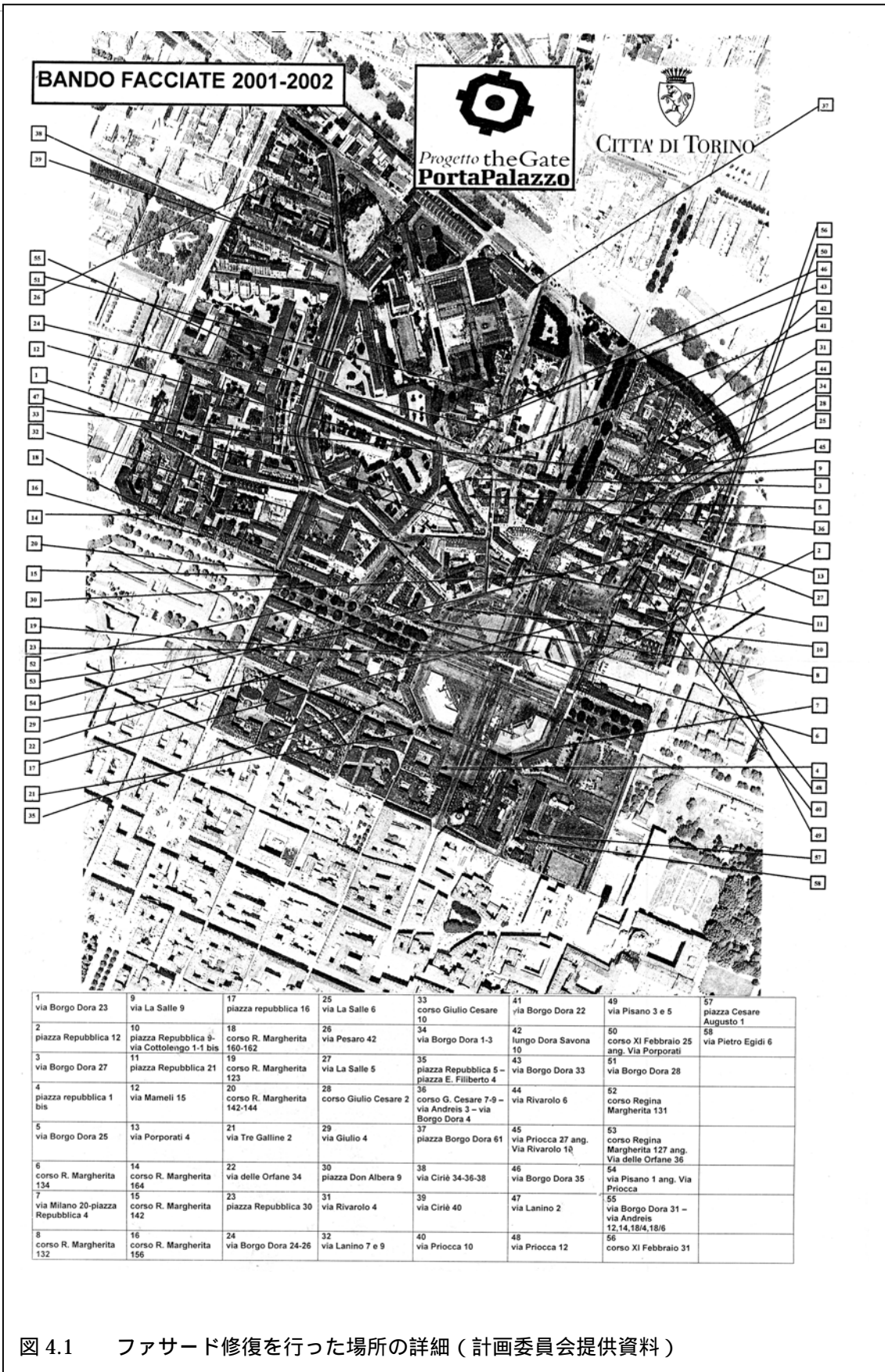
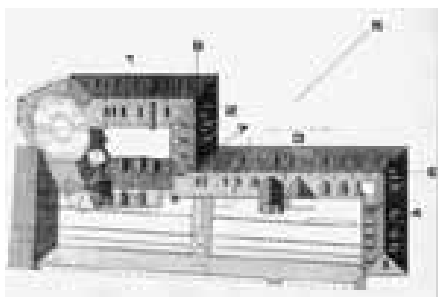


図 4.1 ファサード修復を行った場所の詳細（計画委員会提供資料）

サンタ・クロッチェ街区 (San.CROCE) の修復事業

介入内容



この事業はサンタ・クロッチェ街区のマウリツィアーノ修道院 (Ordine Mauriziano) が所有している建物の修復・保存・改装および機能回復の介入事業である。

この事業は歴史的建築物の修復ならびに住居部分の機能改善と、屋根裏部分を居住用に使用している建物に関しては、新しいアクセス (階段とエレベーター) を設置し、屋根窓を設置するなどの内装の改装を含んでいる。

マウリツィアーノ修道院の所有である建築物の総合的な機能再生と修復事業への投資対象には下記のものを含んでいる。

- 公共部分に関する介入
- 商業用に使用する建物部分の修復
- 業務用に使用する建物部分 (3 階部分) の修復
- マウリツィアーノ公会堂の地下聖堂に博物館の機能をもった地下階を新設

介入データ詳細

事業期間: 2004 年 12 月 17 日までに終了予定。

サンタ・クロッチェ街区におけるマウリツィアーノ修道院所有の修復のための一連の介入は、修道院に約 20,000,000,000 リラの新発支払を約束させた。民間資本からは一時的な賃貸物件のニーズを満たす部分的な投資のみにとどまった。

マウリツィアーノ修道院所有の建物の様子



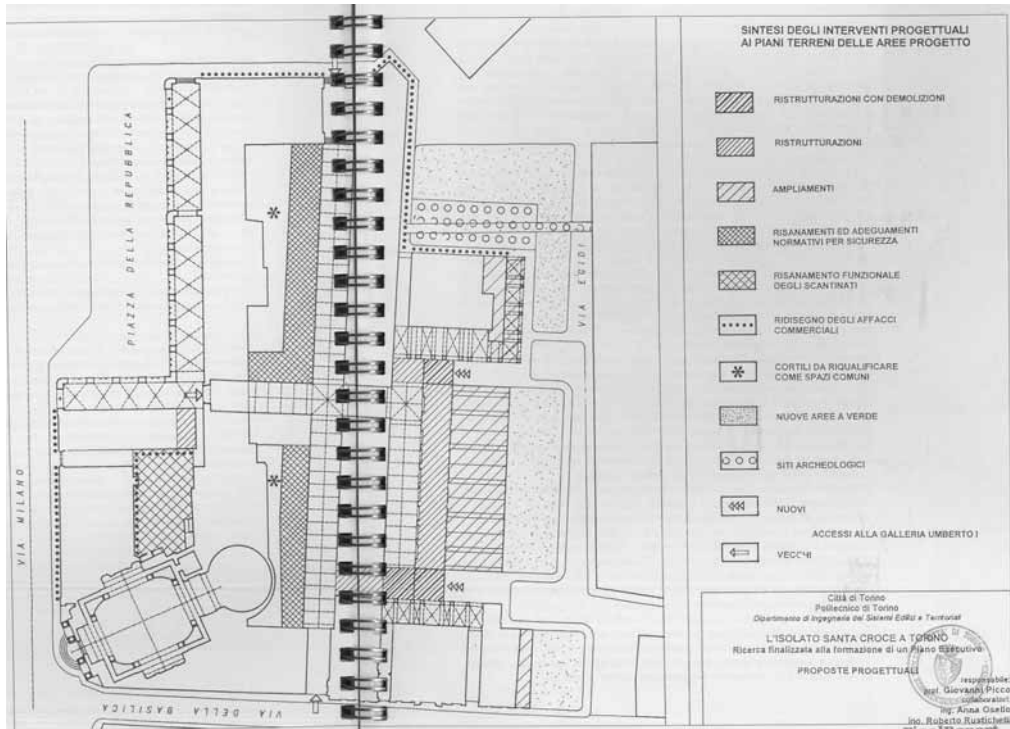


図 4.2 : サンタ・クローチェ街区の修復図面 (Final Report p.54-55 より)

旧兵器工場の修復

介入内容



写真 4.9 : 旧兵器工場の外観
(著者撮影)

このプロジェクトは、ボルゴ・ドーラにある旧兵器工場の一部を、職人が住み、ワークショップやサービス活動が行われるのにふさわしい複合施設に変更し、バルーン地区の核として機能するように主眼が置かれている。かつ歩行車道を伸張し、市場からこの施設までのアクセスをしやすいことに主眼が置かれている。

最も重要な構造は、旧兵器工場の4つの中庭の1つが、ショップのショーウィンドウが内部にずらりと並んだ屋根つきの広場に生まれ変わったことである。正方形の広場の屋根は、てっぺんが空いているピラミッド型で、屋根の内側は木が格子状に組み合わされており、それらを4つの鋼鉄の支柱が支えているという構造になっている。トリノ市議会は1995年の議会決定による実行プロジェクトとともに、旧兵器工場地域全体の再生にかんするガイドラインの概略を示した。

また、この介入は、長年に渡って閉ざされ、覆われたままであった旧モラッシ水路に沿う、新しい道の開設を含んでいる。新しい道はバルーン地区の中心に位置し、現在旧兵器工場の壁によって遮られているドーラ川に平行に走るフォルティーノ通り(via del Fortino)を連結するという歩行者空間のネットワーク化の役割をもつ。新しい道を開設することで、旧兵器工場の建物の大部分を構成している中心地域の分離をやわらげ、相互間のアクセスをしやすい効果をもっている。介入事業は、旧モラッシ水路に新しい道を開通すること、旧兵器工場内の公共に閉鎖されている2区域の用途変更を含んでいる。2区域とは、後にグランデ・マッリオ広場になった溶鉱炉の区域と、その隣に位置するチリエッジョ広場と呼ばれる小規模な区域である。

この建物の用途変更から作られる複合施設は、職人の住居やワークショップを行うために適しており、それによりボルゴ・ドーラ地区を活気づける機能を助長することになる。

The Gate プロジェクトは、この新しい場所に商業活動を挿入していくためのワークショップも開催している。さらにボルタ・パラッツォ計画委員会は、商業活動をする候補者を選定する機能もあわせ持っている。

介入データ詳細

期間：2001年10月16日承認された行政事業。2002年春に事業が始動(1年間)。

全推定事業費用 2.066.000.000 ユーロ。

パートナーシップ：交通環境部事業課 公共空間再生部新事業部門

2 . ポルタ・パラッツォ市場の再整備

MERCATO S-COPERTI - ポルタ・パラッツォ市場の再整備に関するデザインコンペ

活動内容

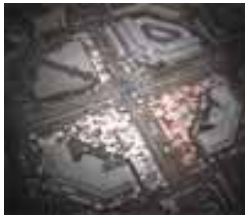


写真 4.10 : 市場の航空写真
(委員会提供)

ポルタ・パラッツォ市場の再整備について話し合うフォーカス・グループには 30 人以上が継続的に参加している。うち 15 人は市場関係者である。ヨーロッパ全土に広報された共和国広場の再整備のデザインコンペには 34 の応募があり、200 人の専門家がこのテーマに関わった。

活動データ詳細

1999 年に市場のデザインコンペが行われた。2000 年 4 月にコンペの優秀作品が公表。5 月、一部の参加者の妨害により、ピエモンテ州はコンペの勝利者リストを無効にした。

優秀作への賞金

100.000.000 リラ (51.645 ユーロ) - 最優秀賞

50.000.000 リラ (25.822 ユーロ) - 準優勝

30.000.000 リラ (15.493 ユーロ) - 3 位

5.000.000 リラ (2.582 ユーロ) 次点、4 作品に対して



写真 4.11 : 市場の再整備に関する

フォーカス・グループが作成したガイドライン

関連事業：市場の衣料品部門建築の建て直し

介入内容

この共和国広場のパビリオンを解体・建て直し事業は、中心市街地再生を目的とする1994年の都市再生プログラムの公共事業省からの通達に従って、公共・民間からの共同投資を受けている。これらの都市再生プログラムは公共事業省、ピエモンテ州、トリノ市が一致した協定に基づいている。また、都市再生プログラムは、公共事業省、トリノ市、民間主体から出資を受けている。建て直しの前にパビリオン内に店を出し、トリノ市議会に対し賃貸契約を持っていた小売業者(およそ50)のオーナー達は、協同組合を立ち上げ、新しい建物内に99年間の商業スペース使用権を要求し、事業への私的な出資と引き換えに、99年間の営業権を得ることになった。管理プロジェクトによると、古いパビリオンが建っていた表面積に加え、その後ろとまわりの舗装まで占めるもので、以前よりも大きな建築物になる予定である。パビリオンの周りの舗装は最小化することになる。パビリオンの全体は5角形をしており、テラス付きの地上2階と地下駐車場



写真 4-13 : 建て直し中の衣料品部門の建物

場を備えている。(計画されていた第2地下駐車場は、地区全体を横切っているの下水管があるために実現には至らなかった。

駐車場面積5000㎡、商業用面積3000㎡、2000㎡は自由な内部空間を構成している。地上全高12.5mで、食品用市場と同じ高さである。屋根は垂鉛メッキから成り、地面に少し傾斜し、螺旋形をしているが、ほとんど平らな形状である。1階と2階はエスカレーターで繋がれている。

事業データ内容

完成予定：2004年

総事業費：約23,000,000,000リラ

執行主：トリノ市

議会：都市再整備事業本部新築事業課

ポルタ・パラッツォ計画委員会

3. まちづくりワークショップ「FOUR I ORARIO」の提案を受けた物理的介入

ジュリオ・チェザレ大通りの照明のリニューアル

活動内容

ポルタ・パラッツォ、ボルゴ・ドーラ地区の公共照明システムをリニューアルプロジェクトの背景には、トリノ市に代わって、トリノ都市エネルギー株式会社 (Azienda Energetica Metropolitana Torino S.p.A.) がジュリオ・チェザレ大通りの両車線に対する介入を実行した。側面車線に沿って、東側には、特に商業活動が集積している。従って、照明装置は商業用に審美的である必要がある。機能と都市の装飾となる2つの役割を果たす照明システムであるスポットライトの設置が選ばれた。この照明は地区の昔がいかようであったかを思い出させる効果も持ち合わせている。このスポットライトは、現代的かつ機能的な外観を持った初の電気供給による照明システムであるということで、トリノ市の都市イメージ部門により承認された。この照明器具は対称非対称に光を生み出すしくみを持っており、一直線で明るく全ての照明が同じように上向きであることから生じる、光による公害を防止することに配慮されている。この照明器具は、必要な照明のレベルを提供できる金属ハロゲン蒸気ランプが用いられるが、同時に、地区の再生によく適合した質的な視点から、美しい照明を実現することができる。

サン・ジョアキーノ教会の装飾照明

この事業は、ファサードに照明を当て、ファサードの立面を強調することにより、歴史的建築物の価値に焦点を当てている。特別なプロジェクターが壁に固定されたブラケットを使用して設置され、照明器具はキセノンランプで電圧変圧器を使用し、低電圧で供給される。建物の低い部分は、舗装に食いこんでいるニッチに置かれるプロジェクターによって照らされている。アシンメトリーな光を放つこれらのユニットはファサード内を効果的に照らしている。

旧トリノ チェレス駅舎の装飾照明

この駅舎は19世紀末期の典型的な私鉄のターミナル駅であった。この駅舎に関連する複合建築物のファサードをライトアップするために、プロジェクターは適切なニッチに設置された。ファサード内部を効果的に照らすために、照明装置はアシンメトリーな光が用いられている。正面玄関は柱を際立たせるために、壁に設置されたプロジェクターにより明るくライトアップされている。これら全ての介入は、強力な建築的存在価値と強調するように意図されており、新しい照明システムによって生み出された快適さは、地区を再発見・再評価することに貢献している。

介入データ詳細

期日：2000年 11月に介入着手、11月 25日に終了

総出資額：439,400,000 リラ

パートナーシップ：トリノ市

The Gate プロジェクト

トリノ都市エネルギー会社

The Gate プロジェクト対象区域の総合ライトアッププロジェクト

介入内容

ポルタ・パラッツォとボルゴ・ドーラ区域は、その都市空間をよりよくするために、地区の夜のイメージアップに貢献し、都市空間の再発見をすることができるよう、個人の安全を保証する規準にのっとった公共照明を実現する場であった。この介入は、全面的な照明の質にこだわって、現在の照明システムとは異なる解決法を探っている。また、介入の第一目的は、達成されるべき照明基準に基づいて、単に道路を一定の数と質の照明を設置するのではなく、照明を地区の環境の質を向上させる付加価値として捉えることである。

The Gate プロジェクト対象区域の総合ライトアッププロジェクトは下記を含む。

- エリアを対象とした照明計画 ボルゴ・ドーラ、サンジョアキーノ、コットレンゴ、旧兵器工場の区域の公共照明デザインに関するプロジェクト
- 道路を対象とした照明計画 ジュリオ・チェザレ大通りとフェブライオ・セコンド大通りの中央車線のような、大通りの公共照明に関するプロジェクト
- 点的な場所を対象としたプロジェクト 建築的・歴史的価値を高める場所やものを集中的にライトアップするにプロジェクト

介入データ詳細

- 1999年10月、プロジェクト開始。
- 総出資額 75,000ユーロ（出資比率：The Gate プロジェクトから80%の60,000ユーロ、AEMから15,000ユーロ）
- パートナーシップ：AEM 都市エネルギー会社（Azienda Energetica Metropolitana SpA）



写真 4-14 ファサードのライトアップの様子



写真 4-15 ポルタ・パラッツォ市場の建物のライトアップ

トリノ チェレス旧駅舎の修復（実施に当たっての前調査段階）

活動内容

トリノ チェレス間のターミナル駅であった旧駅舎を新たな用途で使用し、ポルタ・パラッツォ市場の商業的な魅力と文化的でリクリエーションに関するイニシアティブを互いに結びつけるために、ポルタ・パラッツォ計画委員会はコミュニティ・プランニングという市民参加を開催した。このコミュニティ・プランニングとは、旧駅舎に具体的な新しい用途を割振るにあたって、一般市民、経済や文化活動の推進者、近隣からの考えを取り入れ、計画に反映されるものである。



写真 4-16 : 現在の旧駅の様子（著者撮影）

このプロジェクトは、以下の2つのステップをたどった。

1. The Gate プロジェクトのプランナーと技術者によって構成されるグループは、1999年10月ロンドンへ赴いた。その目的は、イギリスでもトリノの旧駅舎と同じような経験の分析がなされていたためと、旧駅舎のある区域への介入のための方法やポテンシャルを実証するためであった。
2. トリノ チェレス間旧駅舎に関する調査の成果は、The Gate プロジェクトの SOFTECH 方法論専門コンサルタントに委託された。このスタディは、特に市民の地区への要求と、文化や教育、食に関する催し物、商業活動など、戦略的に投資に興味を起こさせられる事業者の特徴に基づいて、地区の機能を識別している。

活動データ詳細

- 1998年6月12日から16日 まちづくりワークショップ「Fuori Orario」開催。2001年10月 SOFTECH により旧駅舎の前可能性の調査が実施。
- 前可能性の調査による旧駅舎エリアの機能再生のための費用見積総額：7.298.142 ユーロ
- ポルタ・パラッツォ計画委員会（プロモーター） SINATECH 都市コンサルタント（実施前調査）

旧モラッシ水路の歩行者空間化

介入内容

ボルゴ・ドーラ地区の旧モラッシ水路(ex-canale Molassi)を歩行者空間化する介入は、アンドレイス通り(via Andreis)からマメリ通り(via Mameli)にかけて行われた。この場所はかつてボルゴ・ドーラ地区のためのエネルギー資源を製造しており、都市の産業セクターの先駆けであった。かつては家庭菜園を灌漑し、都市清浄作業を保障するのにもまた運河が使用されていた。生活に密着していたこの水路が埋め立てられ放棄されたのは、1940年代にさかのぼる。

介入前年までの介入対象道路沿いの建物は、屋根がぼろぼろに朽ち果てていた状況であった。このプロジェクトは、道路の舗装とオープン・カフェなどに利用できる縁側空間など、商業用建物をつくることも含んでいる。

このプロジェクトを特徴付ける主要な介入は、朽ち果てた屋根の破壊と、場所が持つ歴史的なイメージを喚起させる材料での舗装、また公共の照明計画である。歩行者道路はルツェルン石の玉石と平板で舗装された。この道路の中央部分には、かつてそこに存在した水路を思い出させる青い大理石で正弦を描いたデザインが施されている。

旧モラッシ水路から(2001年末に工事終了)アンドレイス通りにまたがったこの新歩行者道路は、マッリョ広場やサン・ピエトロ旧墓地などに接しており、複合施設になった旧兵器工場へのアクセスを容易にするものである。



写真 4-17 : 歩行者道開通に合わせて開店した店舗



写真 4-18 : かつての水路を思い起こさせる舗装のデザイン



写真 : 4-19 商業空間用に縁側空間を設ける(以上、著者撮影)

介入データ詳細

2001年3月15日に開通式がとり行われた。

総投資額：1,500,000,000 リラ

プロモーター：交通環境課

新公共事業部門、運河・橋梁部門、公共空間再生部門

AEM エネルギー会社、The Gateプロジェクト

サン・ピエトロ・イン・ヴィンコリ (SAN PIETRO IN VINCOLI)

教会に隣接する敷地への駐車場の再整備

介入内容



写真 4-20 : サン・ピエトロ教会入り口
(著者撮影)

サン・ピエトロ・イン・ヴィンコリは、柱廊玄関が付いている4辺形タイプの18世紀後半の墓地で、ポルタ・パラッツォ The Gate プロジェクトが再生する区域として特定した区域の境界に位置している。墓地の隣の区域は、一方では用途変更プロセスによって(マッリョ広場, SERMIG 参照)、もう一方では、低質なストリートファニーチャーと照明の道路システムによって特徴付けられる。照明プロジェクトを含め、駐車スペースへと気持ちの良い都市環境を作り出し、この地区の安全性を高めるために、独特なバロック式建築を有効利用することが必要とされ、The Gate プロジェクトとトリノ議会の公共空間新事業課は、AEM と共同して、約5000 m²の駐車場合むプロジェクトを実行している。この駐車場は、

地区の150台分の駐車スペースを備え、再舗装がなされ、新しい照明設備が設置されている。

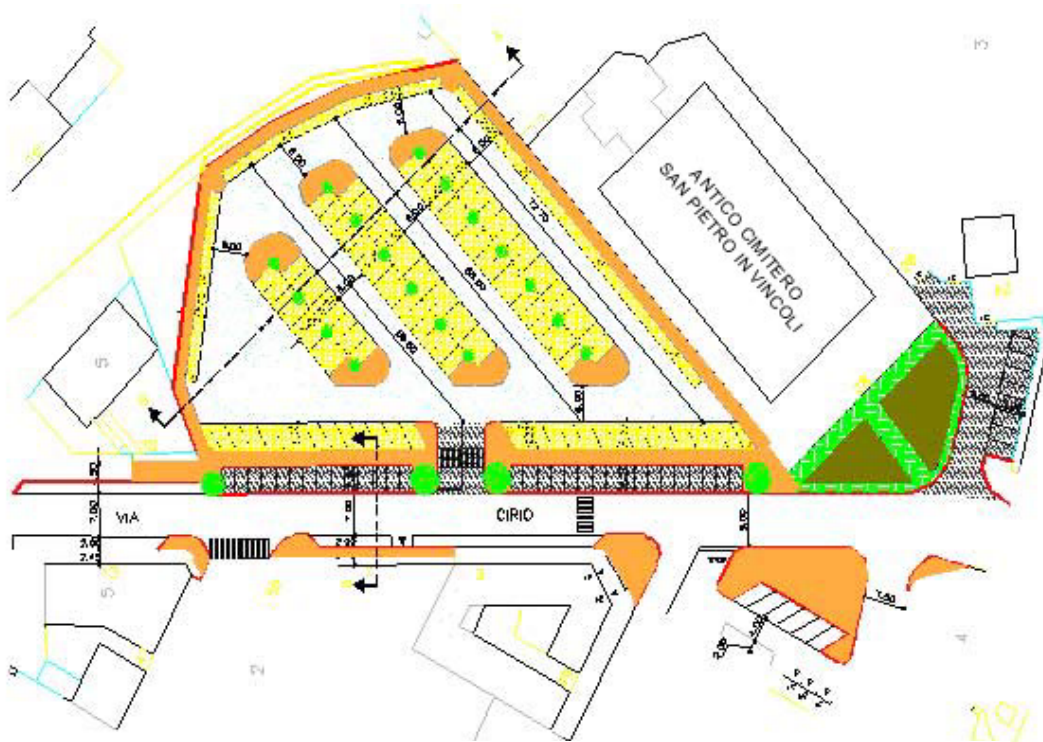


図 4.4 サン・ピエトロ・イン・ヴィンコリ駐車場計画図（委員会提供）

介入データ詳細

- 事業開始日 2001 年 4 月 9 日 事業終了日 2001 年 8 月 6 日
総持続期間：120 日
- **事業総費用**：334,000 ユーロ。内 50%は The Gateポルタ・パラッツォプロジェクト 50% トリノ市。
照明プロジェクトには 46,480 ユーロ。(内 80% The Gateプロジェクト、20% AEMによる)
- **パートナーシップ**：トリノ市公共空間新事業部、The Gate プロジェクト、AEM都市エネルギー会社

4.1.5 社会・文化的つながりをつくる取組み¹

1. インフラ整備によるつながりの創出

立体駐車場の建設

事業内容



写真 4.20：立体駐車場

立体駐車場の建設は1989年トリノ市議会都市駐車場プロジェクトの1つであった。1995年に事業の承認を得ている。

駐車場の管理権は80年間有効であり、30年経過後に権利所有者は1時間毎駐車料金の300倍と等しく、収入の5%と等しい管理料金を支払わなければならないことになっている。

この立体駐車場は、フィオケット通り (via Fiocchetto)、共和国広場、レジーナ・マルゲリータ大通りに面した街区の消防署があったところに建てられた。建物のファサードは消防署時代の良好な状態を生かし、現在に引き継がれている。立体駐車場の構造は、853台分の駐車スペースを備えている(1階92台 個人使用または業者使用)、761の駐車スペースが優先的に契約者使用のために供されている(地下1階96台分、地下2階106台分、1階109台分、2階110台分、3・4階112台分、5階116台分)。駐車場入口はフェブライオ通りに面しており、歩行者もアクセスできるようになっている一方、車の出口はフィオケット通りに面している。

駐車場代1時間2,000リラ(2時間まで。以降は1時間につき1,500リラ)。

介入データ詳細

- 立体駐車場建設事業：1996年10月着工。1998年10月30日終了。考古学サービスと共同して実行された掘削作業中に、考古学的な遺跡が発見されたためその修復のために、5か月事業が延長されることとなった。
- 事業総額：17,683,777,301リラ。うち、537,427,301リラは所有者によるが自己資金による。
- プロモーター：トリノ市交通環境課。
施工：ローマASTALDI建築会社
駐車場管理：マントゥア・イタリア駐車場株式会社 (APCOA)

¹ Comitato Porta Palazzo (2001) Final Report, Unione Europa FESR p.77-p.82の翻訳と計画委員会局長へのインタビューによりまとめた。

ミラノ通りの再生事業 (VIA MILANO)

介入内容



写真 4.21 : ミラノ通りの歩道の様子

ミラノ通りの再生事業は、ピエトロ・ミッカ通り (Via Pietro Micca)、サン・フランチェスコ・アッシジ通り (Via S. Francesco d'Assisi) そして共和国広場の再生事業につながる軸線であるミラノ通りを範囲としている。

この事業内容は主には道路の再舗装であるが、特に、以前あったトラムレーンの取り外し、歴史的な中心市街地方面への単一のトラムレーンを設置して一方通行化することにより、歩道の拡張を図っている。

歩道は、ATM社の計らいにより、トラムレーンとの間を石造りの花壇やポストで区切られてある。事業実施区域は約 7500 m²に及ぶ (トラムの停留所を含む)。

介入データ詳細

事業開始日: 1999年5月

事業終了日: 2000年2月

総事業費用: 1,746,000,000 リラ

事業者: トリノ市 公有地課

パートナーシップ: ATM (トリノ市交通社) - AEM (エネルギー会社) - AAM Telecom (電話会社) - Italgas - Enel

により、トラムレーンとの間を石造りの花壇やポストで区切られてある。事業実施区域は約 7500 m²に及ぶ (トラムの停留所を含む)。

2. 市民と外国人移民のつながりの創出

多文化紹介活動 *turisti a casa*

活動内容

クマレシェフ (Chef Kumalé) とクスクス・クラン文化連盟(Couscous Clan)によって実行されたこの多文化活動は、特に「食の入口」を通じて、異文化に対する知識につながる活動である。また、一般やメディアにも異文化に対する興味が高まりつつある今日の状況は、特にポルタ・パラッツォ地区において、市民が実際に「異文化」に直面したとき、市民と異文化との矛盾した関係に光をもたらずのものであった。都市への移民の流入の増加とポルタ・パラッツォ地区の外国人居住の集中は、いままで常に「新トリノ市民」の社会的な会合場所であった。この現象により、現在ある様々な異文化コミュニティがそれぞれの文化の商品を求めるようになった。ここ5年にわたって、トリノのこの地区では、多様な国籍(アラビア人、アフリカ人、東洋人など)の企業家によって経営される経済活動がかなり増加している。それらの多くは、食品やケイタリングサービスなどの部門に關係している。多民族共存という認めざるを得ない難しい問題は、しばしばメディアによって問題が激化されているが、地区住民と旅行者の間で危険や不安感を高め、地区全体に対して歪められたイメージを作りだしてきた。

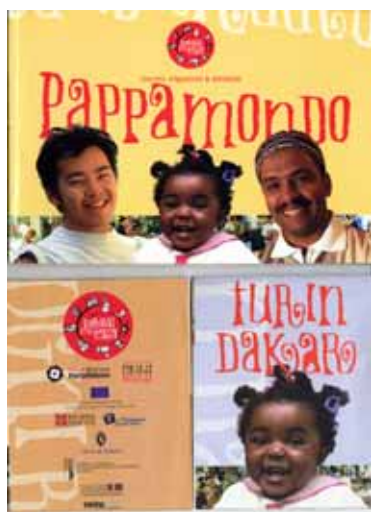


図 4.5 : 食文化紹介パンフレット

クマレシェフによって 1995 年から今日までプロデュースされる料理のコースや世界の文化紹介活動は、ポルタ・パラッツォをただエキゾチックな商品を見つけるためだけの活動ではなく、重要な関係性をつくる場であるとしている。

このプロジェクトは、我々の共同国家を多民族間や経済間の旅行や会合を通して、移民のコミュニティにより近づける意図をもって、1999 年の秋に創設された。600 人以上の人々が、モスク、エスニックショップや多民族のバザーなどを散策し、珍しい食品を味わい、市民が囲まれているコミュニティの別の面を知る喜びを体験するという独特な観点からポルタ・パラッツォ地区を再認識している。

The Gateプロジェクトの協働により、市場の多民族構成に関する3タイプの地図を作成した。「100% ARABIAN」という地図はイスラム教のコミュニティに対し、「TURIN-DAKAR」は西アフリカのコミュニティに対し、「OGNI BEN DI BUDDHA」東欧諸国の少数派コミュニティやアジア世界ために作成された。

これらの地図は、この地区で利用できる現在無数にある多国籍食料品店のガイド冊子 (PAPPAmondo) とともに、市民に会合や買物・飲食する場所に、自分自信で新たなルートを

発掘する手助けになる。

活動データ詳細

第1段階(終了)

移民コミュニティとその説明により紹介される製品の領域と人口調査のマッピング。

上述の地図及びガイドのグラフィックおよび編集。

第2段階(進行中)

スポンサーの特定と出版のサポート

第3段階

プロジェクトの始動と完成した地図などの配布

費用：第1段階 52678.60 リラ（ポルタ・パラッツォ委員会からクスクス・クラン文化連盟へ）

パートナーシップ：ポルタ・パラッツォ計画委員会

クスクス・クラン文化連盟

Erbettaグラフィックスタジオ

フォトレポーター Michele D'Ottavio

DAR AL HIKMA アラブ - イタリア文化センター

活動内容



1985年から、このセンターはトリノの、もしくはピエモンテ州、さらにイタリアのアラブ文化を紹介し、アラブ世界への橋渡し役となるべく創設された。

センターの目的



1. イタリア内のアラブ・イスラム文化とアラブにおけるイタリア文化についての知識を増やす。
2. アラブ世界の調査及び国際研究活動の促進。
3. アラブ文化に関する各種情報の提供。
4. 図書館など各種施設の公開。
5. アラビアの言語のコースを組織し、培養するため

活動データ詳細

期日：2000年11月にオープン

出資：トリノ県から30,000,000リラ、ハマン協同組合から10,000,000リラ

Dar Al Hikma文化センター会員費から1,500,000リラ

パートナーシップ：

- 1- 在ジェノヴァ チュニジア領事館
- 2- ヨルダン領事館
- 3- イラク大使館
- 4- トリノ大学考古学研究科
- 5- フランス文化センター
- 6- アラブ世界センター
- 7- トリノ市第7行政区
- 8- トリノ市議会
- 9- トリノ県
- 10- ピエモンテ州
- 11- サン・パオロ銀行

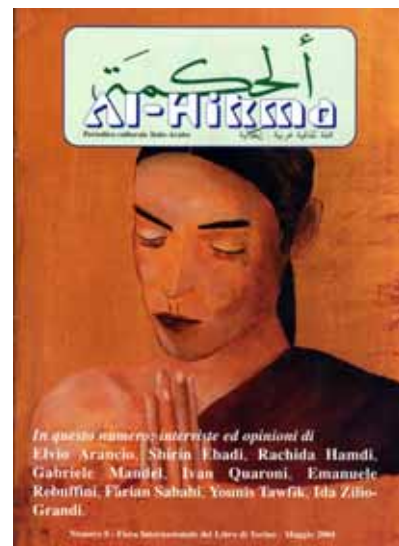


図 4.6 DAL AL HIKMA の定期刊行物

1. Piazza Affari - 経済発展を促進するための取組み

The Gateプロジェクト名	イベント	物理的な介入事業	職業の創生	サステナビリティ	パートナーシップ
1.1 「I Frutti della Qualità」 品質管理制度の導入	市場に流通する農産物の品質管理についてのフォーカス・グループ	ポルタ・パラッツォ市場のインフラ整備 ハード:側溝など排水設備の再整備、日よけの設置。道路と市場を隔てる柵の導入。アルミ製の折畳み式陳列台の導入。 ソフト:露店営業税を設ける。	商品陳列台の組み立て、解体、保管をおこなう移民による協同組合が組織された。	環境への負のインパクトを低減し、近郊農業経営の会社から流通する農産物に対し、品質管理の基準を導入。	ピエモンテ州農業協同組合、トリノ市歴史建築課
1.2 「Il Restauro dell'Artigiano」 職人による修復	トリノ市、サルッツォ市で展示会を4回開催(2001年3月から11月まで)	疲弊地区内にある公共医療センター内での芸術の展示会を開催。センターのイメージを改善するのに貢献。			修復職人養成学校
1.3 「Quando l'economico è Sociale」 就職支援オフィス「アポリエ(Apoiie)」の開設		外国人移民と市民をつなげる窓口にするべく、移民が多く居住する地区内に銀行など企業の支店を開設。ジュリオ・チェザレ15番地に就職支援オフィスを開設。			Apolièオフィス
1.4 「Balon al Centro」 バルーン蚤の市の活性化のための取組み	バルーン地区商店主代表者と自治体が参加したワークショップの開催(1998年5月) 地区商業活性化戦略を話し合うグループ作業(1998年9月~12月)	21店舗の外装の修復・改装。(ショーウインドウ、ファサード、看板など) 旧モラッシ水路歩行者道に5つの縁側空間(dohor, 220m ²)			イタリア写真財団 教育システム評議会事務局
1.5 「Via della Strada」 職業訓練コースの開設			15歳から18歳までの10カ国の外国人青少年を対象に、専門的知識を習得する建築・エネルギー業界の職業訓練コースを開設。		トリノ市エネルギー会社(AEM) パリーニ生涯学習センター

2. Rete di Sicurezza - 安全ネットワークをつくる取組み

The Gateプロジェクト名(伊 語原題、日本語訳題)	イベント	物理的な介入事業	職業の創生	サステイナビリティ	パートナーシップ
2.1 「Oltre la Strada」 売春婦へのコンサルタントケ ア活動			プロジェクト期間内に170人の女性を売春 からドロップアウトさせた。中心街に出て売 春をしている女性のほとんどが、何らかの 相談ができる場やカウンセリングを求めて いた。		売春婦の人権 保護組織
2.2 「La Limitazione del Danno」 麻薬中毒者支援活 動					アベレグループ 協会
2.3 「Una Scuola al Plurare」 生涯学習センターの創設		地区内の若者の 集合場所であるサ ン・ジョアキーノ教 会地区の再整備。 現在では地区の 若者が余暇を過ご す常設のセンター となっている。	年齢別に3つグル ープからなる約40人 の子供達は、属してい る学校の先生から承 認を受け、特別教育 プログラムに参加し ている。		サン・ジョアキー ノ教会
2.4 「Operazione Sicurezza」 地区の治安向上のための活 動			地区内の交通法違 反の減少 地元コミュニティと商 業関係者からなる自 衛組織の結成。		
2.5 「Extra-informa」	歴史的な文脈を もつ場において、 多文化フェスティ バルの開催				

3. Sostenibilità - サステイナブルな環境を目指した取組み

The Gateプロジェクト名(伊語原題、日本語訳題)	イベント	物理的な介入事業	職業の創成	サステイナビリティ	パートナーシップ
3.1 「Da Rifiuto a Risorsa」 市場の廃棄物のリサイクルシステムの構築	リサイクルシステムを考えるフォーカス・グループ			2000年春、共和国広場で試験的にデモンストレーションが行われた。1週間、市場関係者が参加して行われ、人材の必要性と廃棄物の分別問題が指摘された。	環境保護課 AMIAT清掃会社 トリノ市商業課 ポルタ・パラッツォ市場代表者
3.2 「Verde in Scatola」 市場の廃棄物のコンポスト化	市場から排出されるごみのリサイクルを考えるフォーカス・グループ		外国人移民に対し、市場内の廃棄物の収集、分別、清掃作業の職業を創成。	79の屋台が並ぶ農産物部門からの廃棄物排出の最小化。	ピエモンテ州農業協同組合 AMIAT清掃会社
3.3 「Energia di Quartiere」 地区のエネルギー環境に対する取組み		コンドミニウムなどに対し、34のエネルギー節約事業が実施。平均7,552ユーロの節約になった。独立した住居に対する9つのエネルギー節約事業に関しては、平均736ユーロの節約になった。		ポルタ・パラッツォにおいて、暖房費として一家庭(規模80m ²)当たり年間1,200m ³ の天然ガスを消費が見積もられた。これはThe Gateプロジェクト対象地区内ですでに完成した事業によるもので、毎年280ユーロの節約になる。	トリノエネルギー会社

4. Un Posto per Vivere 空間環境改良を目指した取組み

The Gateプロジェクト名	イベント	物理的な介入事業	職業の創生	サステイナビリティ	パートナーシップ
4.1 「Un Edilizia Civile」 一般の建築への介入事業	共和国広場、サンタ・クローチェ街区全体の再生に関するフォーカスグループ	傷みがはげしいと選定された64のコンドミニウムのファサードの修復。うち、27は最初の段階でThe Gateプロジェクトにより財政支援を受け、第2段階で市の財政支援を受けた。	旧兵器工場の部分的な修復:個々の面積72~370㎡にわたる職人工房を38実現。		マウリツィアーノ修道院 (株)シナテック
4.2 「Mercati Scoperti」 ポルタ・パラッツォ市場の再整備	共和国広場の再整備計画に必要な要件を議論するフォーカスグループ		フォーカスグループには30人以上が継続的に参加しているが、うち15人は市場関係者。ヨーロッパ全土に広報された共和国広場の再整備のデザインコンペには34の応募があった。約200人の専門家がこのテーマに関わった。	フォーカスグループ	
4.3 「Fuori Orario」 ポルタ・パラッツォ地区まちづくりワークショップ	都市ビジョン実現する実験として、1999年6月12日~16日に「Community Planning Weekend」が開催。約200人の市民を巻き込んで地区再生の100のアイデアの中から37の具体的提案をつかった。	サン・ジョアキーノ教会、トリノ-チェレス間旧駅舎、ジュリオ・チェザレ大通りの歩道、旧モラッシ水路歩行者道に15,000kWの街灯の設置。 全長約150mの旧モラッシ水路に歩行者専用道路が開通。ここには場所がもの文脈を記憶舗装のデザインが施され、おしゃれな公共街灯が整備された。 サン・ピエトロ教会の隣地に150台分4500㎡の駐車場と25の街灯を整備。斑岩で再舗装。 サン・ピエトロ教会旧墓地に接するボルゴ・ドーラ広場とボルゴドーラ通りを整備し、バルーン地区とサン・ピエトロ旧墓地を旧モラッシ歩行者道路で連結する。合計約30,000㎡にわたり、インフラ整備と歩道の再舗装を行った。	夜間も開店しているバールやクラブを地区内に7店舗開店。	バルーン地区の歩行者ネットワーク化。	

5. Legami 社会・文化的なつながりをつくる取組み

The Gateプロジェクト名(伊語原題、日本語訳題)	イベント	物理的な介入事業	職業の創生	サステイナビリティ	パートナーシップ
5.1 「I Cicro-azioni」 インフラの整備による つながりの創出		レジーナ・マルゲリータ 大通りの地下車道の建設。 全長約800m(うち400mは地下部分)。 全域の交通渋滞を緩和する 方法で、ポルタ・パラツォ 市場へのアクセスを しやすくした。		立体駐車場「パラツォ」 の建設。853台分収容 可。1階部分に市場の業 者用に92台分、他761台 分は一般向けで契約者 対象。	
5.2 「Alla Ricerca dei Legami Perduti」 市民と外国人移民の つながりの創出			ポルタ・パラツォにおい て民族料理の紹介マッ プ25万部を作成。多国 籍料理のレシピ(5千部) を地区内の食料品店に 配布し、関連商品の横 に提供する。トリノ市民 が外国人移民のコミュニ ティーにより近づき、地 区経済のポテンシャル を高める目的がある。		クス・クス・クラン連盟
5.3 「Inter-@zioni Positive」 The Gateプ ロジェクトのインター ネット上での情報公開					

第5章 The Gate プロジェクトの定量的・定性的評価

トリノの街中では、The Gate プロジェクトのおかげで以前より安全な地区になり、ポルタ・パラッツォ地区への社会問題に対する心理的な壁もだいぶ取り除かれたと耳にするが、その実際を定量的、定性的評価から検証する。

第5章では、The Gate プロジェクトにより、地区がどのようによくなったのかを評価する。定量的な評価に関しては、資料やデータが不足しているため、地元新聞記事などの定性的評価を合わせて行う。

5.1. 定量的評価

1995年の調査による地区内失業率 20.6%から 2003年には 12.8%¹に減少した。これは職業訓練コースなどを通じた雇用の斡旋業務からの貢献があったと言える。

また、大幅な減少ではないものの地区内犯罪率は 1995年の 3.32%から 3.23%²へ減少した。これは地区内で起こる犯罪は、減少したとしても、トリノ市の他地域からスリや麻薬密売にくる者も存在もあるので、効果が見えにくいのが実際である。

5.2. 定性的評価

地元での評価

地元有力紙「La Stampa」と「Il Sole 24 Ore」では、プロジェクト終了後から現在までポルタ・パラッツォ地区の再生をテーマとした記事が合計 12 回取り上げられ、委員会の革新的なアプローチと社会文化活動で地区内に賑わいを取り戻したことが評価されている。(表 5-1 参照) また、これはいかに The Gate プロジェクトに関して、市民の関心が高いかを示していると読み取れよう。

専門家からの評価

2001年にフランス・グルノーブル市で開かれた都市シンポジウム³では、ジェッリ(2001)は The Gate プロジェクトの目的が「地元行政機能の発展とともに、地元コミュニティの自己組織力を養うのを促進する」であったとした上で、「The Gate プロジェクトは、多様な主体を巻き込んだワークショップを通じて、地元の社会的ネットワークを発展させることを狙いとしていた」とし、The Gate プロジェクトのまちづくりワークショップを評価している。

¹ 1995年トリノ市発表による

² 同上

³ Francesca Gelli, ECPR Joint Sessions Workshops, Grenoble 6-11 April 2001, FEDERALIZATION PROCESS, PARTICIPATION AND DEMOCRACY IN ITALY, The Examples of the Veneto Region Constitutional Chart and of City of Turin New Urban Policies

EUの枠組みにおいてThe Gateプロジェクトが果たした役割への評価

EUの都市政策はUPP 全体が成功を見せたため、共同体主導プログラム URBAN、URBAN となって継承されていく。統合的なアプローチから社会的排除の問題などに対して取り組み、その成功事例のひとつとなることで、URBAN への橋渡し役となったと評価できる。

イタリア国内においてThe Gateプロジェクトが果たした役割への評価

イタリア国内では、URBAN、URBAN から多くの自治体が地区ベースの都市再生プログラムに始めて取り組むこととなる。ゆえに、トリノのThe Gateプロジェクトが他のイタリアの自治体に先駆けて、介入対象地区を限定し、統合的なアプローチから都市再生に取り組む、基礎としての役割を果たしたと言える。

トリノ市内においてThe Gateプロジェクトが果たした役割への評価

トリノ市内でのThe Gateプロジェクトの評価を暗示している例として、イタリアのバリでのURBANの成果がある。バリでは、「URBANプログラムが介入ターゲットの絞込みを行い、集中的に都市再生に取り組んだことで、地区住民が問題を認識し、改善の可能性を信じるようになった」⁴と評価されている。トリノにおいても、介入ターゲット地の絞込みと同様のアプローチで行われているため、地区住民がプロジェクトによる住環境の改善の可能性を信じ、パートナーシップが成功したのではないかと考えられる。

空間環境介入への評価

空間に対する介入に関しては、選択的に介入した建物やアクセス道を修復し、市民の目をひきつけるようなソフトを入れ込んでいるのが評価できる。例えば、旧モラッシ水路の歩行者空間化に伴い、縁側空間を作り、そこにカフェや工房を開店させている事例がある。これは商業を歩行者空間に入れ込むことで、回遊性が高く、歩いて楽しい空間になるように計画されている。かつ、店の営業形態を深夜営業にすることで、地区内の治安の見張り役としても機能する。このように、1つの物理的介入に商業活動や社会文化活動を発生させ、1つの場に多機能性を持たせ、賑わいを作り出しているのが特徴的であり、評価に値する。(図5-1参照)

また、旧兵器工場やサン・ジョアキーノ教会に見られるように、地区内の使用されないで放置されていた歴史的建築物を修復した後に、ソフトの活動として、地区内のマイノリティや若者に対する社会文化的活動を行っていることも特徴的である。

⁴ Barbanente,A., Tedesco,C. (2002) “Bari. Un nuovo volto per il Borgo Antico”, Il Programma Urbana e l'innovazione delle politiche urbane. Esperienza locali: contesti, programmi, azioni, FrancoAgnelli /Diap, Milano

表 5-1 新聞で取り上げられた The Gate プロジェクトに関連する記事の詳細

掲載期日	原題	新聞名	記事の内容	評価
2002.9.15	Borgo Dora: a che punto è la notte	La stampa	ボルゴ・ドーラ地区の商業空間再生	縁側空間・工房の設置の評価。夜も楽しんで歩ける快適な空間に変わったことが評価
2002.6.30	Gate, il tavolo di tutti	Il nostro tempo	The Gate プロジェクトの紹介	総合的アプローチからの施策が評価されている
2003.10.11	Torino non cambiare	La stampa	旧駅舎の新たな利用方法	ポルタ・パラッツォ地区をトリノ市の中心部と捉え、フランス文化センターが利用を検討中
2002.12.12	Torino mon Amour, quelli che hanno scelto di viverci	La stampa	オリエンタルファーストフード店の新出店	地元商業を行う環境がそろっていると評価
2003.3.5	Settanta autori per un libro romanzo collettivo ambientato a Torino	La stampa	70 人のトリノ市民が各地区についての小説を共同執筆	ポルタ・パラッツォの地区の特性と社会問題についての近年の変化を評価

2003.7.16	C è cinema sotto la tettoia	La Stampa	市場の建物内での都市再生をテーマにした映画上映イベント	地区内の積極的な社会文化活動への評価
2003.7.16	Terra di tutti e di nessuno	La Stampa	ボルタ・パラッツォ地区の治安について	プロジェクト前は、市民は危険地区だとみなしていたが、以前より改善したことへの評価。未だ消えない麻薬密売問題。
2003.10.11	Porta Palazzo, è guerra al degrado contro decine di proprietari speculatori	La Stampa	居住用建築物のさらなる介入事業推進について	The Gate プロジェクトでのファサードの修復事業への評価と、他の建物に対しての持続的な介入の必要性
2003.11.30	Nasce a Porta Palazzo il cantiere interculturale	La Stampa	ボルタ・パラッツォ地区に新たな国際文化センターが設立	ボルタ・パラッツォ地区の再生で芸術家の活動に適した土地になってきたこと、社会文化活動への評価
2004.1.28	Boom di Iscrizioni di bambini provenienti	La Stampa	義務教育と外国人の子供の入学がブームに	ボルタ・パラッツォ地区では外国人の子供の小中学校への入学が増加しているが、全員を受け入れている姿勢の評価
2004.2.6	Il Balon e la nuova faccia di Porta Palazzo	Il Sole 24 Ore	ボルタ・パラッツォの新しい顔としてのバルーン地区について	社会文化レベルの地区再生に焦点を絞った The Gate プロジェクトへの評価とバルーン地区の蚤の市がよみがえったことに対する評価

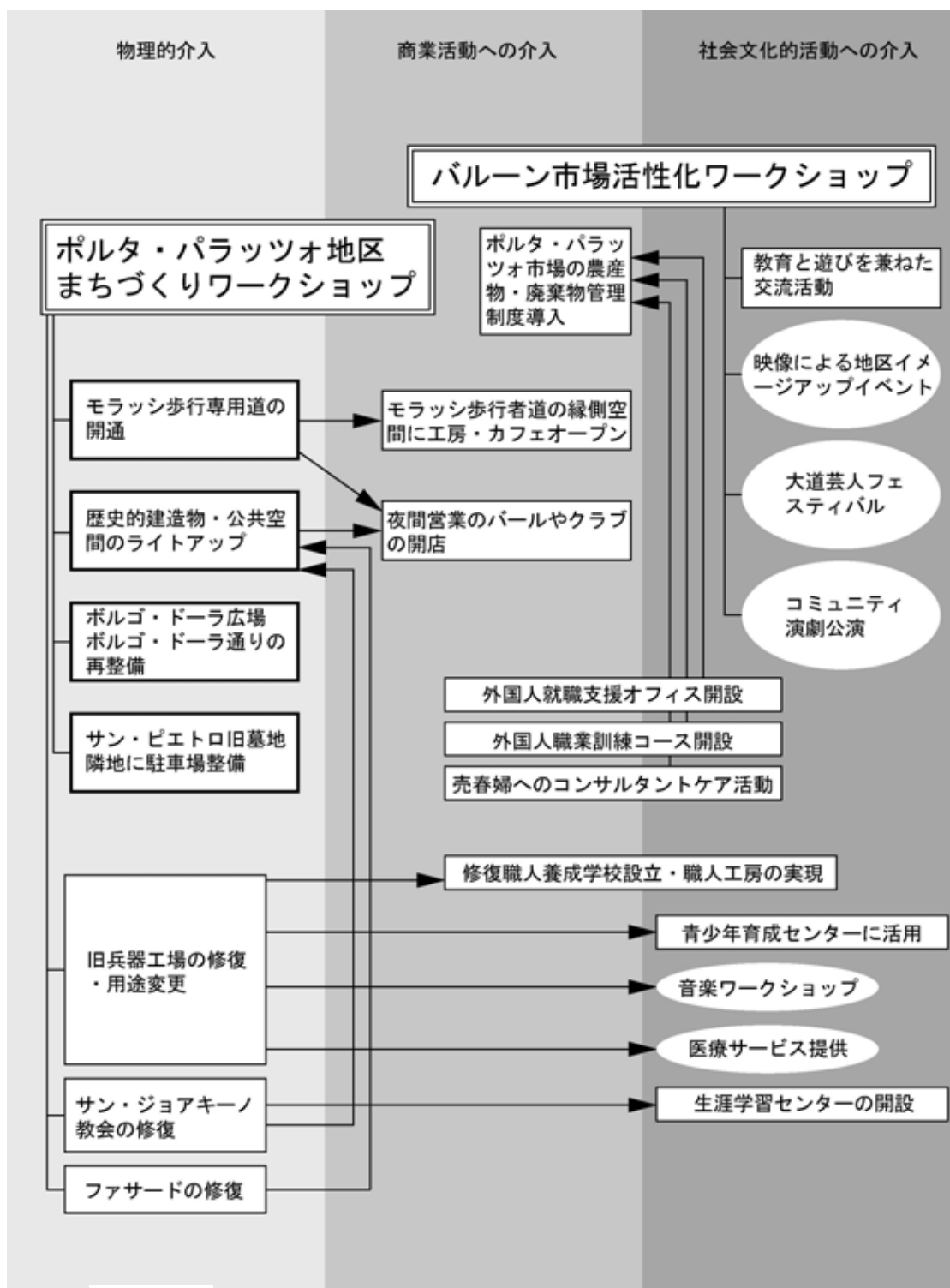


図 5-1 ポルタ・パラッツォ計画委員会主導による活動の相関図

5.3 分析

The Gate プロジェクトが EU から受けた補助金は約 3 億円という小規模なものであった。にもかかわらず、5.1 と 5.2. でみたように、トリノの都市再生が定性的、定量的に評価を受けている。その理由となっている都市再生戦略を以下に分析し、日本の都市再生への示唆を次章で考察する。

統合的アプローチからの都市再生

ポルタ・パラッツォ地区の住環境改善に向けた 5 つのアプローチ（地域商業、安全性向上、サステナビリティ、空間環境改良、社会文化的なつながり）から具体的施策に取り組んでいる。地区が抱えている居住環境問題を改善するには、単独のアプローチでは限界があるため用いられただのではないかと考えられる。また、この統合的アプローチは、（前章 5.2. バリの例で言及している）続く URBAN でも用いられ、評価を受けている。

パートナーシップの実現

多主体間の協働により、物理的介入に商業、社会文化活動を連想させていくことが成功している。パートナーシップを実現した主体を類型すると、

1. 共同出資を行い、財政支援を受けた行政または民間主体
2. 財政支援を受けないが、時間と人手の協力をした行政または民間主体
3. 財政支援を受けないが、プロジェクト実行に参加し協力した行政・民間の共同参加

となる。パートナーシップの内容は物理的介入への共同出資だけではなく、むしろ**社会・文化活動に関する活動に対し、時間と人手の協力をした公共・民間のプロモーターの存在が重要**であったと考えられる。The Gate プロジェクトでは、地元企業、ネットワークなどとの多岐にわたるパートナーシップにより、**水平方向への補完性が保証**されている。この市民社会の絆とまた、市民参加で地区の問題を特定、市民と共に提案をつくるというプロセスなどから、市民と行政、また都市と EU との、国を超えた**垂直方向への補完性**の特徴も見られる。

委員会の機能

ポルタ・パラッツォ計画委員会自体が、行政、民間、宗教法人など、多様な主体の人材から構成されていること（第 3 章参照）また、多岐にわたる活動のパイプ役となりプロモーターに徹していたことが、多主体による官民協働を生み出すことに貢献したのではないかと分析できる。

介入対象地の設定

トリノでは、UPP 応募の時点から介入のターゲットを社会問題の中心となっている都心疲弊地区に絞り、EU の事業に選定され、集中的に都市再生を行ってきた。これはトリノでの緊急整備地域が都心衰退地区にあるということを示唆している。

先にも述べたバリでは、URBAN で疲弊した歴史的な中心市街地をターゲットにし、EU の支援を

受けているが、URBAN ではターゲットを郊外地区に指定したため、採用されなかった。その理由として「再生すれば観光対象としても魅力的で消費を喚起する地区に生まれ変わる潜在的ポテンシャルの低さ」⁵を挙げている。これはUPPと同じコンセプトに基づいたURBAN、そしてEU都市政策自体が、郊外ではなく歴史的な中心部に向いているということを示唆している。

⁵ Barbanente,A., Tedesco,C. (2002) *The European Urban Initiative: Multi-Level Learning Processes Between Successes and Failures*, Conference Urban and Spatial European Policies

第6章 結

近い将来、日本においても、少子高齢化、雇用、居住など従来の社会問題にさらに移民などの社会問題が複雑になるのに伴って、EU のような統合的アプローチからの都市再生が重要になるであろう。

また、統合的アプローチを推進していく方法として、パートナーシップの実現が必要とされることがトリノの事例を通して明らかになった。官民協働がなければ、少ない補助金で多くの施策を打ち出し、それらの施策に連動した自発的な社会文化的活動は派生しなかったであろう。官民協働により、補助金だけに拠らない都市再生を市民の知恵を生かし、実現することが望まれる。

第1章で概観したとおり、日本においても非営利組織や住民がネットワークを活かした水平的な補完の実践は増えつつあるが、主体的に事業の管理・運営に関わる事例はまだ少ない状況である。また、EU のように国を超えた都市レベルでのまちづくりなど、市民、市、県、国が互いに垂直的な軸で補完しながら進めていく必要があると考える。EU のような水平的かつ垂直的補完性を新しい試みで実践していくことが求められる。

現在の日本において、小泉内閣の都市再生本部が指定する緊急整備地域は、東京で言えば、六本木や汐留など、明らかに経済発展が見込まれる地区が多く指定されている。一方、トリノのプロジェクトでは、経済発展が見込まれる地域ではなく、都心部で社会的問題を抱えた地域にターゲットを絞っていた。本当に整備が急がれる地域はどこなのか、経済が上向けば都市も上向くのかを再考する必要性が、トリノの The Gate プロジェクトから明らかになった。

参考文献

第1章

- 文献1 宇沢弘文「経済学と人間の心」東洋経済社、2003
- 文献2 (社)日本建築学会「まちづくり教科書第1巻 まちづくりの方法」丸善、2004
- 文献3 佐藤滋他「住み続けるための新まちづくり手法」鹿島出版社、1995
- 文献4 岡部明子「サステイナブルシティ」学芸出版社、2003
- 文献5 山谷明「防災まちづくり実践地区探訪 東京のインナーシティを歩く」『造景14』建築資料研究会、1998
- 文献6 山本修哉「向島の密集市街地とまちづくりの取り組み」『造景32』建築資料研究会、2001
- 文献7 福川裕一「ぼくたちのまちづくり 商店街を救え」岩波書店、1999
- 文献8 矢作弘「都市はよみがえるか 地域商業とまちづくり」岩波書店、1997
- 文献9 八甫谷邦明「まちのマネジメントの現場から 自己変革するまちづくり組織」学芸出版社、2003
- 文献10 西川芳明他「市民参加のまちづくり NPO・市民・自治体の取り組みから」創成社、2001
- 文献11 川村健一他「サステイナブルコミュニティ 持続可能な都市のあり方を求めて」学芸出版社、1995
- 文献12 (社)日本建築学会「まちづくり教科書第6巻 まちづくり学習」丸善、2004
- 文献13 宇沢弘文「社会的共通資本」岩波新書、2003
- 文献14 宇沢弘文「ゆたかな国をつくる 官僚専権を超えて」岩波書店、1999
- 文献15 Commissione Europa (2000) "Progetti pilota urbani Serie, 1997-1999"
- 文献16
- 資料1 第1回地域再創生「いいまちづくりフォーラム」 - 「(人とまちを繋ぐ)新しい価値観の創造へ」 - NPO 地域再創生プログラム、2004年11月17日

第2章

- 文献1 Città di Torino (1996) *Spazio Torino: Idee e Progetti per la Requalificazione Urbana*
- 文献2 M. Teresa Bonardi (1988) *Canali e Macchine Idrauliche nel Paesaggio Suburbano : Acque Ruote e Mulini a Torino*, Collana Blu
- 文献3 Vera Comoli Mandracci (1988) *La fortificazione del Duca e i mulini della Città : Acque, ruote e mulini a Torino*, Collana Blu
- 文献4 Vera Comoli Mandracci (1983) *Torino*, Roma-Bari, Laterza
- 文献5 Cesare Bianchi (1984) *Porta Palazzo e Il Balon storia e mito*, Il punto
- 文献6 Giuseppe Colli (2002) *Storia di Torino Dalle origini ai giorni nostri*, Il punto

- 文献7 Città di Torino Assessorato all urbanistica (1992) Piano Regolatore Generale di Torino, *Qualità e valori della struttura storica di Torino*, Città di Torino
- 文献8 a cura di Donato Severo (1996) *Filippo Juvarra*, Zanichelli
- 文献9 Società degli Ingegneri e degli Architetti in Torino (2000) *Ventisei Itinerari di Architettura a Torino*, SIAT
- 文献10 CICESNE; Centro Italiano di Collaborazione per lo Sviluppo Edilizio delle Nazioni Emergenti (1997) Un Mercato e i suoi Rioni Studio sull area di Porta Palazzo- Torino, CICESNE
- 文献11 伊藤滋他 (2004)「欧米のまちづくり・都市計画制度 サステイナブルへの道」ぎょうせい
- 文献12

第3章、4章

- 文献1 Ministero dei Lavori Pubblici (2000) Programma Urban-Italia Europa, nuova politiche urbane, INU
- 文献2 Città di Torino (1994) Progetti per il PRG, Città di Torino Assessorato dell urbanistica
- 文献3 Città di Torino (1994) Ambiente urbano, tessuto edilizio e architettura nella zona centrale di Torino, Città di Torino Assessorato dell urbanistica
- 文献4 Comitato Porta Palazzo (2001) Final Report, Unione Europa FESR
- 文献5 Comitato Porta Palazzo (2001) Fuori Orario, Unione Europa FESR
- 文献6 Comitato Porta Palazzo (2001) Balon al Centro, Unione Europa FESR
- 文献7 Comitato Porta Palazzo (1999) Concorso Internazionale di Progettazione, Unione Europa FESR
- 文献8 Giuseppe Torricella (1868) Torino e le sue Vie illustrate con cenni storici, Le Livre Precieux

第5章

- 文献1 Francesca Gelli, ECPR Joint Sessions Workshops, Grenoble 6-11 April 2001, FEDERALIZATION PROCESS, PARTICIPATION AND DEMOCRACY IN ITALY, The Examples of the Veneto Region Constitutional Chart and of City of Turin New Urban Policies
- 文献2 Barbanente, A., Tedesco, C. (2002) "Bari. Un nuovo volto per il Borgo Antico", Il Programma Urbana e l'innovazione delle politiche urbane. Esperienza locali: contesti, programmi, azioni, Franco Agnelli / Diap, Milano
- 文献3 Barbanente, A., Tedesco, C. (2002) *The European Urban Initiative: Multi-Level Learning Processes Between Successes and Failures*, Conference Urban and Spatial European Policies

トリノ The Gate プロジェクトにみる都市再生戦略に関する研究

Study on Urban Regeneration Policies of The Gate Project in Turin

学籍番号 26722
氏名 笹原 景子 (Sasahara, Keiko)
指導教官 大野 秀敏 教授

第1章 序章

1.1. 研究の背景と目的

1970年代からすでに重工業産業などの停滞が都市を衰退させ、失業者問題、社会的排除の問題、貧困問題などが顕在化しはじめていた欧州諸国では、都市問題に対する政策の必要が高まり、EU支援による都市再生プロジェクトが推進されてきた。都市問題に照準を合わせた初のEUによる補助事業として知られているのが、都市パイロット事業 (Urban Pilot Project、) である。

本研究では、多くのヨーロッパ諸都市が抱える歴史的都心の衰退という普遍的な問題に対し、UPPの補助を得て都市再生に取り組んだトリノを研究事例とし、都市再生戦略の分析を行うことで、日本のまちづくりに対する示唆を得ることを目的とする。

1.2. 既往研究

EU都市パイロット事業に関連する主な研究としては次のようなものがある。岡部(2003)¹は、EUの都市再生政策の変遷を論じる中で、スペインで実施されたUPPの事例を紹介している。また、福原(2004)²は、UPP事業の枠組みを概説するとともに、ベルギーを事例に、事業内容と成果について具体的に論じている。しかし、UPPの事業事例を詳細に論じているものは不在である。

1.3 研究の対象・方法

トリノの歴史的市街地に位置するポルタ・パラッツォ地区で実行されたThe Gateプロジェクト介入地区を対象に、プロジェクト委員会が発行している文献の調査、プロジェクト

委員会へのヒアリング、介入地区の現地見学を行った。帰国後は、委員会局長 Lida Curti 女史へのメールでの質問を継続的に行った。

1.4. EUの都市政策とUrban Pilot Projectの概要

EUの都市再生支援事業は以下のようになっている。(表1参照)

UPPでは地域総局が直接都市に呼びかけて、革新的な手法の都市発展事業を募集した。UPPではあらかじめ国別の枠を設定せず、都市の規模を問わず、自治体のイニシアティブで応募できる方式をとった。また、UPPの主旨を発展させてサステナビリティの方向性を明確に提示し、交通渋滞から老朽化した建造環境や経済不振まで幅広い都市問題に対して、ハード面のインフラ整備と環境・社会・経済支援を連携させた都市戦略を設定して、サステナブルな発展と市民生活の質の向上をもたらす革新的な試みが求められた。

表1 地域政策局による都市再生支援事業

事業名	実施期間	基金枠	実施都市数	主な目的
UPP I	1989-1993	構造基金 Innovative Measures (先進的取組み)	33都市	革新的都市再生手法の創出 幅広い都市問題の解決
UPP II	1995-1999		26都市	革新的手法の都市発展事業の開発
URBAN I	1994-1999	構造基金 Community Initiatives (共同体主導)	118都市	社会的・環境的・経済的社会的問題の解決
URBAN II	2000-2006		70都市	中小都市の支援と都市再生事例の共有

1.5. トリノにおけるUPP (The Gateプロジェクト)の目的

トリノは、1996年に「The gate living not leaving(ポルタ・パラッツォ地区から離れないで住みつづけるために)」と題し、ポルタ・パラッツォ地区の生活・労働条件の改善とマ

イノリティに属する人々を社会的・経済的に取り込むことをメインテーマとし、欧州地域開発基金の都市パイロットプロジェクトに応募した。計 503 都市の応募の中、トリノは UPP

対象 26 都市の 1 つとして選定され、欧州地域開発基金の先進的取組みの枠組みから 2.582.300 ユーロの補助金を受けている。

商業活動、安全、サステナビリティ、空間環境、社会・文化の 5 つのアプローチを基本に、多岐にわたる活動を生み出している。

第 2 章 The Gate プロジェクト対象地の概要

2.1. プロジェクト対象地ポルタ・パラッツォの位置と歴史の変遷



図1 プロジェクト対象地区と地区内にある各種主要施設の位置

トリノ市はイタリア北西部に位置し、ピエモンテ州の州都である。広域圏人口は約 130 万人でイタリア第 4 の大都市である。

トリノ市は欧州最大規模の屋外市場を歴史的中心部に有している。ポルタ・パラッツォと呼ばれるその市場は、18 世紀から発展し、今日に至るまで長らく市民の胃袋となってきた。しかし、歴史的に産業・職人的な発展をしてきた地区独自の文脈と 1950 年代以降の国内・国外からの移民の移住、失業問題などが原因となり、市民に終の住みかとして選ばれない疲弊地区と成り果ててしまった。そこでトリノ市は、住みつづけられるまちを目指して、1996

年から EU の都市再生事業である UPP を用いて、中心市街地再生に取り組み始めた。

2.2. The Gate プロジェクト介入以前におけるポルタ・パラッツォ地区の状況³

年齢・性別構成の特徴

高齢化しており、子育てをするファミリー層がこの地区から離れる傾向にある。

外国人移民 - 市全体の約 30% がプロジェクト対象地区に集住。その 9 割が EU 国籍外の外国人移民。

犯罪状況

不法滞在、贓物罪、外国人グループ間の抗争、売春、麻薬密売が問題とされている。

失業率 - 20.6%

第 3 章 The Gate プロジェクト実行のための組織

3.1. The Gate ポルタ・パラッツォ計画委員会の設立と機能

プロジェクトの資金として、EU からの補助金の同額が、トリノ市の財源からプロジェクトに割振られており、1.032.913 ユーロを公共事業省からの補助を得ている。さらに、地元の企業である CRT 銀行、サン・パオロ銀行、トリノ商工会議所は雇用に関する特定のイニシアティブに 258.288 ユーロを出資している。

1998 年、トリノ市を母体とする NPO 団体であるポルタ・パラッツォ計画委員会が設立された。この委員会は、まちづくりのプロモーターまたはローカルパートナーとして、公共と民間企業の両方による協働を促進する機関である。なお、The Gate プロジェクトの裁量権は、この委員会に委ねられている。

3.2. 市民参加ワークショップ「Fuori Orario」⁴

The Gate プロジェクト始動に先駆けてポルタ・パラッツォ計画委員会が開催したのが、市場終了後のポルタ・パラッツォ地区の居住環境改善に関して話し合う市民参加ワークショップであった。1999 年 6 月 12 日から 16 日にかけて総勢約 169 名の市民が参加し、37 の計画・提案に集約された。さらに細分化した区域別の問題と特性を特定するプロセスを経て、

可能な解決法について議論している。

提案された 37 の改良案は、要請の多い順から以下の 5 つの軸に分けられる。

1. 公共空間の改良に関する提案
2. 歴史的建築物の有効利用に関する提案
3. 社会・文化活動に関する提案
4. 地区商業活動に関する提案
5. 緑・環境整備に関する提案

これらの提案は、地区の抱える問題を解決すべく、The Gate プロジェクトを実行していく上でのベースとなっている。

第4章 The Gateプロジェクトの具体的施策の内容

市民参加により出された提案は、地区の経済発展、社会文化活動、建築物・市場・公共空間への物理的介入のイニシアティブなどが入り組んだ複雑な介入プログラムに発展している。これらの委員会主導による 19 のイニシアティブは以下の 5 つの活動方針に沿うものである。

4.1. 地区内の経済発展を促進するための取組み

- ・蚤の市活性化のワークショップを開催。歩行者空間整備に連携して、新たなカフェや修復職人による工房などの開店
- ・ポルタ・パラッツォ市場の農産物に品質管理制度の導入
- ・外国人への就職支援オフィス、職業訓練コースを開設による雇用機会の提供

4.2. 安全ネットワークをつくる取組み

- ・売春婦・麻薬中毒者に対するコンサルタントケア活動
- ・地区内の若者が自由に学習できる教育施設開校、外国人コミュニティへの情報提供活動

4.3. サステナブルな環境を目指した取組み

- ・ポルタ・パラッツォ市場内の廃棄物リサイクルシステムの構築、
- ・市場内の生ごみのコンポスト化

4.4. 空間環境改良を目指した取組み

- ・旧兵器工場の修復、38 の職人工房を内部に

実現

- ・公募による 64 のコンドミニアムのファサード修復
- ・旧モラッシ水路の歩行者空間化、夜間開業のバルなどの開店と連携駐車場、広場、通りの一体的な整備により、歩行者ネットワーク化を図る
- ・歴史的建築物、公共空間のライトアップ

4.5. 社会・文化的なつながりをつくる取組み

- ・多民族文化の紹介パンフレットや料理のレシピを制作、配布。
- ・地区内の修復された建物内での各種ワークショップ、教育活動。

第5章 The Gateプロジェクトの定量的・定性的評価

5.1 定量的評価

- ・失業率：20.6%（1995）から 12.8%へ減少
- ・犯罪率：3.32%（1995）から 3.23% へ減少

5.2 定性的評価

地元有力紙（La Stampa）では、プロジェクト終了後から現在までポルタ・パラッツォ地区の再生に関する記事が 12 回掲載され、委員会の革新的なアプローチと地区内に賑わいを取り戻したことが評価されている。

また、2001 年、フランスで行われた都市シンポジウムでは、The Gate プロジェクトの目的が「地元行政機能の発展とともに、地元コミュニティの自己組織力を養うのを促進する」と専門家による評価を受けている。

空間に対する介入に関して、選択的に介入した建物やアクセス道を修復し、市民の目をひきつけるようなソフトを入れ込んでいるのが評価できる。例えば、旧モラッシ水路の歩行者空間化に伴い、縁側空間を作り、そこにカフェや工房を開店させている事例がある。これは商業を歩行者空間に入れ込むことで、回遊性が高く、歩いて楽しい空間になるように計画されている。かつ、店の営業形態を深夜営業にすることで、地区内の治安の見張り役としても機能する。このように、1 つの物理的介入に商業活動や社会文化活動を発生させ、1 つの場に多機能性を持たせ、賑わいを

作り出している。

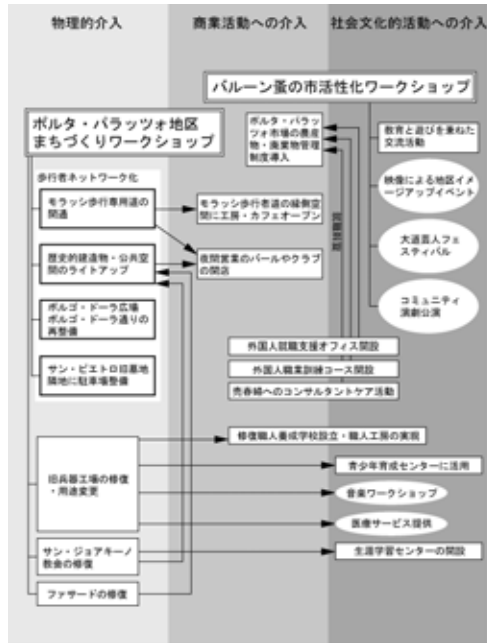


図2 ボルタ・パラッツォ計画委員会主導による活動の相関図

5.3. 分析

トリノがEUから受けた補助金は約3億円という小規模なものであった。にもかかわらず、第5章でみたようにトリノの都市再生が評価を受けている。その理由となっている都市再生戦略を以下に分析し、日本の都市再生への示唆を考察する。

統合的アプローチからの都市再生

地区環境改善に向けた5つのアプローチから具体的施策に取り組んでいる。地区が抱えている居住環境問題を改善するには、単独のアプローチでは限界があるため用いられたのではないかと考えられる。

パートナーシップの実現

多主体間の協働により、物理的介入に商業、社会文化活動を連想させていくことが成功している。パートナーシップの内容は物理的介入への共同出資だけでなく、むしろ**社会・文化活動に関する活動に対し、時間と人手の協力をした公共・民間のプロモーターの存在が重要であったと考えられる**。この地元ネットワークなどとの多岐にわたるパートナーシップにより、**水平方向の補完性が保証されている**。また、市民参加で地区の問題を特定、

市民と共に提案をつくるというプロセスなどから、市民と市、また都市とEUとの、国を超えた**垂直方向への補完性**の特徴も見られる。

委員会の機能

ボルタ・パラッツォ計画委員会自体が多様な主体の人材から構成されており、各活動のパイプ役となりプロモーターに徹していたことが、多主体による官民協働を生み出すことに貢献したのではないかと分析できる。

介入対象地の設定

トリノでは、UPP 応募の時点から介入のターゲットを社会問題の中心となっている都心疲弊地区に絞り、EUの事業に選定され、集中的に都市再生を行ってきた。これはトリノでの緊急整備地域が都心衰退地区にあるということを示唆している。

第6章 結

近年、日本においても、社会問題の複雑化に伴って、EUのような総合的アプローチからの都市再生が重要になるであろう。

また、パートナーシップの実現に関しては近年の日本の先進的まちづくりにおいて、市民と行政が協働する例がみられている。官民協働により、補助金だけに抛らない都市再生を市民の知恵を生かし、実現することが望まれる。また、EUのように国を超えた都市レベルでのまちづくりなど、市民、市、県、国が互いに補完しながら進めていく必要があると考える。

日本の都市再生本部が指定する緊急整備地域は、経済発展が見込まれる地区が多く指定されている。本当に整備が急がれる地域はどこなのか、経済が上向けば都市も上向くのかを再考する必要性が、トリノのまちづくり事例から明らかになった。

¹ 岡部明子(2003) サステイナブルシティ EUの地域・環境政策、学芸出版社
² 福原由美(2004) Urban Pilot Project の事業枠組みとケーススタディ アントワープのBOMプロジェクトの場合
³ Centro Italiano di Collaborazione per lo Sviluppo Edilizio delle Nazioni Emergenti (1997) Un Mercato e i suoi Rioni-Studio sull'area di Porta Palazzo-Torino, CICESNEを参考にまとめた。
⁴ Il Comitato di Porta Palazzo (2002) Final Report, Unione Europea FESR Fondo Europeo per lo Sviluppo Regionale を参考にまとめた。